共立女子職業学校櫻友會裁縫研究部編

増訂 裁縫新教科書

メートル法適用

上巻

大正十五年三月二十四日
文部省檢定濟
女子師範學校・高等女學校用教科書

增訂 裁縫新教科書 メートル法適用 上卷

共立女子職業學校 櫻友會裁縫研究部編

東京 大日本圖書株式會社

凡例

一本書は實科高等女學校を主とし、高等女學校女子師範學校用の裁縫教科書として編纂したるものにして、分ちて上下二卷となせり。

一教材は文部省所定の教授要目に據り、本部が多年研究したる實地の成績と教授の理論に照らして、其の序次を定めたり。小細工物の如き嚴密に序次を定めがたきものは、便宜一括して之れを卷末に載せたり。

一學校の種類により教授時數を異にし、隨ひて教授事項にも自ら繁簡の別あり。故に本書中或る事項は反復實習せしめ、又或る事項は單に説明、參考に止むる等教授者の適當なる考慮

を要す。

一本書は一切の寸法をメートル尺に改め、其の對照として、舊來用ひ慣れたる鯨尺を附記したり。本來我國の裁縫は一般に鯨尺を本位として發達したるものなれば、其の寸法を、單に換算法に依つて算出すれは細微なる端數を生じ、實用上甚だ不便なるを免れず。さればとて漫に簡便なる數に止むれは技術の進歩を妨くる憂なき能はず。本部に於ては、此の點につき特に講究審議を重ね、或は大を取り或は小に從ひ、技術上支障なき範圍に於て、端數を省略し、努めてメートル尺實用上の便を圖りたり。

大正十四年十一月

共立女子職業學校櫻友會裁縫研究部

代表者　中川とう

増訂

裁縫新教科書（メートル法適用）上巻

目次

第一章　總論……一
第二章　裁縫の基礎的技術……五
第一　運針……五
第二　絲の結び方……七
第三　絲の留め方……八
第四　絲の繼ぎ方……九
第五　縫ひ合せ方……一〇
第六　襞の掛け方……一五
第七　紉け方……一七
第八　衣類仕立の心得……一八

第三章　單衣襦袢……三
第一節　本裁襦袢……三
第一　本裁襦袢各部の名稱……三
第二　本裁襦袢普通仕立上げ寸法……二四
第三　本裁襦袢裁ち方・積り方……二五
第四　本裁女襦袢標附け方……二七
第五　本裁女襦袢縫ひ方……二八
第二節　四つ身襦袢……三〇
第一　四つ身襦袢普通仕立上げ寸法……三〇
第二　四つ身襦袢裁ち方・積り方……三一
第三節　三つ身襦袢……三二
第一　三つ身襦袢普通仕立上げ寸法……三二
第二　三つ身襦袢裁ち方・積り方……三二

第四節　一つ身襦袢……三五
第一　一つ身襦袢普通仕立上げ寸法……三五
第二　一つ身襦袢裁ち方・積り方……三五
第四章　本裁女單衣……三四
第一　女單衣各部の名稱……三五
第二　本裁女單衣普通仕立上げ寸法……三七
第三　本裁女單衣裁ち方・積り方……三八
第四　部分縫　袖……四二
第五　本裁女單衣標附け方……四五
第六　本裁女單衣縫ひ方……四六
第五章　本裁男單衣……五〇
第一　本裁男單衣普通仕立上げ寸法……五一
第二　本裁男單衣裁ち方・積り方……五一

第三　部分縫　揚……五二
第四　本裁男單衣標附け方……五三
第五　本裁男單衣縫ひ方……五四
第六　本裁單衣各種裁ち方積り方……五五

第六章　中裁小裁單衣……五八

第一節　四つ身單衣……五八
第一　四つ身單衣普通仕立上げ寸法……五八
第二　四つ身單衣裁ち方積り方……五九
第三　四つ身單衣標附け方……六一
第四　四つ身單衣縫ひ方……六三

第二節　三つ身單衣……六五
第一　三つ身單衣普通仕立上げ寸法……六五
第二　三つ身單衣裁ち方積り方……六六
第三　部分縫　筒袖元祿袖……六九

第四　三つ身單衣標附け方縫ひ方……七一

第三節　一つ身單衣……七二
第一　一つ身單衣普通仕立上げ寸法……七四
第二　一つ身單衣裁ち方積り方……七四
第三　部分縫　濶袖……七六
第四　一つ身單衣標附け方……七七
第五　一つ身單衣縫ひ方……七八

第四節　中裁小裁單衣各種裁ち方積り方……八〇

第七章　綿布の繕ひ方……八五
第一　接ぎ方……八五
第二　繼ぎ方……八七

第八章　本裁女袷……八八
第一　本裁女袷各部の名稱……八九

第二　本裁女袷裁ち方・積り方……九〇
第三　部分縫　袖・褄……九三
第四　本裁女袷標附け方……九九
第五　本裁女袷縫ひ方……一〇一
第九章　本裁男袷……一〇五
第一　本裁男袷裁ち方・積り方……一〇五
第二　本裁男袷標附け方……一〇五
第三　本裁男袷縫ひ方……一〇六
第十章　四つ身袷……一〇八
第一　四つ身袷裁ち方・積り方……一〇八
第二　四つ身袷標附け方・縫ひ方……一〇九
第十一章　本裁女綿入……一一三
第一　本裁女綿入裁ち方・積り方……一一三

第二　部分縫　袖・褄……一一三
第三　本裁女綿入標附け方・縫ひ方……一一七
第十二章　本裁男綿入……一二三
第一　本裁男綿入裁ち方・積り方……一二三
第二　本裁男綿入標附け方・縫ひ方……一二三
第十三章　一つ身綿入……一二五
第一　一つ身綿入裁ち方・積り方……一二五
第二　部分縫　溜袖……一二六
第三　一つ身綿入標附け方・縫ひ方……一二八
第十四章　本裁中裁小裁の各種裁ち方積り方……一二八
第十五章　長襦袢……一三六
第一　袷長襦袢各部の名稱……一三七

第二　袷長襦袢普通仕立上げ寸法……一三九
第三　袷長襦袢裁ち方・積り方……一三九
第四　袷長襦袢標附け方……一四二
第五　袷長襦袢縫ひ方……一四五

第十六章　女袴……四七
第一　女袴各部の名稱……四八
第二　本裁女袴(後三つ襞)普通仕立上げ寸法及び各部の寸法割出し方……五〇
第三　本裁女袴(後三つ襞)裁ち方・積り方……五五
第四　本裁女袴(後三つ襞)標附け方……一五三
第五　本裁女袴(後三つ襞)縫ひ方……一五五
第六　本裁女袴(後一つ襞)……一六〇
第七　本裁女袴(後重ね襞)……一六三
第八　中裁・小裁女袴普通仕立上げ寸法……一六四
第九　中裁・小裁女袴裁ち方・積り方……一六五

第十七章　本裁女綿入羽織……六八
第一　本裁女綿入羽織各部の名稱……一六八
第二　本裁女綿入羽織普通仕立上げ寸法……一六九
第三　本裁女綿入羽織裁ち方・積り方……六九
第四　部分縫　身頃・襟・衿……一七三
第五　本裁女綿入羽織標附け方……一七九
第六　本裁女綿入羽織縫ひ方順序……一八〇

第十八章　本裁男綿入羽織……八二
第一　本裁男綿入羽織普通仕立上げ寸法……八二
第二　本裁男綿入羽織裁ち方・積り方……八三
第三　本裁男綿入羽織標附け方・縫ひ方……八四

第十九章　本裁袷羽織……一八五
第一　本裁男袷羽織……一八五
第二　本裁女袷羽織……一八九

第三　本裁羽織各種裁ち方・積り方……一九〇
第二十章　中裁小裁綿入羽織……一九三
第一節　四つ身綿入羽織……一九三
第一　四つ身綿入羽織普通仕立上げ寸法……一九四
第二　四つ身綿入羽織裁ち方・積り方……一九四
第三　四つ身綿入羽織標附け方・縫ひ方……一九六
第二節　三つ身綿入羽織……一九六
第一　三つ身綿入羽織普通仕立上げ寸法……一九六
第二　三つ身綿入羽織裁ち方・積り方……一九七
第三節　一つ身袖無綿入羽織……一九八
第一　一つ身袖無綿入羽織普通仕立上げ寸法……一九八
第二　一つ身袖無綿入羽織裁ち方・積り方……一九八
第三　一つ身袖無綿入羽織標附け方……二〇〇
第四　一つ身袖無綿入羽織縫ひ方……二〇一

第四節　中裁・小裁羽織各種裁ち方・積り方……二〇三
第二十一章　絹布毛織……二〇六
第一　絹布單衣……二〇六
第二　毛織單衣……二〇八
第三　絹布毛織の繕ひ方……二〇九
第二十二章　腹合帶……二一四
第一　腹合帶標附け方……二一四
第二　腹合帶縫ひ方……二一四
第二十三章　子供腹掛寢冷え知らず……二一八
第一節　子供腹掛……二一八
第一　子供腹掛裁ち方……二一八
第二　子供腹掛縫ひ方……二一八
第二節　寢冷え知らず(二―三歳用)……二一九

第一　寢冷え知らず(二―三歳用)裁ち方……二一〇
第二　寢冷え知らず(二―三歳用)縫ひ方……二一〇
第三節　寢冷え知らず(五―六歳用)……二一一
第一　寢冷え知らず(五―六歳用)裁ち方……二一一
第二　寢冷え知らず(五―六歳用)縫ひ方……二一三
第二十四章　婦人股引……二一五
第二十五章　手提……二一六
第一　輕便手提……二一六
第二　輪附手提……二一七
第三　羽衣手提……二二〇

―〔目次終〕―

増訂 裁縫新教科書（メートル法適用）上卷

第一章　總論

衣類の裁縫とは、總べて、布帛の積り方、裁ち方、縫ひ方及び繕ひ方等をいひ、何れの家庭にありても、必要ならざるはなし。又これらは女子に適當せる仕事にして、我が國に於ては、古來之れを以て女子の修むべき技藝中、最も重要なるものとなせり。

衣類の裁縫は、衣類の種類によりて、其の方法を異にするのみならず、材料の品質により取扱ひを違へざる可らず。されば、裁縫を修むる者は、諸種の衣類に亘りて、其の方法を攻究すべきは

勿論、各種の材料につきて、それ〴〵の取扱ひ方を學ぶべきなり。

運針は縫ひ方の基本にして、其の習熟の如何は裁縫の巧拙遲速に關すること最も大なり。されば、運針は獨り初學に於て大に之れを努むべきのみならず、上級に至りても、尙ほ常に其の練習を怠るべからざるなり。

衣類は部分によりて、其の扱ひ方を異にせるが故に、各種の衣類につき、所謂部分縫の練習に力を用ふることは、技藝の上達に頗る必要なり。

衣類の裁ち方積り方は、衣類を調製するに當り、第一に心得置かざるべからざることなり。而して、其の裁ち方積り方は、布幅の廣狹、或は兩面片面等の相違により、多少の工夫を要すべし。されば、先づよく其の普通なる方法を會得して之れを諳記し、然る後ち、之れを種々の布帛に應用せんことを努むべし。

要ずるに、技藝の熟達を圖るには特に反覆練習を肝要とす。故に、之れを學ぶ者は、成るべく寸暇を利用して練習を積み、以て神速巧妙の域に達せんことを心掛くべし。

第一　裁縫用具

裁縫用具の主なるものを擧ぐれば、左の如し。

針　針箱　裁板　尺度　鋏　指貫　筥　火熨斗　アイロン　烙鏝　烙鏝板　霧吹　火熨斗蒲團

其の外、衣紋掛・綿延臺・帶締器・纐纈飯板・纐纈飯筥・目打・錐・鑿・孔穿臺・槌の如きも、時に必要あるが故に、豫め備へ置くを宜しとす。

針には、普通針・印針・メリケン針等の種類あり。之れを用途に

よりて區別すれば、縫針（長さ三糎、曲尺一寸）待針（長さ五七糎、曲尺一寸九分）紉針（長さ五糎、曲尺一寸六七分）綴針（長さ六糎、曲尺二寸）等となる。縫針は摘みて指貫に當て、指頭より凡そ五粍程（一二分）長きを適度とす。

第二　絲

裁縫に用ふる絲の主なる種類を擧ぐれば左の如し。

一、縫絲　木綿絲　唐絲　小町絲　絹絲　麻絲　カタン絲

二、躾絲　唐絲　絹絲（そべ）　麻絲　唐麻絲

三、飾絲　練絲　太白　蛇腹絲　孔絲

第三　衣類

普通衣類に屬するものの名稱を擧ぐれば、大畧左の如し。

襦袢　單衣　袷　綿入　帶　綿入羽織　袷羽織

單羽織　袴　被布　合羽　コート　涎掛　前掛

シヤツ　ズボン下　足袋　半纏　腹掛　股引　脚半

男女洋服　帽子　夜着　蒲團　蚊帳

第二章　裁縫の基礎的技術

第一　運針

運針を習ふには、教師の指導に基きて姿勢を正し、素縫より始めて本縫に入り、最初は專ら正しき姿勢を保ちて、正しき手指の運用を學ばんことを勉め、稍〻其の要領を得るに至らば、針目の大

小、縫ひ目の曲直等に注意し、次第に練磨の功を積み、精巧と迅速と両ながら備へんことを努むべし。若し、手指の運用或は身體の姿勢に悪しき習癖を生ずることあらば、啻に技術の上達に不利なるのみならず。終には、身體の健康を損する虞れあるべし。

運針の練習をなすには、特に左の事項について、深く意を用ふるを要す。

一、上體を眞直にし、下腹に力を入るべし。頭を垂れ、胸部を壓迫すべからず。

二、眼と用布との距離は凡そ三〇糎（八―九寸）、両手の開きは約そ二〇糎（五―六寸）を適度とす。

三、輕く両肱を張り、左右の拇指を相向はしめて、両手を同時に働かしむべし。

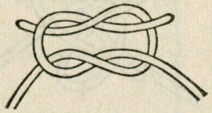
（附言）運針練習のため、並幅七六糎（二尺）の天竺木綿又は絹布を用意すべし。部分縫の練習には、縞及び無地木綿にて、並幅一米（二尺六寸）、半幅九〇糎（二尺四寸）、四つ割幅六五糎（一尺八寸）の布各一枚を準備すべし。

第二　絲の結び方

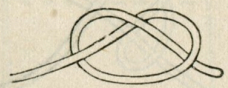
一、**こま結**（むすび）　絲の両端を取りて、圖に示す如く結び合す仕方なり。袷綿入などに於て、**袖口**・**袖附**・**身八つ口**・**衿先**等の**留め**をなす場合に、多く此の結び方を用ふ。

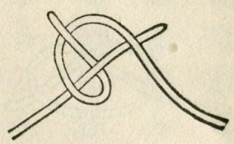
二、**留結**（とめむすび）　絲の端を食指の先に巻き、拇指の腹にて其の絲を撚（よ）りながら結ぶ仕方なり。多く**縫ひ始め**に用ふ。

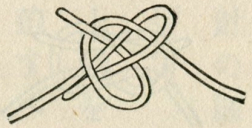
こま結

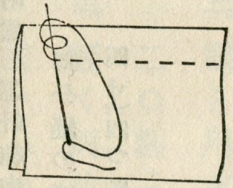


留結




結機


結機


留打

三、**機結**（はたむすび）　絲の両端を取り、右を下に左を上に重ねて左の食指の上に置き、右の絲を廻して、左の絲の下より、両端の絲の間を通し、右端の絲を輪の中に入れ、其の先を左の拇指にて押へ右にて引き締むる結び方なり。

第三　絲の留め方

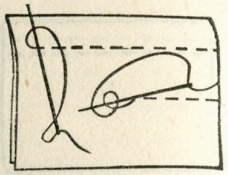
一、**打留**（うちどめ）　針に縫絲をからめて左の拇指にて押へ、引き締むる仕方なり。　主に、**袖下・胴接ぎ・伏せ縫**などの留め方に用ふ。

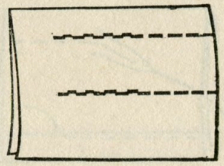
二、**抄ひ留**（すくひどめ）　縫ひ終りの所にて、布を僅に抄ひ、其の絲を、左より右の方へ、針にからめて引き締むる仕方なり。　主に、**袖口・袖附・身頃の身八つ口・衿附**などの留め方に用ふ。

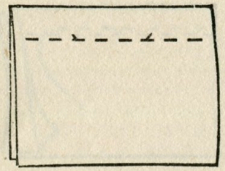
三、**返し留**（かへしどめ）　縫ひ終りを四糎（一寸）餘り縫ひ戻し置く仕方なり。　主に、**脊・脇・衽・袖口・袖附**などの始め終りの留め方に用ふ。

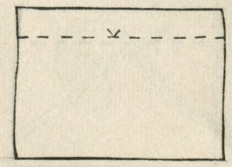
第四　絲の繼ぎ方

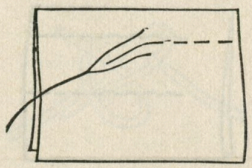
一、**重ね繼**（かさねつぎ）　運針の途中にて絲の盡きたるとき、其の絲を縫ひ込みの方へ一針縫ひて留め、更に絲の端を留め結となし、四糎（一寸）程手前より、前の縫絲の針目に掛けて縫ひ重ぬる仕方なり。　多く縫ひ合せの場合に用ふ。

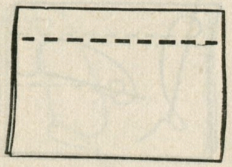

抄ひ留


返し留


重ね繼


繼ぎ結


繼り撚


縫せ合

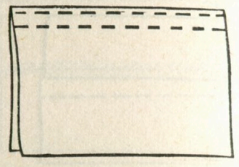
二、**結び繼**　機結にて繼ぐ仕方なり。主に、耳紙又は襖の場合に、途中にて絲を繼ぎ足すときに用ふ。

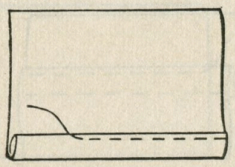
三、**撚り繼**　繼ぐべき絲の端を二つに割り、其の割りたる絲の細き方に、元の絲を四糎(一寸)程撚り合せ、更に之れを他の方に撚り合す仕方なり。主に縫ひ合せ又は紙の場合に用ふ。

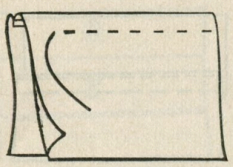
第五　縫ひ合せ方

一、**合せ縫**　布を重ねて、普通に縫ひ合はす仕方をいふ。

普通の縫ひ代は約そ一糎(三分五厘)、針目は、


縫重二


縫り折つ三

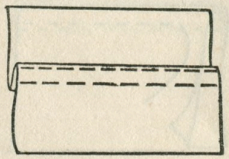

縫袋

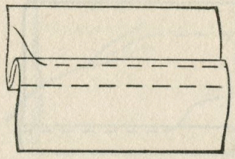
綿布にては五粍以内(一分五厘)、絹布にては四粍以内(一分)、被せは二粍(五厘)を通例とす。

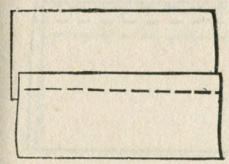
二、**二重縫**　合せ縫の後、縫ひ目の開かざるやう、更に本縫に沿ひて、端の方を縫ひ合す仕方なり。本裁單衣の**脊縫**などに用ふ。

三、**三つ折り縫**　布の端を二度折り、裏折り代の端を並縫になす仕方にして、風呂敷・敷布類の端縫に用ふ。

四、**袋縫**　最初に、布の裏を合せて四粍(一分)許りの縫ひ代に縫ひ置き、折りを附けて引き返し、更に圖の如く縫ひ合す仕方なり。單衣の**袖下**・四つ身及び三つ身の**脊・衽**などを縫ふ場合


縫せ伏


縫せ伏り折

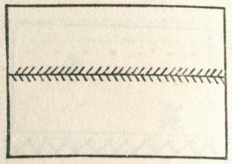

縫ね重

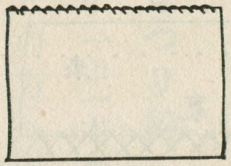
に用ふ。

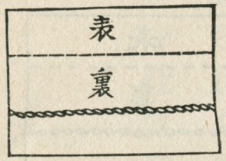
五、**伏せ縫**　布を重ね、一枚を二粍(五厘)引きて縫ひ合せ、縫ひ込みの狭き方へ折り、針目を一・五糎(四分)程とし、表には小さく一針づつ出して、縫ひ込みの端を伏せ附くる仕方なり。布の縫ひ込み二枚共に裁ち目のまゝなるときは、一方の布を六粍(二分五厘)程引きて縫ひ、他方の布にて其の裁ち目を包み、然る後前の如く伏せ附くべし。之れを**折り伏せ縫**といふ。

これらの仕方は、風呂敷などを縫ひ合す場合に、縫ひ込みをおさふるに用ふ。

六、**重ね縫**　裁ち目のまゝ一糎(三分)重ねて二行又は一行に縫ひ合す仕方なり。紐の心地などを足す場合に用ふることあり。


縫せ合き突


縫ひとま



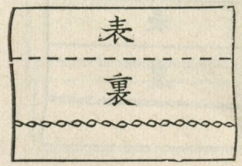
し返半

七、**突き合せ縫**　裁ち目のまゝ布を突き合せ、針目を四粍(一分)許りとなし、一針抜きにて、交互に、双方の布端に四粍(一分)程づつ掛けて、縫ひ合す仕方なり。

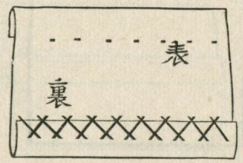
總べて、心地などの足らざるとき、之れを足すには此の仕方を用ふ。

八、**まとひ縫**　布の裁ち目の解れを防ぐために、裁ち端を巻きながら縫ひ行く仕方なり。**鉤衽・衿肩明**其の他解れ易き所に用ふ。

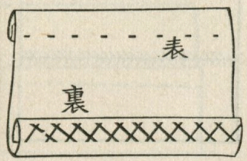
九、**返し縫**　本返し・半返しの二様あり。**半返し**



本返し



千鳥縫(一)



千鳥縫(二)

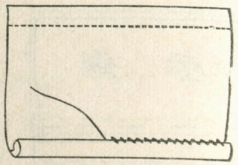
とは、布を合せて一針抄ひ、其の三分の一後に返りては又先きを抄ふ。此の如く繰り返しつゝ縫ひ行く仕方なり。主に、縫ひ合せを密接ならしめんがために用ふ。

布を一針抄ひては其の二分の一後に返り之れを繰り返して縫ひ行く仕方を**本返し**といふなり。

主に、ミシン縫の代りに用ふ。

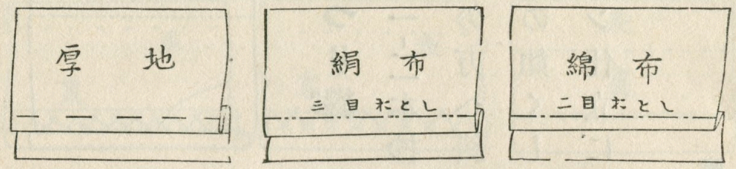
一〇、**千鳥縫**　布の端を折りて、其の左方より絲を掛け始め、先づ表の地絲を一―二本抄ひ、次に四粍(一分)餘り斜に、裏折り代の端より四粍(一分)程の所を抄ひ、再び前の如く、表地を抄ひ、交互に之れを繰り返して、掛け行く仕方なり。毛織又は厚地の單衣仕立などに於て、**伏せ縫**或は**綴**をなすべき場合に此の縫ひ方を用ふ。

圖の(一)はネルの類に、(二)はセルの類に施す仕方を示せるなり。


まつり縫

二、**まつり縫**　布を折り、右の端より絲を掛け始め、先づ表の地絲を一―二本抄ひ、其の針先を裏折り代の端に通し、一粍(二―三厘)程左の方へ斜に進み、前の如く表を抄ひ、又裏折り代の端に通し、此の如くして、繰り返し進み行く仕方なり。主に、毛織又はミシン仕立に於て、綴の場合に此の仕方を用ふ。

第六　襞の掛け方



並　縫　　並　縫　　平　縫

一、**並縫**　被せ山より五粍程（一分五厘）内に、小針を約そ五粍（一分五厘）、大針を約そ三糎（七―八分）の針目に、縫を掛くる仕方なり。小針の數によりて**二目おとし**・**三目おとし**の稱あり。

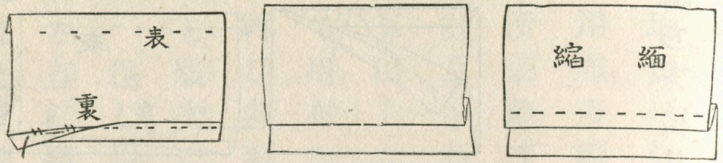
主に、**袖**・**裾**・**衿下**などに用ふ。

二、**平縫**　羽織の衿などの厚地には、表を五糎（一寸二―三分）裏を一・五糎（四分）許りの針目に縫を掛く、之れを平縫といふ。

三、**縫ひ縫**　縮緬・メリンスなどの地質に、並縫の針目にて縫を掛くるをいふ。

四、**隱し縫**　折り被せの亂れを防がん爲に施す縫にして、針目を二・五糎（六―七分）許りとし、表には小さく一目づつ出して縫け置き、着用の際にも取除かざるものなり。

多く、**褄先**・綿入羽織の**前下り**・**胴接ぎ**などの所に用ふ。



第七　紳け方

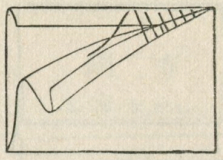
一、**耳紳**　布の耳を一度折りて、針目を表に小さく一つ、裏に二つづつ出し、間を二糎（五―六分）程に、耳より二粍（五厘）許り内を、中を通して紳ける仕方なり。多く、**單衣仕立**の場合に用ふ。

二、**三つ折り紳**　布の端を二度折りて、表に小さく一目づつ針を出し、間を一・五糎（四―五分）程に、

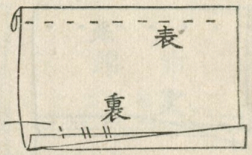
折り山の内側を通して紉け行く仕方なり。

單衣の**袖口**・**衿下**・**裾**の紉け方に用ふ。

三、**本紉**　双方の布の端を折り合せ、針目を一・五糎程（三―四分）とし、折り山より二粍（五厘）許り内を、縫ふ如くに、針を運び行く仕方なり。綿入の**袖口**・**身八つ口**・**衿下**・本裁女物の**裏衿**及び**紐**等を紉ける場合に用ふ。



本紉



三つ折り紉

第八　衣類仕立の心得

一、裁ち方・積り方

(イ)先づ、用布を開きて、織疵・染斑・汚點等の有無、並に其の伸び縮みの工合を改む。

(ロ)地質に從ひて、適宜に裏の方より地伸しを行ふ。

(ハ)用布の總尺を測る。

(ニ)所要の寸法（例へば、袖丈又は身丈の如し。）に基きて、積り方の計算を行ふ。

(ホ)算出したる各部の裁ち切り寸法（袖丈・身丈・衿丈・衽丈）により て、用布を折る。

(ヘ)再び各部の寸法に誤りなきかを檢し、先づ**袖**・**身頃**、次に**衿**・**衽**と順次に裁ち切るなり。

但し、用布に織疵などのあるときは、成るべく之れを隱る方に廻して裁ち合すをよしとす。

二、仕立上げ寸法につきての注意

縫ひ方は精巧なるも、仕立上け寸法の身體に適合せざるは、仕立方の不注意なり。されば、身體の肥瘠長短を考へて、普通仕立上げ寸法に斟酌を加ふること肝要なり。

三、**標附け方の際、用布の据ゑ方**

布帛の表を中にして重ね合せ、袖・身頃・衿・衽等、總べて上體に當る方を左手の方に置く。

袖　袖口の方を向ふに、袖附の方を手前になし置く。

身頃　衿肩明の方を手前に、後身頃の方を上層に置く。

衽　衿下の方を手前の右手に置く。

衿　山の方を左方に、附の方を向ふに置く。

四、**縫ひ方**

標通りに折りを附け、待針を打ちて、針道を正しく縫ひ、又十分に絲を扱き置くべし。絲扱きの不十分なる時は縫ひ目に伸び縮みを生じて、仕立てばへ宜しからず。且つ、縫ひ目の綻びやすき憂ひあり。

五、**仕上げ**

縫ひ上がらば、仕立上げ寸法を檢し、落針などの粗忽なきかを調べ、絲屑・塵埃等を拂ひ、然る後ち、地質により霧若くは火熨斗・アイロンを用ひて丁寧に仕上げをなすべし。火熨斗を用ふるときは、よく其の火加減を試み、白綿モス等の布片を當てて、裏の方より始めて表の方に火熨斗を掛け、終りて、本疊になし置くなり。

以上述ぶる所は、衣類仕立に關する心得の大要なり。これらは裁縫の全般に亘りて必要なる事項なれば、豫めよく熟知し置

かざるべからず。以下煩雑を避くるがため、特に必要ある場合の外、毎章之れを再説せざるべし。

〔注意〕總べて、裁ち方積り方をなす場合には、適宜に縫ひ代の寸法を見込みて、仕立上げ寸法に加ふるなり。之れを**裁ち切り寸法**といふ。

第三章　單衣襦袢

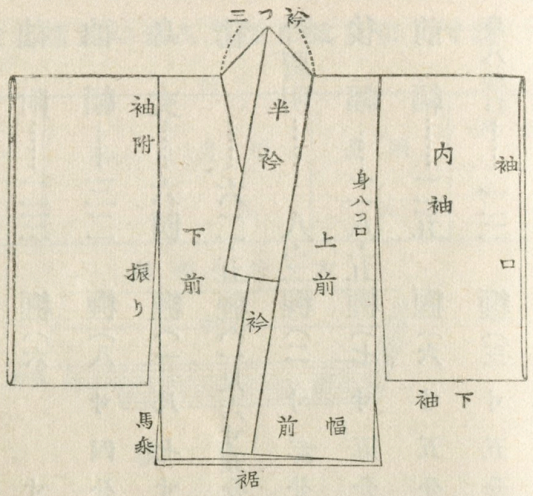
襦袢は衣類の裁縫中最も簡單なるものなれば、先づ、之れを以て、裁縫の仕方の手解（てほどき）となすべし。

襦袢の用布には、多く晒木綿・眞岡・ネル・メリンス等を使用す。

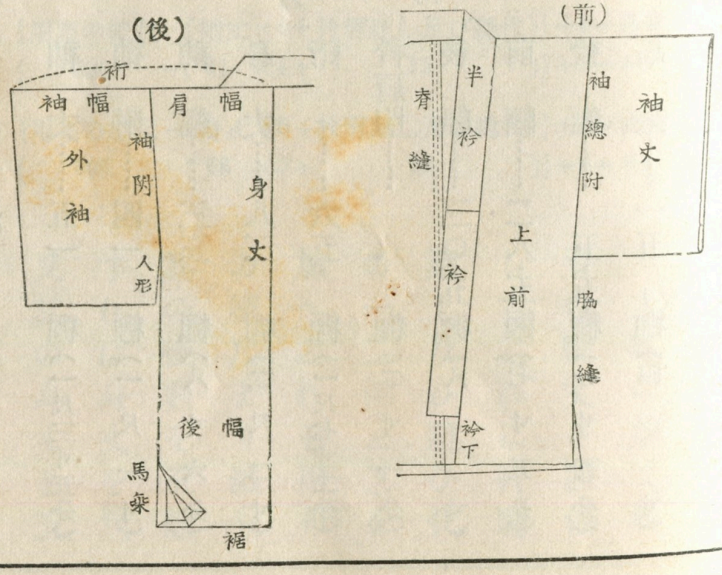
第一節　本裁襦袢

第一　本裁襦袢各部の名稱

圖の（女物）袢襦裁本



圖の（物男）袢襦裁本



第二　本裁襦袢普通仕立上げ寸法

女物

袖丈……五九糎（一尺五寸六寸）
袖附……二三糎（六　寸）
袖幅……三二糎（八寸四分）
身丈……六四糎（一尺七寸）
裄……六二・五糎（一尺六寸五分）
衿肩明……八・三糎（三寸二分）
後幅……二八・五糎（七寸五分）
前幅……二五糎（六寸五分）
身八つ口……一三糎（三寸五分）
衿幅……五・五糎－二糎（一寸五分－三寸）
馬乘……一三糎（三寸五分）

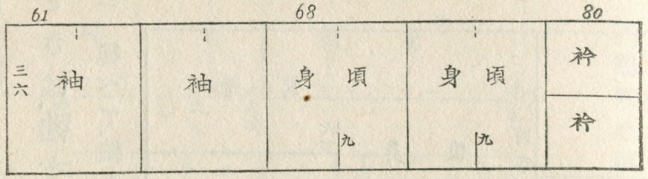
男物

袖丈……五一糎（一尺三寸五分）
袖附……四一糎（一尺一寸）
袖幅……三三糎（八寸六分）
身丈……八三糎（二尺二寸）
裄……六五糎（一尺七寸二分）
衿肩明……八糎（二寸一分）
後幅……三〇・五糎（八　寸）
前幅……二八・五糎（七寸五分）
衿幅……五・五糎（一寸五分）
馬乘……一五糎（四　寸）

本裁襦袢裁ち方・積り方

並幅5米96糎（一丈五尺七寸）にて

本裁女襦袢の裁ち方並に裁ち寸法



用布の折り方

積り方

公式　{袖丈×4＋身丈×5＋衿肩廻し及び縫代}＝用布の總尺
算式　61×4＋68×5＋12＝596

公式　{用布の總尺－(袖丈×4＋衿肩廻し及び縫代)}÷5＝身丈
算式　{596－(61×4＋12)}÷5＝68

公式　{用布の總尺－(身丈×5＋衿肩廻し及び縫代)}÷4＝袖丈
算式　{596－(68×5＋12)}÷4＝61

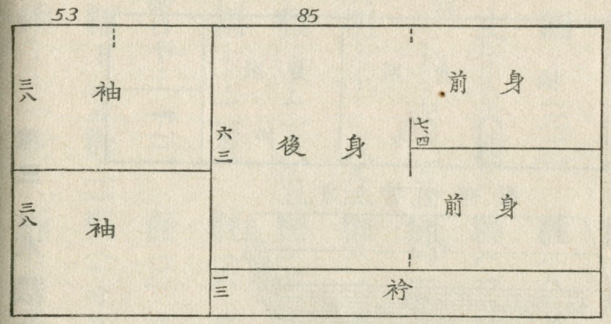
上式の如く、所要の袖丈を四倍して、之れに衿肩廻し及び縫ひ代の一二糎（三寸）を加へ、之れを用布の總尺より減じ、其の殘數を五除すれば、身丈を得。又其の身丈を五倍して衿肩廻し

及び縫ひ代を加へ、之れを用布の總尺より減じ、其の殘尺を四除するときは、袖丈を得るなり。

〔注意〕總べて、積り方の計算には、公式と算式との別あり。以下皆同樣なり。

76糎（二尺）幅2米76糎（七尺三寸）にて

本裁男襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法



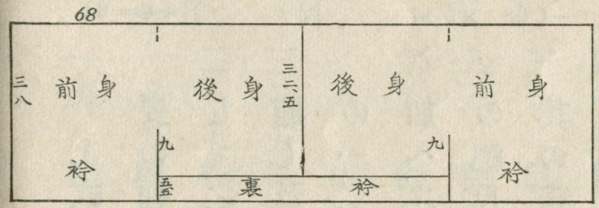
積り方

用布の總尺＝2×（丈身＋丈袖）

（53 ＋ 85）×2＝　276

38糎（一尺）幅2米72糎（七尺二寸）にて

本裁女襦袢身頃の裁ち方並に裁ち切り寸法

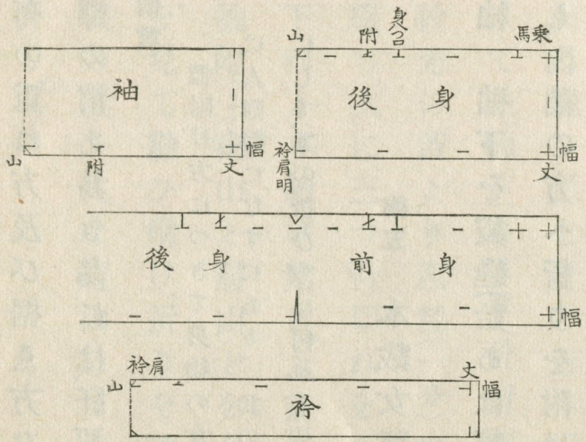


積り方

用布の總尺＝4×身丈

68 ×4＝　272

本裁襦袢標附け方



〔設問〕(1)並幅にて、袖丈五〇糎身丈八三糎の男物襦袢の總尺を求めよ。

(2)大幅即ち七六糎幅物と、並幅物と、積り方の相違を述べよ。

(3)襦袢の積り方にて、袖の別切れなるとき、身頃の總尺を算出する法如何。

第四　本裁女襦袢標附け方

一、**袖**　臺の上に正しく据ゑ、**山・丈・附・幅**の順に標を附く。

二、**身頃**　臺の上に正しく据ゑ、**山・丈・附・身八つ口・馬乘・後幅**の順に標を附け、後身頃を左に開きて、**前幅**の標を附く。

三、**衿**　臺の上に正しく据ゑ、**山・丈・幅**の順に標を附く。

布の重ね方及び据ゑ方などは、第二章に述べたるが如し。又筥標の消え易き品には、肝要の所に、縫ひ標をなし置くを宜とす。

（附言）標附け方につきて、男物の女物に異なる所は、身八つ口を省きて、袖を總附或は人形（にんぎやうづけ）附になすにあり。其の他、中裁・小裁に於ては、仕立寸法の差異あるのみにして、其の扱ひ方は何れも皆同樣なり。

第五　本裁女襦袢縫ひ方

一、袖　袖下を袋縫（始めは幅折り代の二倍程端を縫ひ殘す。）になし、内袖の方へ折りを附け置く。

二、身頃　衿肩明をかゞり、脊を二重縫になし、之れを左身頃の方へ折る。

脇を縫ひ、前身頃に折りを附けて割り觜をなし、次に、縫ひ込みを馬乘より身八つ口まで。身頃に綴ぢ附け、裾は馬乘下の角を三角に折りて、衿に縫ひ込む部分を除き、三つ折り納となす。

三、衿　衿山を脊に合せ、左右前先まで標を合せ置き、下前より上前に縫ひ廻し、衿の方へ折りを附く。身頃の縫ひ代は脊の所にて一糎（三分五厘）、衿肩廻しの所にて四糎（一分）とす。

衿先の留より四糎（一分）先きを縫ひ、裏の方へ折り、縫ひ込みを綴ぢ、次に、三つ衿切れを入れて縫ひ込みに綴ぢ附け、幅を正し、下前より納げ始め、上前にて終る。

四、袖附　袖山と肩山とを合せ、其の他の標も正しく合せ置き、袖を見て縫ひ附け、折りを袖に返し、直に身八つ口を納ける。身頃の縫ひ代は肩山にて六糎（一分五厘）程とし、袖附留まで斜に折る。

五、**半衿**　衿に心切れを當て、裏衿と縫ひ合せ、裏を四粍（一分）引きて、半衿幅を定め、總體に襞を掛け、次に、表裏に紙け附け、それより衿絲を附けて、縫ひ上りとす。

〔附言〕男物は袖の長短により、總附或は人形附などの違ひ、中裁・小裁に於ては寸法の差あるのみなり。半衿は衿幅通りに掛くべし。其の他は、總べて女物に準ず。

地質の厚き物は半返しにして之れを割り、縫ひ込みは折らず、袖・裾などは二つ折りにして、總べて千鳥縫又はまつり縫を施すなり。

第二節　四つ身襦袢

第一　四つ身襦袢普通仕立上げ寸法

袖丈……五三　糎（一尺四寸）　袖附……一五　糎（四　寸）

袖幅……三〇　糎（七寸九分）　身丈……五三　糎（一尺四寸）

肩幅……いつばい　衿肩明……六　糎（一寸五六分）

後幅……いつばい　前幅……一三　糎（六　寸）

身八つ口　一一　糎（三　寸）　衿幅……四・五糎（一寸二三分）

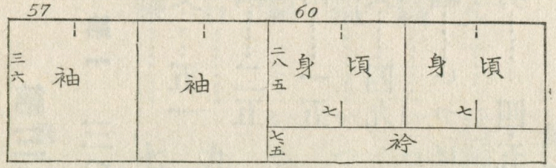
馬乘……一一　糎（三　寸）

第二　四つ身襦袢裁ち方・積り方

並幅四米六八糎（一丈二尺三寸）にて、四つ身襦袢の袖丈を五七糎（一尺五寸）と定め、其の身丈及び用布の總尺を求むる方法は、上記の計算によりて、之れを知るべし。

〔設問〕四つ身襦袢を裁ち切る順序を述べよ。

法寸り切ち裁に並方ち裁の袢襦身つ四　にて（寸三尺二丈一）糎68米4幅並



方り積

（袖丈＋身丈）×4＝用布の總尺

（57＋60）×4＝468

（用布の總尺－袖丈×4）÷4＝身丈

（468－57×4）÷4＝60

（用布の總尺－身丈×4）÷4＝袖丈

（468－60×4）÷4＝57

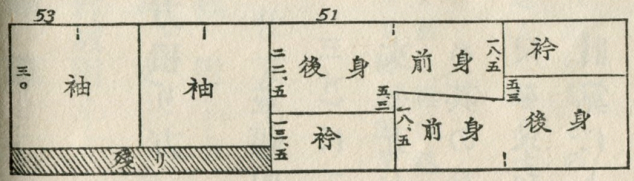
第三節　三つ身襦袢

第一　三つ身襦袢普通仕立上げ寸法及び裁ち方・積り方

袖丈…五一糎（一尺三寸五分）
袖幅……二五糎（六寸五分）
袖附……一五糎（四　寸）
身丈……四九糎（一尺三寸）
肩幅……いつぱい
衿肩明……四・五糎（一寸二分）
後幅……いつぱい
前幅……いつぱい
身八つ口……九・五糎（二寸五分）
衿幅……四・五糎（一寸二分）

並幅3米65糎（九尺六寸五分）にて

三つ身襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

身丈×3＋袖丈×4＝用布の總尺
51 ×3＋ 53 ×4＝ 365

（用布の總尺－袖丈×4）÷3＝身丈
（ 365 － 53 ×4）÷3＝ 51

（用布の總尺－身丈×3）÷4＝袖丈
（ 365 － 51 ×3）÷4＝ 53

馬乘……九・五糎（二寸五分）

第四節　一つ身襦袢

第一　一つ身襦袢普通仕立上げ寸法

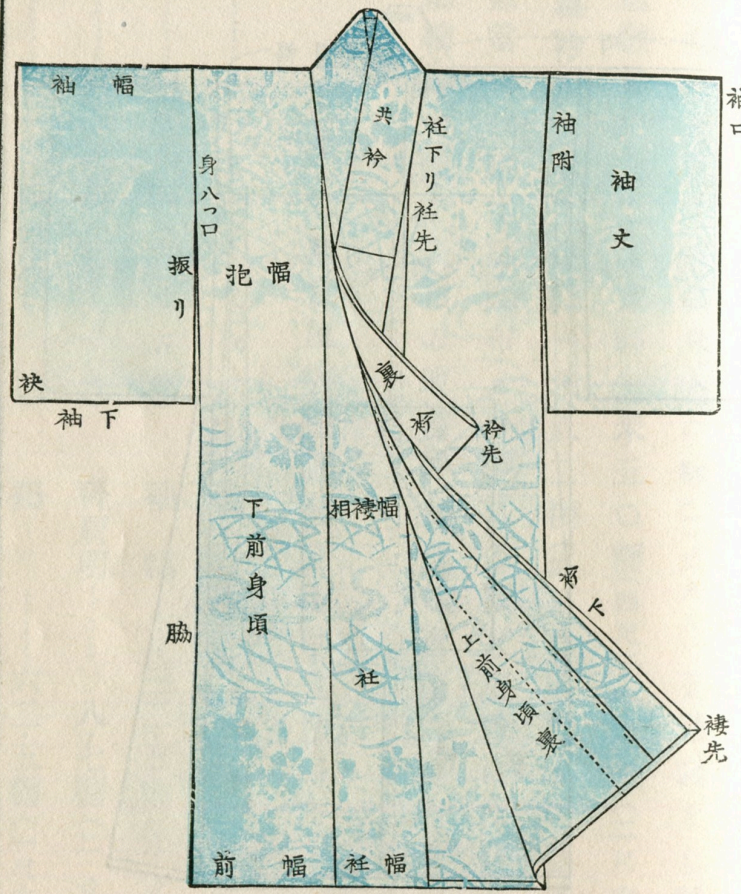
袖丈……三〇糎（五寸－一尺三寸）　袖附……一一糎（三　寸）
袖幅……いつぱい　身丈……三八糎（一　尺）
肩幅……いつぱい　衿肩明……三－四糎（凡そ八分）
後幅……いつぱい　前幅……いつぱい
身八つ口……九・五糎（二寸五分）　衿幅……三糎（八　分）
馬乘……七・五糎（三　寸）

第二　一つ身襦袢裁ち方積り方

第四章　本裁女單衣

第一　本裁女單衣各部の名稱

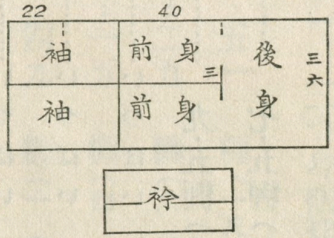
圖の表（前）衣單女裁本



並幅１米24糎(三尺三寸)にて

一つ身襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法

（一尺二寸）幅46糎半切れ別衿



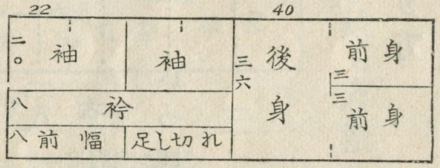
積り方

用布の總尺＝2×(身丈＋袖丈)

＝2×(40 ＋ 22)　＝　124

並幅１米68糎(四尺四寸)にて

一つ身襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

用布の總尺＝2×身丈＋4×袖丈

40 ×2＋ 22 ×4＝　168

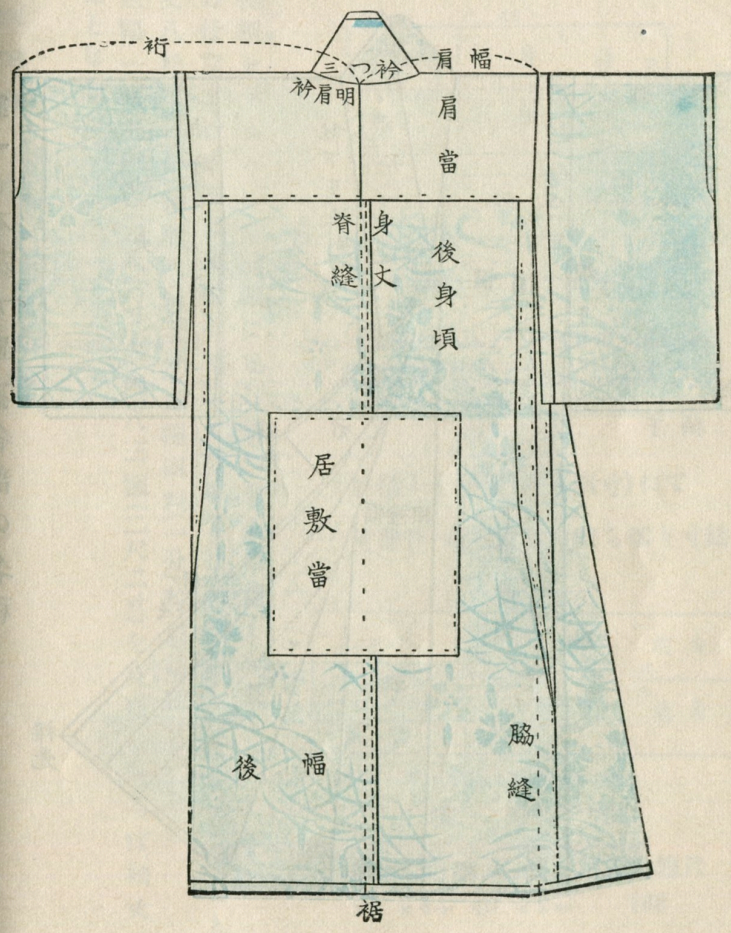
〔注意〕襦袢を用ふるには前幅に足し切れを入れ置くを便とす。

襦袢の仕立上げ寸法は、著物の寸法を標準とし、左の如く詰めるを適當とす。

袖丈八糎(二一三分)袖附八糎(一分)袖幅四糎(一分)衿肩明四糎(一分)

〔設問〕並幅一米七四糎(四尺六寸)の内、八三糎(二尺二寸)を身頃に取らば、袖丈は何程となるか。

本裁女單衣（後）の裏の圖



單衣の材料には、綿布・絹布・麻布・交ぜ織・毛織の類を用ふ。其の總尺は並幅一反、凡そ一〇米六〇糎（二丈八尺）を通常とし、別に**肩當**及び**居敷當**用として、並幅一米五〇糎（四尺）（内一米（二尺六寸）は肩當用）**裏衿**用として、半幅一米八二糎（四尺八寸）許り用意すべし。肩當・居敷當には、晒木綿・麻布・メリンスの類、又裏衿にはメリンス・練絹・絽・絽縮緬の類を、表布の地質に應じて適宜に使用す。

第二　本裁女單衣普通仕立上げ寸法

袖丈……六〇糎（一尺六寸）　袖口……二三糎（六　寸）
袖附……一五糎（六寸五分）　袖幅……三一・五糎（八寸五分）
身丈……一米五〇糎（三尺九寸内外）　衿肩明……八・七糎（二寸三分）
身八つ口……一一糎（三　寸）　衽……六一・五糎（一尺六寸五分）

後幅……一八・五糎（七寸五分）　衽下り……一三糎（六寸）
前幅……一三糎（六寸）　衿下……七六糎（二尺）
衽幅……一五糎（四寸）　相褄幅……一二・五糎（三寸五分）衽幅より一・五糎内外詰め
衿幅……一一糎（三寸）　袂の丸み……二糎（五分）

第三　本裁女單衣裁ち方・積り方

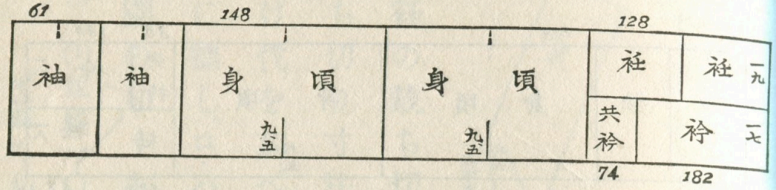
裁ち方に棒衽裁と鉤衽裁との二種あり。鉤衽裁は、用布の不足なるときに用ふるものなり。然れども、此の裁ち方は片面物には適用し難く、且つ、仕立直しの時に至り、衽を天地することを得ざる不利あり。

一、棒衽裁ち方　並幅一〇米九二糎（二丈八尺八寸）にて、袖丈を六一糎（一尺六寸）裁ち切りと定め、左式により、其の他の寸法を算出し、次に、圖の如く、布を折りて、寸法の相違なきかを檢し、然る後ち、**袖・身頃・衿・衽**と順次に裁ち切るなり。

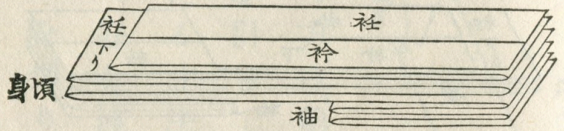
二、鉤衽裁ち方　並幅一〇米五四糎（二

にて（寸八尺八丈二）糎92米10幅並

本裁女單衣棒衽裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の折り方



積り方

袖丈×4＋身丈×6－衽下り×2＝用布の總尺
61 ×4＋ 148 ×6－ 20 ×2＝ 1092

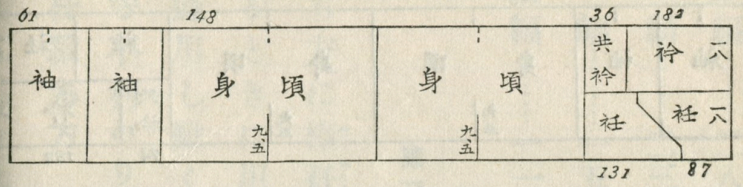
（用布の總尺－袖丈×4＋衽下り×2）÷6＝身丈
（ 1092 － 61 ×4＋ 20 ×2）÷6＝ 148

｛用布の總尺－（身丈×6－衽下り×2）｝÷4＝袖丈
｛ 1092 －（ 148 ×6－ 20 ×2）｝÷4＝ 61

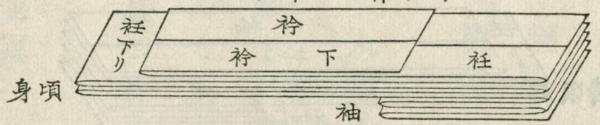
身丈－衽下り（仕立上げ）＋衽先の縫ひ代＝衽丈
身丈－衿下＋（衿肩廻し及び縫ひ代）×2＝衿丈

て に(寸八尺七丈二)糎4 5米1 0幅並

本裁女單衣鉤衽裁ち並に裁ち切り寸法



方り折の布用



積り方

袖丈×4＋身丈×5＋鉤下－衽下り＝用布の總尺

61 ×4＋148 ×5＋ 87 － 17 ＝ 1054

{用布の總尺－(袖丈×4＋鉤下)＋衽下り}÷5＝身丈

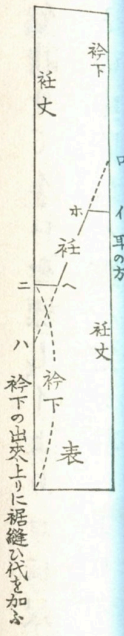
{ 1054 －(61 ×4＋ 87)＋ 17 }÷5＝ 148

{(用布の總尺＋衽下り)－(身丈×5＋鉤下)}÷4＝袖丈

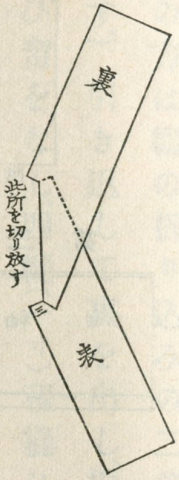
{(1054 ＋ 17)－(148 ×5＋ 87)}÷4＝ 61

丈七尺八寸)にて、袖丈を棒衽のときと同じくし、其の他の寸法は上記の式によりて算出し、次に、圖の如く、布を折りて、寸法を檢し、然る後ち**袖・身・頃・衿・衽**と順次に裁ち切るなり。

第一圖



第二圖



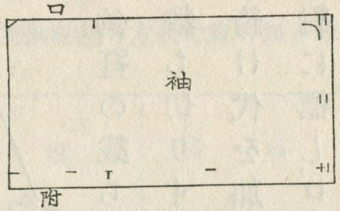
鉤衽の裁ち切り方は、第一圖の如く、耳の方には、下方より衽丈の裁ち切り寸法を計りて標し、又上方より衿下の上り寸法に裾の紉け代を加へたる寸法を標し、又裁ち目の方には、之れを上下反對に標し、ロ・ハへ絲を渡し、イ・ホ・ニ・ヘに切り込みを入れ、次いで、第二圖の如くホ・ヘを切り放すなり。

〔注意〕鉤下の寸法を見込むには、用布の總尺より袖丈の四倍を減じ、之れを五半に割り、其の半數に、衽下りの寸法を加ふべし。

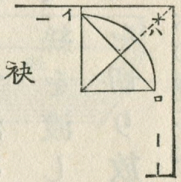
〔設問〕(1)並幅一〇米六〇糎(三丈八尺)にて、袖丈五七糎(一尺五寸)、衽下り一九糎(五寸)裁ち切りとし、棒衽裁の身丈を求めよ。

(2)鉤衽裁の積り方を說明せよ。

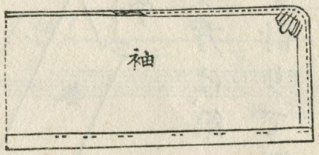
第一圖



第二圖



第三圖



第四　部分縫　袖

一、**標附け方**　一米(二尺六寸)の練習用布を取りて袖と見做し、第一圖の如く山・丈・口・附・幅・衽の丸みの標を附く。衽の丸みは二糎(五分)とす。

衽の丸みの標附け方は、衽形を用ふるか、然らざれば第二圖の如く、衽の角より丸みの寸法を計りてイ・ロを標し、イより口に尺を渡し、其の中央と衽の角との中間にハ點を定め、其れよりイ・ロにかけ、凡そ圓の四分の一の形を描くなり。

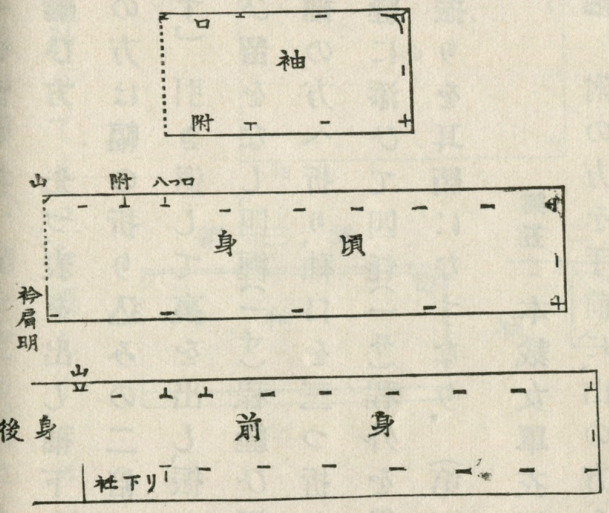
二、**縫ひ方**　先づ、表を出し、袖下を四糎(一分)の縫ひ代に縫ひ、(振りの方は幅の折り込みの二倍ほど、衽の方は三糎(八分)程縫ひ殘す。)引き返して裏を出し、振りの方より袖口標まで縫ひて、抄ひ留をなし、四糎(一寸)程縫ひ返し、(衽は極めて小針に縫ふ。)內袖の方へ折り、袖口を三つ折り絎になし、それより、衽の所を本縫に添ひて四糎(一分)程外を縫ひ締め、丸みを整へて、襞を綴ち、振りを耳絎になすなり。(第三圖)

第五　本裁女單衣標附け方

一、**袖**　附の方を手前に、山の方を左に置きて、山・丈・口・附・幅の標を附く。

二、**身頃**　身頃の衿肩明の方を手前に、後身の方を左にし、中を表

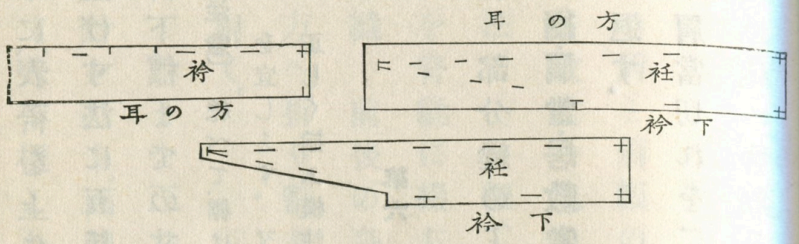
にして二枚を重ね、身頃を二つに折りて、後身を前身に重ね、山・丈・附・身八つ口・脊・肩幅・後幅の標をなし、後身を開きて、前身に衽下り・前幅を（裾より一〇糎（三寸）程は稍〻眞直に、）標し、衽下りより裾までを計りて、衽丈を知り置く。



方け附標衣單女裁本

三、**衽**　裾の方を右に、衿下（裁ち目の方）を手前に置き、**棒衽**のときには、先づ丈・衿下・衽幅を標し、裾より四〇に對し一の傾斜を見て衽先を標し、其の間に尺を渡して、衽附標をな

方け附標衣單女裁本



し、次に、衽先より三粍（一分程）を計りて、衽先の衿附を標し、之れと衿下標とに尺を渡して、其の間に衿附の標をなし、又衿下の標より褄先までの標をなすなり。

鉤衽のときには、先づ丈・衿下の標をなし置き、衽附の下端の縫ひ込みを一糎（三分）とし、衽先にて、衿附の方より一・五糎（四分）を計りて、衽附の標をなし、此の二つの標に尺を渡して、其の間の標を附け、次に、衽幅・相褄幅及び其の間の標を附け、それより、棒衽のときの如く、衿附の標をなすなり。

四、**衿**　表裏ともに、中表に二つに折り、裏衿を

下に、表衿を上に重ね、山を左に、附を向ふに置き、衿肩明の縫ひ上げ寸法に五粍（一分程）を足し、尚ほ之れに衽下りと、其れより衿下標までの寸法を加へて、衿丈の標をなすなり。

（注意）總べて、標は縫ひ込みの内に隠るゝ樣成るべく小さく、且つ輕く附くるを宜しとす。又成るべく、標と標との間の距離を一定し、相對せる標は特に正しく揃ふ樣注意すべし。

第六　本裁女單衣縫ひ方

一、**袖**　部分縫のときに同じく袖を縫ひ、袖口を絎け置く。

二、**脊縫・肩當・居敷當**　身頃の脊筋を二重縫になし、上前の方へ折り返す。

肩當切れを二つに切り、二枚を重ね、身頃に倣ひて、衿肩明を切り込み、脊筋を縫ひ合せ、裁ち目の方は二つ折りに伏せ縫を

なし置き、それより、衿肩明の方を右とし、肩當切れを身頃の脊縫の向ふに當てて綴ぢ合せ、後ち、肩當を左右に開きて、衿肩廻しの所と肩幅の標より一〇糎（二寸五分）程内とに假綴をなす。

居敷當の裁ち目の方を二つに折りて伏せ縫をなし、衿下の寸法に一〇糎（二寸五分）程を加へたる所より附け下げ、幅の中央を脊縫に綴ぢ附け、下方を除き、他の三方を絎け附く。

三、**脇縫**　前後の身頃の幅標を合せ、後身頃を見て縫ひ合せ、前身の方へ折り、割り觜を掛け、身八つ口より裾まで、縫ひ込みを綴ぢ附く。

四、**衽**　衿下を三つ折り絎になし、衽と前身との標を合せ、要所に待針を打ち、両前共に裾より縫ひ上げ、縫ひ込みを衽の方へ折りて、衿下標より一五糎（四寸）程上まで綴ぢ附け、それより上に

は假縫をなし置く。

五、**裾絎**　裾を三つ折りになし、褄先を斜に折り、上前より絎け始め、絎け目の間を一・五糎（四分）とし、表へは小針に出し、脊・脇・衽の縫ひ目の所は特に一針返し、下前の褄先にて絎け終る。

六、**衿**　表裏の衿山を脊縫に當て、（其の所の縫ひ込みを一糎（三分）とす。）衿にて身頃を挟み、要所に待針を打ち、下前より始めて一針抜きに縫ひ、衽先と脊縫の所は小針に一針返して、上前に移り、縫ひ終りて、表衿の方へ折る。

丈二三糎（六寸）幅一一糎（三寸）許りの三つ衿切れを、衿肩明表衿の方に綴ぢ附け、それより、衿幅を折り、（裏衿を表衿より五粍（一分程）狹くす。）衿先を留め、衿丈の四粍（二分）先にて表裏の衿先を縫ひ、縫ひ込みを裏の方へ折りて綴ぢ附け、引き返して表裏の衿幅を整へ、裏衿の衿先を褄形に折り、總體に假を掛けて、絎け上ぐ。

七、**袖附**　肩幅の六粍（二分五厘）先より袖附の標まで、斜に身頃を裏の方へ折り、袖山と肩山との標を合せ、袖を見て縫ひ、袖の方へ折り、身頃の縫ひ込みを綴ぢ、肩當を絎け附け、後ち、袖山にて三針綴ぢ附け、次に、振りを耳絎又は三つ折り絎になす。

八、**共衿・衿絲**　共衿の丈の中央を脊縫に當て、本衿と縞目を合せ、四粍（二分）被せに共衿の先を縫ひ附け、丈を絎け附く。

衿絲には撚り合せたる二本絲を用ひ、衿幅を二つに折り置き、両肩若しくは脊・両肩の三所に於て、二枚の衿を抄ひ、絲の長さを幅の凡そ二倍に切り、其の両端を結び置くなり。

〔附言〕

衣類の疊み方　衿を左に裾を右に置き、下前を脇縫の所より正しく向ふへ折り、衽附の所を衿と共に手前へ折り返し、上前も同樣に折り、三つ衿の折りを整へ、次に、脊縫より二つに折りて両前を重ね、一方の袖を袖附より後身へ折り返し、身丈を二つに折りて裾を肩に合せ、引き返して、他方の袖を折るなり。

衣類の解き方　衣類を解くには、總べて、縫ひ方順序の反對になすを宜しとす。假令へば、單衣を解くに、先づ袖を解き、衿に移りて、衿衒より衿先、衿附に及び、其れより、裾衒衿下、衽附、脇縫、脊縫と順次に解き行くが如し。絲留めの所にては、布を損せぬ樣特に注意すべく、布を解き放したる後ち、縫絲を取り去ることを忘るべからず。又抜き絲は、其の長短によりて類別し、各〻相當の用に充つべし。

〔設問〕(1)本裁女單衣の標附け方順序を述べよ。

(2)本裁女單衣の縫ひ方順序を說明せよ。

第五章　本裁男單衣

第一　本裁男單衣普通仕立上げ寸法

袖丈……五三　糎（一尺四寸）　袖口……二八・五糎（七寸五分）

袖附……四三・五糎（一尺一寸五分）　袖幅……三四　糎（九　寸）

身丈……一米三七　糎（三尺六寸内外）　衿肩明……八　糎（二寸一分）

後幅……三〇・五糎（八　寸）　衩……六六・五糎（一尺七寸五分）

衽下り……一九　糎（五　寸）　前幅……二五　糎（六寸五分）

衿下……六六・五糎（一尺七寸五分）　衽幅……一五　糎（四　寸）

相褄幅……一三・五糎（三寸五分）　衿幅……五・五糎（一寸五分）

第二　本裁男單衣裁ち方・積り方

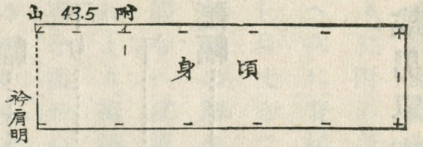
本裁男單衣の裁ち方・積り方は略〻本裁女單衣に同じ。

第三　部分縫　揚（あげ）

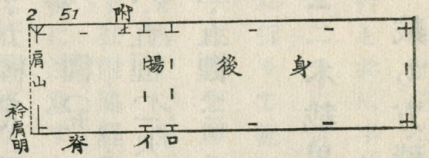
一、**標附け方**　練習用布二枚を取りて、前後の身頃と見做し、衿肩明九糎（三寸四分）を殘して、肩山を並に縫ひ合せ、先づ、第一圖の如く布を据ゑ、山・丈・袖附・脊・後幅の標をなし、次に、第二圖の如く、肩山を後へ二糎（五分）繰り越し置き、肩山より五一糎（一尺三寸五分）下りて、揚の寸法を標す。

二、**縫ひ方**　先づ、後身の揚の標イ・ロを合せ、脊より後幅標の一針先きまで縫ひ、裾の方へ折り、次に、脇を縫ひて、前身の方へ折り、第三圖の如く揚の縫ひ込みを折りて綴ぢ、それより、脇の縫ひ込みを綴ぢ附く。

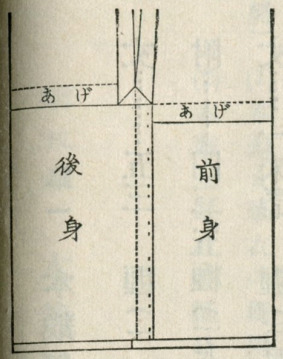
第一圖



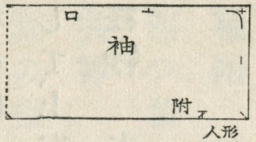
第二圖



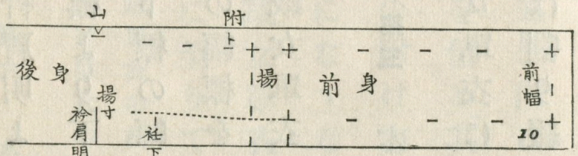
第三圖



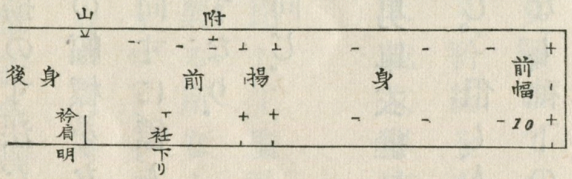
第一圖



第二圖



第三圖



第四　本裁男單衣標附け方

一、**袖**　本裁女單衣に同じ。

二、**身頃**　山・丈・附・脊・肩幅・後幅・揚を標し、次いで、前身に衽下り・前幅の標をなす。

前幅の標附け方は、第二圖の如く、先づ裾口に幅標をなし、其の一〇糎（三寸程）

上の所と、衿肩明より揚の寸法だけ下りたる所とへ、絲を渡して、揚の下標より下方の幅標をなし、次に第三圖の如く、揚の上標の幅を下標の幅と同寸に標し、之れより衿肩明まで、絲を渡して、上方の幅標をなすなり。

三、**衽・衿**　本裁女單衣に同じ。

第五　本裁男單衣縫ひ方

一、**袖**　本裁女單衣に同じ。但し、人形の所より縫ひ始め、人形の縫ひ込みは割り綴になし、袖下の縫ひ込みに綴ぢ附く。

二、**身頃**　脊を二重縫になし、次に、部分縫のときに倣ひて、前後の揚を縫ひ、それより、肩當・居敷當を附け、脇縫をなす。

三、**衽・裾**　本裁女單衣に同じ。

四、**衿附**　本裁女單衣に同じく衿を附け、衿先を縫ひ、衿幅二倍の所を表裏共に折り、衿先の所にて、折り込みを三角に折りて、之れを綴ぢ附け、次に、衿幅を二つに折り、衿先より一糎(三分)衿附より二糎(五厘)内に入り、極めて小針に衿の表裏を通して、十字形に衿先を留め、其より、衿紳をなす。

五、**袖附**　袖の附け方は本裁女單衣に同じ。但し、袖附の留めは四つ留めになすなり。

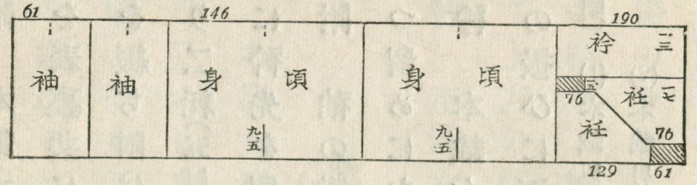
六、**共衿**　本裁女單衣に比して、廣衿と紳け衿との相違あれども、其の扱ひに至りては、異る所なし。

〔設問〕(1)本裁單衣の標附け方につきて、男女の差異を說明せよ。

(2)本裁男單衣の普通仕立上げ寸法を擧げよ。

第六　本裁單衣各種裁ち方・積り方

並幅10米18糎(二丈六尺九寸)にて本裁鈎衽の裁ち方並に裁ち切り寸法

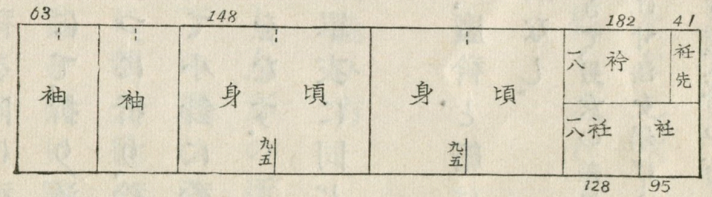


積り方

(袖丈×4＋身丈×4＋衿丈)＝用布の總尺

(61 × 4 ＋ 146 × 4 ＋ 190)＝ 1018

並幅10米67糎(二丈八尺二寸)にて本裁棒衽(下前接ぎ)の裁ち方並に裁ち切り寸法



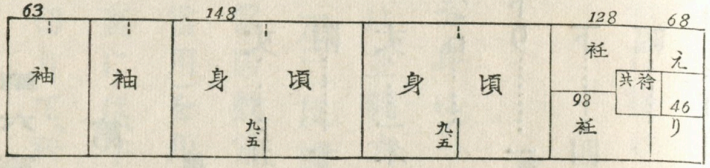
積り方

{用布の總尺－(袖丈×4＋衿丈の半＋衽の接ぎ代)＋衽下り}÷5＝身丈

{ 1067 －(63 ×4＋ 91 ＋ 4)＋ 20 }÷5＝ 148

〔注意〕上圖の裁ち方は、尺不足の用布にて、各部の裁ち切りを本裁相當の寸法になさむとするときに、用ふるなり。下圖の裁ち方は普通鈎衽に取るべきを、强ひて棒衽になさむとする場合に用ふるものなり。

片面物並幅10米40糎(二丈七尺四寸)にて本裁鈎衽(共衿附)の裁ち方並に裁ち切り寸法

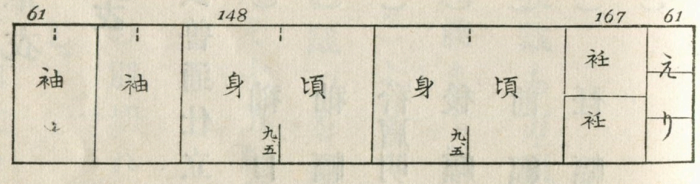


積り方

{用布の總尺－(袖丈×4＋衿丈の一部)＋衽下り}÷5＝身丈

{ 1040 －(63 ×4＋ 68)＋ 20 }÷5＝ 148

並幅10米25糎(二丈七尺)にて本裁棒衽(衿三ツ割)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

{用布の總尺－(袖丈×4＋衿丈の三分一)＋衽下り}÷5＝身丈

{ 1025 －(61 ×4＋ 61)＋ 20 }÷5＝ 148

〔注意〕上圖の裁ち方は、鈎衽になし、尙ほ、共衿を取らんとする場合の裁ち合せを示せるなり。下圖の裁ち方は、衽を棒裁になさむがために、衿を接ぎ合せ、而して、袖及び身丈を本裁相當の寸法になさむとする場合に用ふるものなり。

第六章　中裁・小裁單衣

第一節　四つ身單衣普通仕立上げ寸法

第一　四つ身單衣普通仕立上げ寸法

袖丈……五七糎（一尺五寸）　袖口……一七糎（四寸五分）
袖附……一七糎（四寸五分）　袖幅……三〇糎（八寸）
身丈……一米一五糎（三尺）　衿肩明……六・五糎（一寸七分）
身八つ口……九・五糎（二寸五分）　後幅……いつぱい
衽下り……一五糎（四寸）　前幅……いつぱい
衿下……四五糎（一尺二寸）　衽幅……いつぱい
衿幅……四・五糎（一寸二分）

但し、筒袖の場合には、袖丈は約そ二五糎（六寸五分）、袖口は約そ一三糎（三寸五分）、袖附は約そ一〇糎（五寸）とす。其の他は、總べて右に揭げたる寸法に從ふ。

第二　四つ身單衣裁ち方・積り方

四つ身は五―六歳より十二―三歳まで用ふるものなり。用布の總尺は、並幅六米八二糎（一丈八尺）より七米五八糎（二丈位）までとし、一疋（二反續き）の布を三枚に裁つを通常とす。

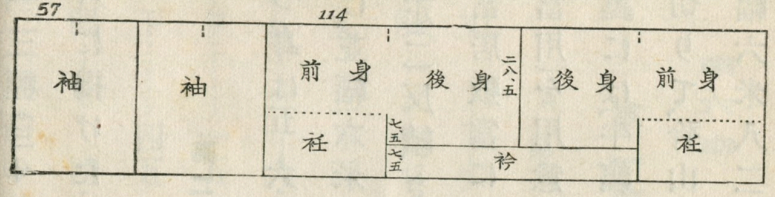
肩當・居敷當には、別に、並幅凡そ七五糎（二尺）（内四五糎（一尺二寸）は肩當用）を用意すべし。

衿裏には、半幅一米（二尺六寸）の別切れを用ひ、其の幅を二つに裁ち切りて、衿山を接ぎ合すべし。

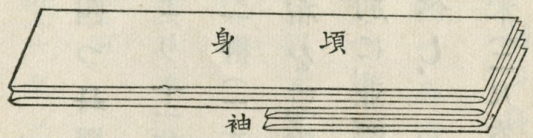
一、並幅六米八二糎（一丈八尺）にて、袖丈を五七糎（一尺五寸）として、

第　一　圖

四つ身單衣の裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の折り方



方　り　積

(袖丈＋身丈)×4＝用布の總尺

(57＋114)×4＝684

(用布の總尺－袖丈×4)÷4＝身丈

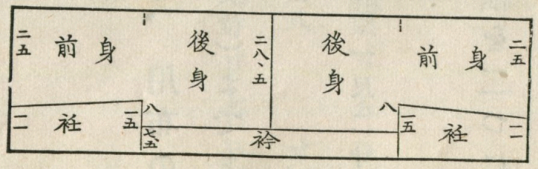
(684－57×4)÷4＝114

(用布の總尺－身丈×4)÷4＝袖丈

(684－114×4)÷4＝57

第　二　圖

四つ身單衣の逆衽裁ち方並に裁ち切り寸法



身丈其の他の裁ち切り寸法を求むる方法は右の裁ち方圖及び算式によりて知るべし。

二、前と同じ寸法にて、之れを逆衽裁（さかくみだち）になさんには第二圖に依るべし。但し、袖は第一圖に同じ。

〔附言〕新衣を裁つに、逆衽裁を用ふることなきにあらざれとも、初めには、第一圖の如く裁ち置き、後日、尚ほ大振りになすべき場合に臨みて、逆衽裁に改むるを便利とす。

〔設問〕(1)袖丈及び身丈を知りて、用布の總尺を求むる方法を問ふ。

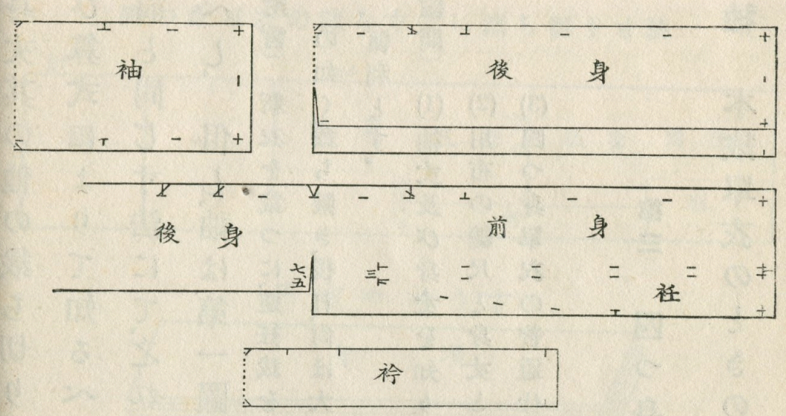
(2)用布の總尺と身丈とを知りて、袖丈を求むる方法を問ふ。

(3)四つ身單衣の普通仕立上げ寸法を擧げよ。

第三　四つ身單衣標附け方

一、**袖**　本裁單衣のときの如く、正しく布を重ね、順次に、山・丈・口・附・

四つ身單衣標附け方



幅の標を附く。

二、**身頃**　本裁單衣のときの如く布を重ね、山・丈・附・身八つ口・脊・後幅の順序に標を附く。

後身頃を左に開き、前身頃に衽下り・衿下を標し、衿肩明より衽下りの所までに四粍(一分)衽の方へ寄せ、以下裾まで、眞直に前幅の標をなし、次に、衽下りの所にて其れより三糎(八分)、裾の所にて一糎(三分)衽の方へ離して標をなし、之れに絲を渡して、其の間の衽附を標し、衽幅を定め、それより、衽先の所を衿附の方へ四粍(一分)寄せ、此の標と衿下標とに絲を渡し、中間にて八粍(二分)程張り出して、恰好よく衿附の標をなし、衿丈を計り置く。

三、**衿**　本裁女單衣に同じ。

第四　四つ身單衣縫ひ方

縫ひ方は本裁單衣の場合と大差なきを以て、茲には、唯異なれる所を掲げて、其の他を省略せり。

一、**袖**　袂の角は袖下を先に、袖口下を後に折りて、縫ひ込みを綴ち附く。

二、**身頃・衽**　脊は袋縫になし、肩當を附く。

前幅と衽附との標を合せ、前身を手前にして縫ひ、衽の方へ

折り、脇縫をなし、衿下及び裾を絎ける。

三、**衿**　表衿に裏衿を縫ひ附け、裏衿の方へ折りて、隠し躾を掛け、それより、本裁に倣ひて衿を附け、衿幅を定めて衿先を縫ひ、引き返して表を出し、衿先の縫ひ込みを裏衿にて包み、裏衿を絎け附く。

四、**袖附**　本裁女單衣に同じ。

五、**肩揚**　肩幅の中央を揚の折り山とし、寸法通り衽を定め、餘りの寸法を、袖附の二糎(五分)程上より、二筋絲にて大針小針に綴ぢて、揚をなす。

六、**腰揚**　脊丈を二つに折り、其れより凡そ六―七糎(一―二寸)程上を揚の山と定め、脇縫より衽にかけて、揚山を二糎(五分)衿下の方へ斜に下げ、寸法通り身丈を定め、餘りを肩揚の如く綴ぢて、揚をなす。

七、**居敷當**　腰揚の縫ひ目より下に當てゝ綴ぢ附く。

〔設問〕

(1)四つ身單衣の標附け方を圖解して、其の寸法を記入せよ。

(2)逆衽裁の得失を述べよ。

第二節　三つ身單衣

第一　三つ身單衣普通仕立上げ方法

袖丈……五〇　糎(一尺三寸)　袖口……一五　糎(四　寸)

袖附……一五　糎(四　寸)　袖幅……二五　糎(六寸五分)

身丈……一　米(二尺六寸)　衿肩明……五　糎(一寸三分)

身八つ口……九・五糎(二寸五分)　後幅……いつぱい

衽下り……一一　糎(三　寸)　前幅……いつぱい

衿下……二三　糎（六　寸）　衽・幅……いつぱい
衿　幅……　四　糎（一寸一分）

但し、筒袖のときは、袖丈は凡そ二五糎（六寸五分）、袖口は凡そ一三糎（一寸三分）、袖附は凡そ一七糎（四寸五分）とし、其の他は總べて右の寸法に從ふ。

第二　三つ身單衣裁ち方・積り方

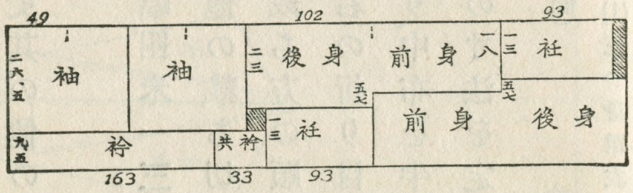
三つ身は三―四歳の頃に用ふるものなり。

用布の總尺は並幅五米（一丈三尺）乃至五米七〇糎（一丈五尺位）とし、一反二枚裁ちを通例とす。

肩當・居敷當には、別に並幅凡そ七六糎（二尺）（内四六糎（一尺二寸）は肩當用）を用意すべし。

第一圖

法寸り切ち裁に並方ち裁の衣單身つ三



用布の折り方

方り積

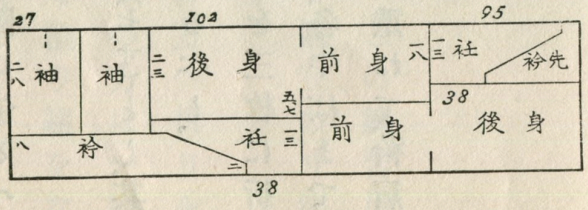
身丈×3＋袖丈×4＝用布の總尺
102×3＋49×4＝502

（用布の總尺－袖丈×4）÷3＝身丈
（502－49×4）÷3＝102

（用布の總尺－身丈×3）÷4＝袖丈
（502－102×3）÷4＝49

第二圖

法寸り切ち裁に並方ち裁の衣單身つ三袖筒



一、並幅五米四糎（一丈三尺三寸）にて、袖丈を四九糎（一尺三寸）と定め、身丈其の他の裁ち切り寸法を求むる方法は第一圖に依るべし。

二、並幅四米一三糎（一丈九寸）にて、筒袖の丈を二七糎（七寸）とし、其の他の裁ち切り寸法を求むる方法は第二圖に依るべし。

裁ち方の順序は、先づ、袖布を裁ち切り、次に、身頃を三枚に折り、右の折り目を向ふより、左の折り目を手前より、各半ばまで切り、中布を半幅に切り放ち、それより、身頃を二枚重ねて、衿肩明の寸法を定めて、衽・衿を裁ち切るなり。

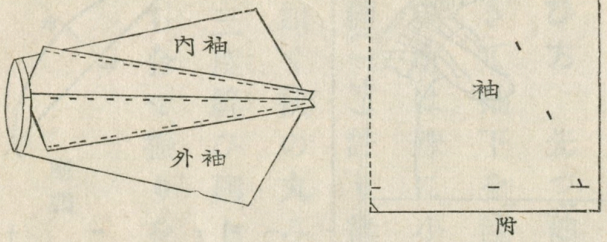
〔設問〕

(1) 三つ身單衣の普通仕立上げ寸法を述べよ。

(2) 三つ身單衣の裁ち方順序を說明せよ。

(3) 並幅四米（一丈六寸）にて、筒袖の丈を二七糎（七寸）裁ち切りとし、三つ身單衣の裁ち方・積り方を示せ。

筒袖　袖



第三　部分縫

(イ)　筒袖

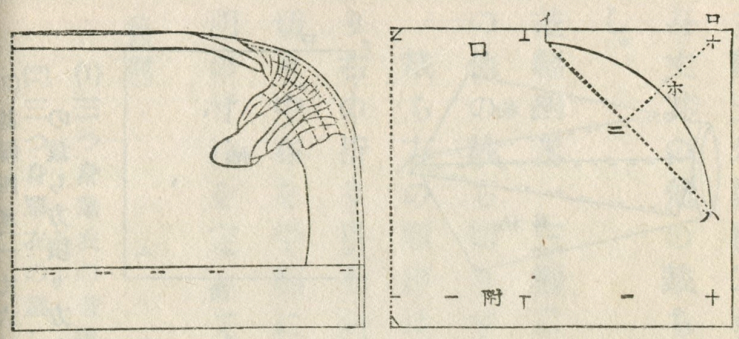
一、標附け方　並幅一米（三尺六寸）の練習用布を取り、丈を二つに折りて、適宜の寸法に依り、山・丈・口・幅の標を附く。

二、縫ひ方　袖下を縫ひ、内袖の方へ折りを附け、外袖の縫ひ込みを、口下の方は一糎（三分）に、附の方は淺く折りて割り綴をなし、後ち、裁ち目を折りて、耳紵になす。

次に、袖口を三つ折りになし、口下の縫

ひ目を合せ、こゝに一針通して紉け附くるなり。

(ロ)　元祿袖



一、標附け方　練習用布並幅一枚を袖と見做して、圖の如く布を据ゑ、適宜の寸法に依り、山・丈・口・附・幅等を標し、それより、上圖に示せる如く、袖口標の三糎(八分)ほど下にイ點を標し、ロ・ハの間をイ・ロの間より二糎(五分)程廣くしてハ點を標し、イ・ハの中央をニ點とし、之れよりニ・ロの約そ三分の一を計りてホ點を標し、イ・ホ・ハの三點を結びて、程よく丸みを附くるなり。尙ほ、振りの方にて丈を一糎(二―三分)詰め、適宜に恰好を附くることあり。

二、縫ひ方　先づ、袖の表を出し、袂の丸みと袖幅の折り込みとを除きて、袖下を淺く縫ひ、裏に返し、袖附の方より袖下を縫ひ、丸みの所は殊に小針に、袖口の標まで縫ひ上げ、こゝに一針留め、四糎(一寸)許り縫ひ返し、袖口を三つ折りに紉け、次に、圖に示せる如く袂の丸みに添ひ、其の外廻りを八糎(一分)程づつ隔てて二―三度縫ひ廻し、後ち、恰好よく絲を引き締め、襞の如く疊みて、綴ぢ合せ、振りを耳紉になすなり。

第四　三つ身單衣標附け方・縫ひ方

一、標附け方　總べて、本裁女單衣に倣ふ。筒袖・元祿袖について

は部分縫にて説明したるに同じ。

二、縫ひ方　袖は四つ身單衣に同じ。筒袖・元祿袖については部分縫にて説明したるに同じ。

脊縫及び肩當・居敷當の附け方は四つ身單衣に同じ。衽附は袋縫になすべく、其の他は本裁女單衣に同じ。

衿は別に裏衿切れを用ひざる外、四つ身單衣のときと同様なり。

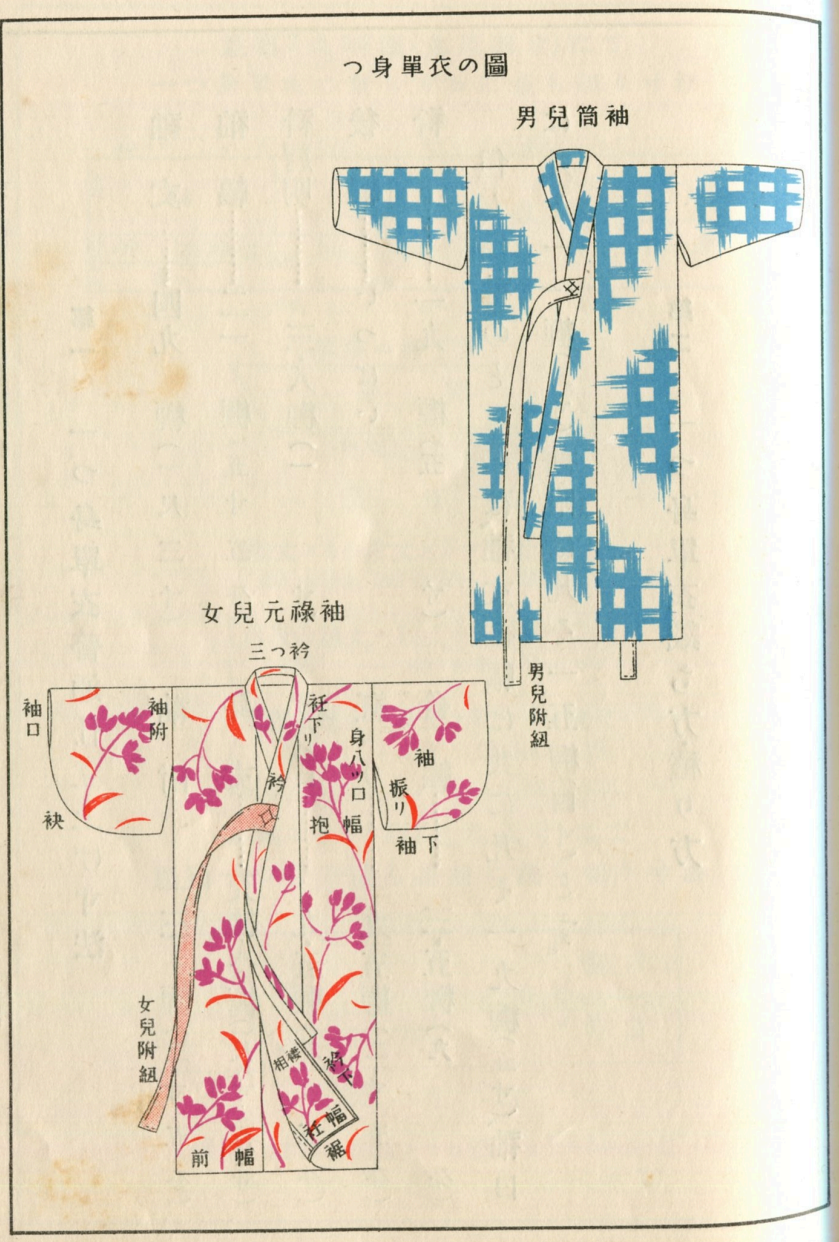
〔設問〕

(1) 三つ身の用布は、通常何程を要するか。

(2) 三つ身單衣縫ひ方の四つ身單衣と異れる所を述べよ。

第三節　一つ身單衣

圖の衣單身つ



第一　一つ身單衣普通仕立上げ寸法

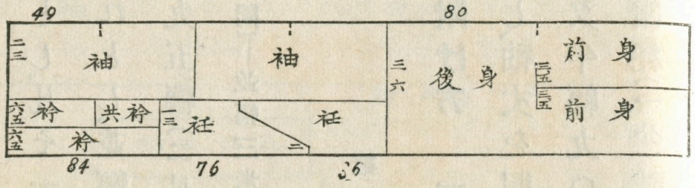
袖丈……四九糎（一尺三寸）　袖附……一三糎（三寸五分）
袖幅……一一糎（五寸五分）　身丈……六糎・八三糎（尺八寸・二尺二寸）
衿肩明……三・八糎（一寸）　身八つ口……九・五糎（二寸五分）
後幅……いっぱい　衽下り……九・五糎（二寸五分）
衿下……一九糎（五寸）　衿幅……一・五糎（九分）

但し、筒袖のときには、袖丈・袖幅は共に凡そ一九糎（五寸）、袖口は凡そ一一糎（三寸）、袖附は凡そ一五糎（四寸）とす。

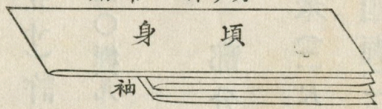
第二　一つ身單衣裁ち方・積り方

一つ身は一―二歳の子供に用ふるものなり。

並幅3米56糎（九尺四寸）にて一つ身單衣の裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の折り方



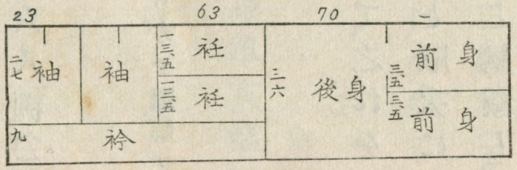
積り方

袖丈×4＋身丈×2＝用布の總丈
49 ×4＋ 80 ×2＝ 356

（用布の總丈－袖丈×4）÷2＝身丈
（ 356 － 49 ×4）÷2＝ 80

（用布の總丈－身丈×2）÷4＝袖尺
（ 356 － 80 ×2）÷4＝ 49

並幅2米95糎（七尺八寸）にて筒袖一つ身の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

（用布の總尺－袖丈×4＋衽下り）÷3＝身丈
（ 295 － 23 ×4＋ 7 ）÷3＝ 70

用布の總尺は並幅にて二米六五糎(七尺)以上三米八〇糎(一丈)許りとし、凡そ一反(一〇米六〇糎)三枚裁ちを通例とす。附紐は別切れとし、並幅四つ割又は二つ割を用ひ、丈は六八糎(一尺八寸)以上九五糎(二尺五寸)許りとす。

(設問)　並幅三米四〇糎(九尺)の用布にて一つ身單衣の裁ち方を圖解せよ。

第三　部分縫　潤袖(袖口切れ附)

一、標附け方　一米(二尺六寸)の練習用布を取りて、之れを袖と見做し、袖丈を四四糎(一尺一寸五分)とし、山丈、附幅と順次に標を附け、又半幅九〇糎(二尺三寸)の用布を袖口切れと見做し、表袖より四糎(一分)詰めて、丈の標をなし、奥の方に幅標を附く。

二、縫ひ方　袖口切れを標通り袖に縫ひ合せ、袖の方へ折り、常の如く袖下を袋縫になし、(口切れの所を除く)內袖へ折り、袖裄を二糎程(五厘)出して袖口に襞を掛け、引き返して袖口切れの奥に襞を掛け、二糎程(五—六分)の針目に、表へは小針に出して絎け附く。

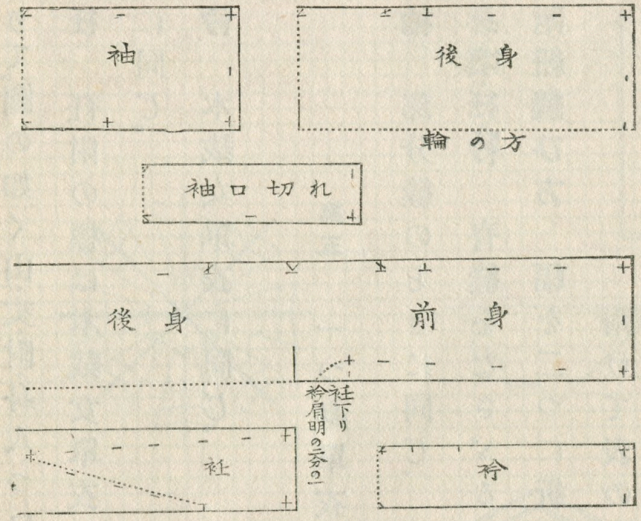
第四　一つ身單衣標附け方

用布の重ね方及び据ゑ方は、常の如し。

一、袖　部分縫のときに同じ。

二、身頃　表を中にして丈を二つに折り、次に、幅を二つに折

一つ身單衣標附け方



りて、圖の如く山・丈・附・身八つ口・後幅・衽下り・前幅の標を附く。

三、**衽**　衽附の標は本裁女單衣に同じく、衿附の標は四つ身單衣に同じ。

四、**衿**　本裁女單衣に同じ。

第五　一つ身單衣縫ひ方

一、**袖**　部分縫のときに同じ。

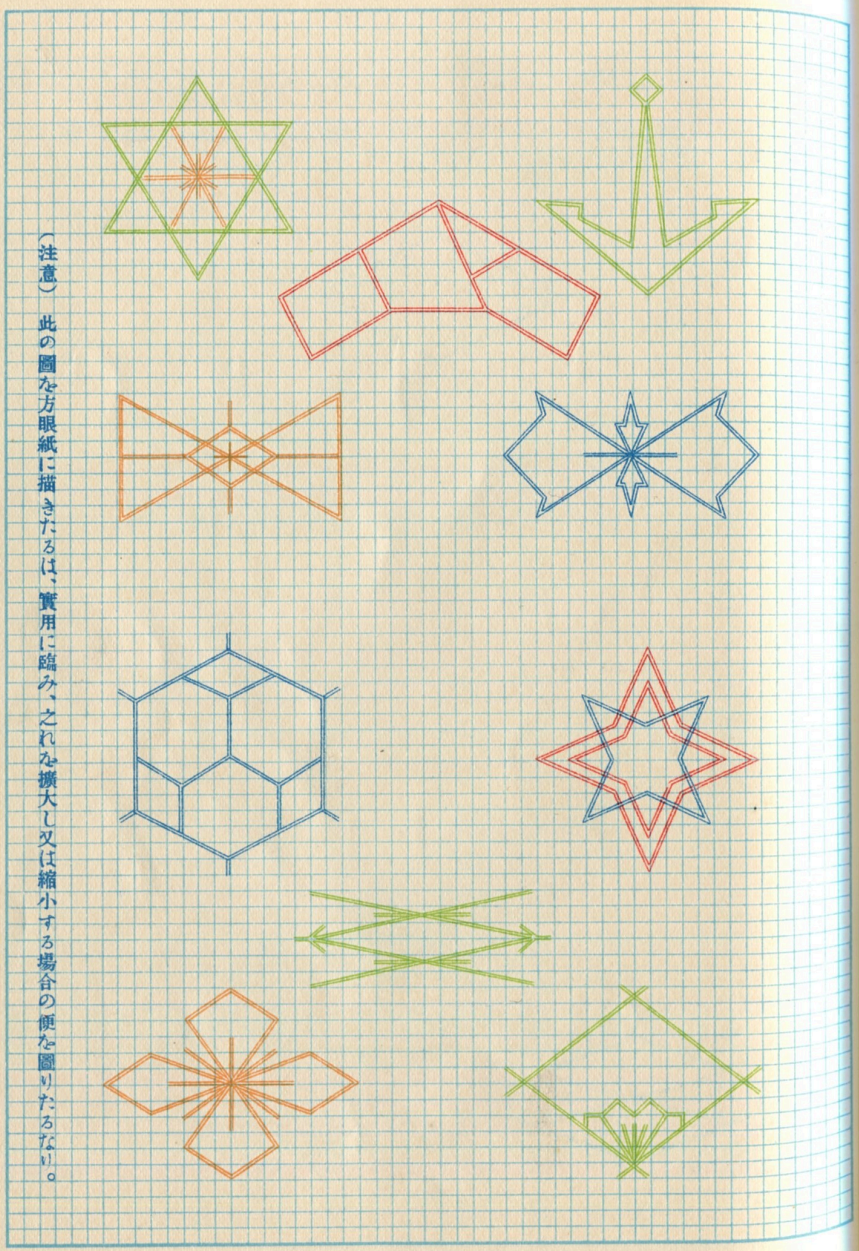
二、**身頃・衽・衿**　脊縫をなさゞる外、總べて、三つ身單衣に同じ。

三、**附紐縫ひ方**　幅を二つに折り、丈と一方の幅とを縫ひ、折りを附けて表の方へ返し、角を正し、二本絲にて、折り山より五粍（一分五厘）許り内に、上圖の如く、表裏交互に大針小針の鬚を掛け、（總べて、表裏

圖の刺飾

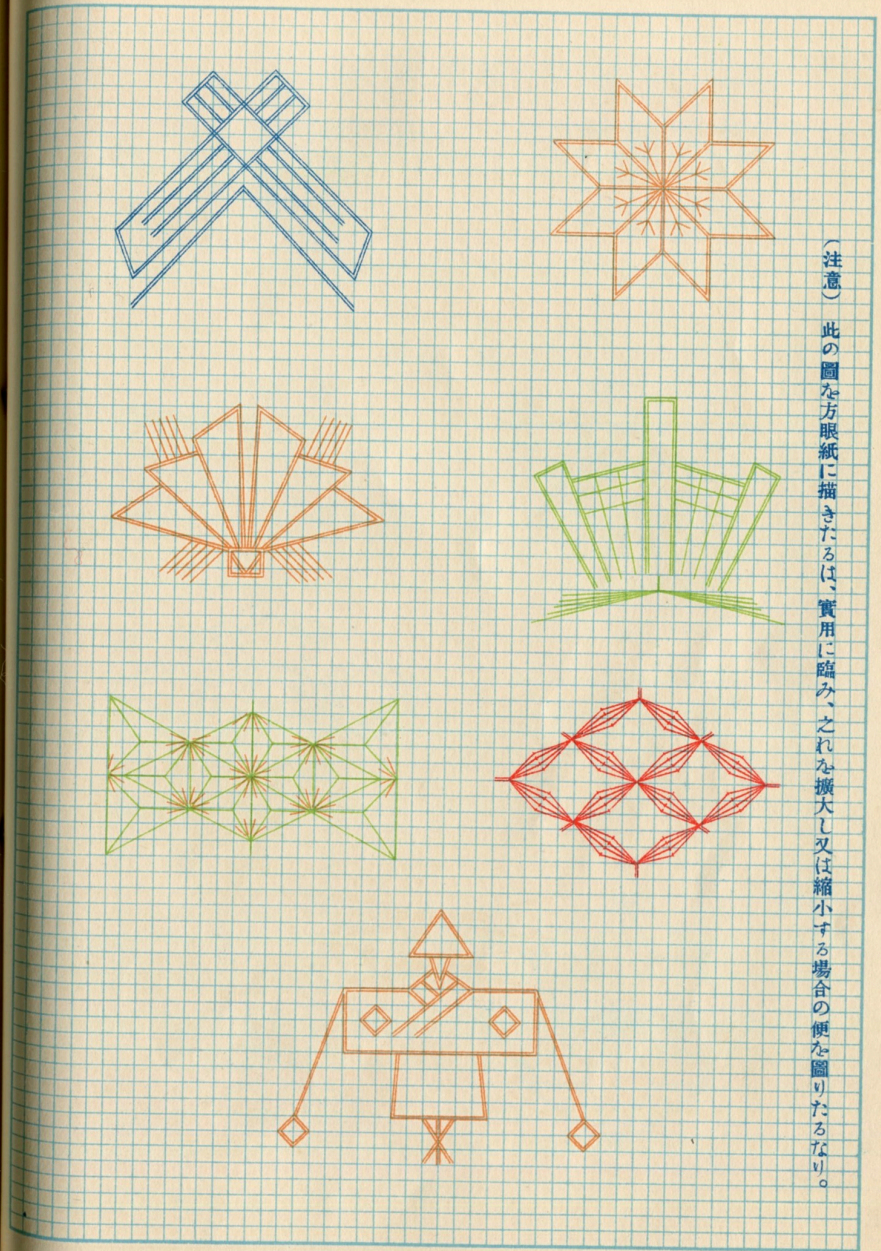
（注意）此の圖を方眼紙に描きたるは、實用に臨み、これを擴大し又は縮小する場合の便を圖りたるなり。

飾刺の圖



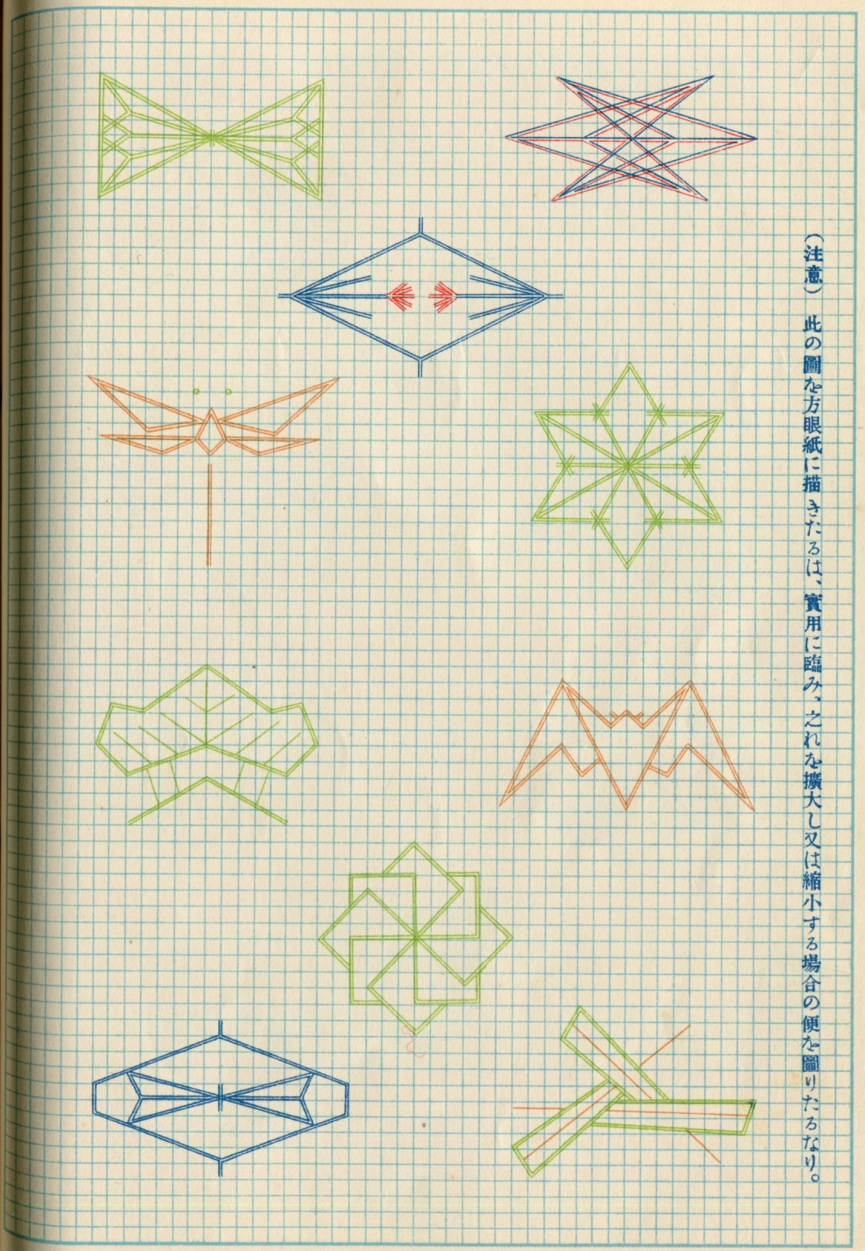
（注意）此の圖を方眼紙に描きたるは、實用に臨み、これを擴大し又は縮小する場合の便を圖りたるなり。

飾刺の圖



（注意）此の圖を方眼紙に描きたるは、實用に臨み、これを擴大し又は縮小する場合の便を圖りたるなり。

飾刺の圖



（注意）此の圖を方眼紙に描きたるは、實用に臨み、之れを擴大し又は縮小する場合の便を圖りたるなり。

の區別なき品に鉸を掛くるには、此の仕方を用ふるなり。）それより、縫ひ殘したる紐の端に、衿幅ほどの心切れを添へ飾刺をなすなり。

四、飾刺の刺し方　飾刺をなすには、先づ適宜の形を選みて半紙の類に描き置き、之れを紐附の所に當てゝ、其の周圍を綴ぢ合せ、好みの色絲を以て、紙の上より形の通りに刺し、其の後ち、綺麗に紙を取り除くなり。

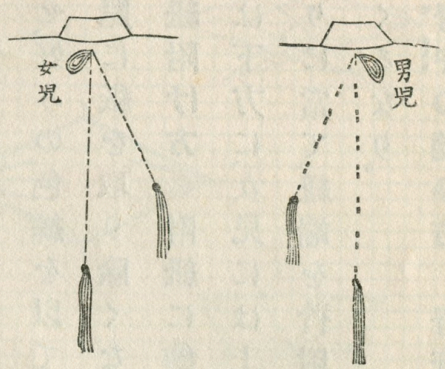
五、紐附け方　附紐に飾刺を施したる後ち、紐の縫ひ目を、男兒には下方に、女兒には上方に向け、紐幅の中央を脇縫の留めの通りに當て、紐端を衿附の所に縫ひ附け、折り返して、衿に絎け附くるなり。

六、脊守の縫ひ方　脊守は、衿附より二糎（五分）程下りて、三〇糎（八

寸）程の間に施すものにして、女兒には大針を脊に七針、右方へ六糎（一寸五分）開きて、斜に五針を出し、（針目の間を五粍（一分五厘許り）とす。）男兒には、女兒の反對に小針のみを表はし、又左方へ斜に開きて縫ふ慣例なり。

脊守を縫ふには、豫め針目を計りて紙に描き、之れを脊に綴ち附け置き、紅白の絲又は青・黄・赤・白・黒の五色絲にて、其の上より縫ひ、後ち、紙を取り去るなり。

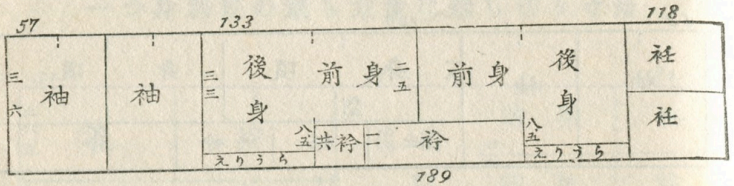
圖の守脊

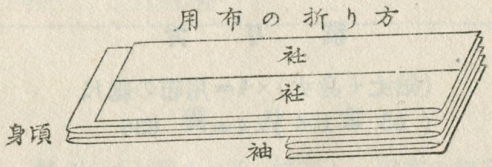


第四節　中裁小裁單衣各種裁ち方・積り方

並幅8米78糎（二丈三尺一寸）にて

前衿裁の裁ち方に並方裁ち寸法





積り方

袖丈×4＋身丈×5－衽下り＝尺總の用布

57 ×4＋133 ×5－ 15 ＝ 878

身丈＝（尺總の用布－袖丈×4＋衽下り）÷5

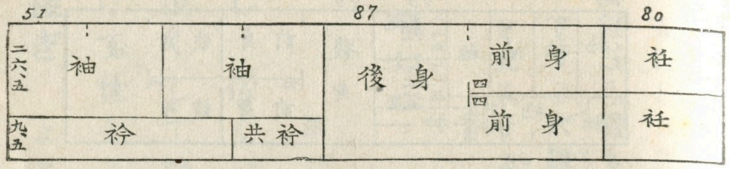
（ 878 － 57 ×4＋ 15 ）÷5＝ 133

袖丈＝｛尺總の用布－（身丈×5－衽下り）｝÷4

｛ 878 －（133×5－ 15 ）｝÷4＝ 57

〔注意〕前衿裁は四つ身よりも大振りにて、用布の總尺は並幅八米七〇糎（二丈三尺稍）なり

並幅4米58糎(一丈二尺一寸)にて
一つ身別衽の裁ち方並に裁ち切り寸法

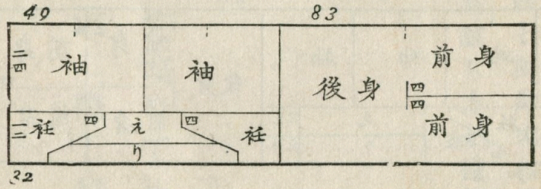


積　り　方

袖丈×4＋身丈×3—衽下り＝用布の總尺

51 ×4＋ 87 ×3— 7 ＝ 458

並幅3米62糎(九尺六寸九)にて
一つ身鉤衽裁ち方並に裁ち切り寸法

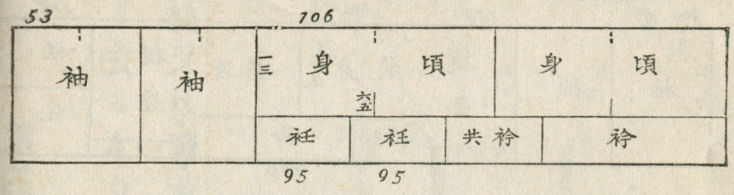


積　り　方

袖丈×4＋身丈×2＝用布の總尺

49 ×4＋ 83 ×2＝ 362

並幅6米36糎(一丈六尺八寸)にて
車裁の裁ち方並に裁ち切り寸法

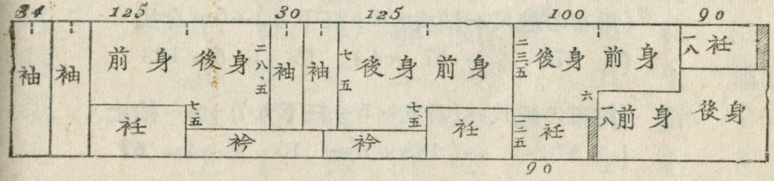


積　り　方

(袖丈＋身丈)×4＝用布の總尺

(53 ＋ 106)×4＝ 636

並幅10米56糎(二丈八尺)にて
筒袖の四つ身と三つ身との裁ち合せ方並に裁ち切り寸法



積　り　方

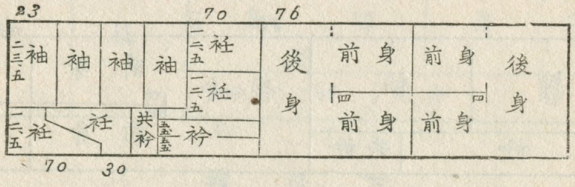
{用布の總尺－(四つ身袖丈＋三つ身袖丈＋四つ身丈)×4}÷3＝三つ身身丈

{ 1056 －(34 ＋ 30 ＋ 125)×4}÷3＝ 100

〔注意〕五—六歳の子供には車裁を用ふることあり。此の裁ち方は、仕立直しの時、身頃を前後し得る便あり。

並幅5米58糎（一丈四尺四寸七）にて

一つ身筒袖二枚の裁ち合せ方並に裁ち切り寸法



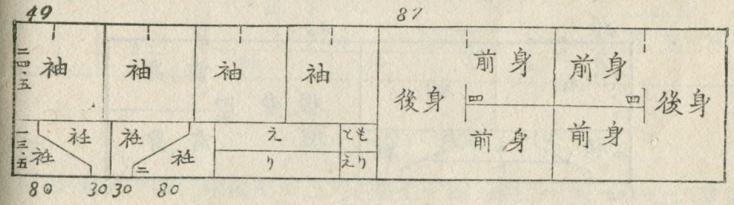
積り方

袖丈×8＋身丈×5－衽下り＝用布の總尺

23 ×8＋ 76 ×5－ 6 ＝ 558

38糎（一尺）幅7米40糎（一丈九尺六寸）にて

一つ身二枚裁ち合せ方並に裁ち切り寸法



積り方

袖丈×8＋身丈×4＝用布の總尺

49 ×8＋ 87 ×4＝ 740

〔設問〕(1)並幅物にて、一ッ身筒袖の袖丈を二二糎、身丈を八〇糎、別衽の衽下りを五糎とし、裁ち切りの總尺を求めよ。

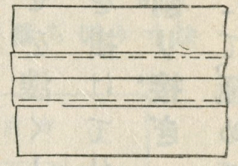
(2)幅三八糎ものにて、一ッ身長袖の袖丈を四七糎、身丈を八五糎、別衽の衽下りを六糎とし、裁ち切りの總尺を求め、其裁ち方を圖解し、各部の寸法を記入せよ。

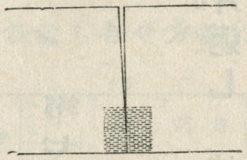
第七章　綿布の繕ひ方

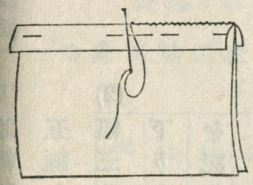
第一　接ぎ方

一、片返し　接ぐべき切れの布目を合はせ、極めて小針に縫ひ、被せを淺くして、縫ひ込みを一方へ折り返し、隱し躾をなし、烙鏝を掛けて仕上ぐるなり。

二、割り接ぎ　よく縞目を合はせて躾を掛け置き、共色の細き絲にて、極めて細かく、返し針又は一針拔きに縫ひ、然る後ち、平烙


ぎ接り割


ぎ接せ合突

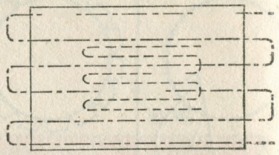

ぎ接け掛

鏝を掛け、更に縫ひ目を開き、少しく濕りを施し、再び烙鏝を掛け、隱し躾をなして仕上ぐるなり。

三、**突合せ接ぎ**　布の裁ち目を其のまゝに突合せ、共色の細き絲にて、合せ目より各二糎程（五分）内へかけ交互に、なるべく絲目の見えざるやう一糎（二―三厘）の隔たりに縫ひ合はすなり。薄地の品には、裏より其の部分に薄き切れを當て置き、右の仕方を施すべし。

四、**掛け接ぎ**　布目を正して折りを附け、縞目を合せて躾を掛け置き、共色の細き絲にて、緯絲一本經絲二本おきに抄ひ行き、終りて躾絲を抜き、裏より霧を吹きて烙鏝を掛くるなり。

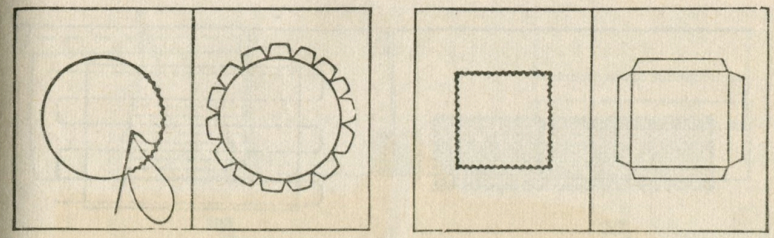
ぎ繼し刺


ぎ繼紙色

第二　繼ぎ方

一、**色紙繼ぎ**　地質の弱りたる所へ、其の部分よりも稍大なる共切れ又は別切れを當てて、其の廻りを綴ぢ、損じ方の多少を見計ひて、共色の繼ぎ絲にて、當て切れの端より一針先きを抄ひ、大針小針にて、圖の如く繼ぐ仕方なり。

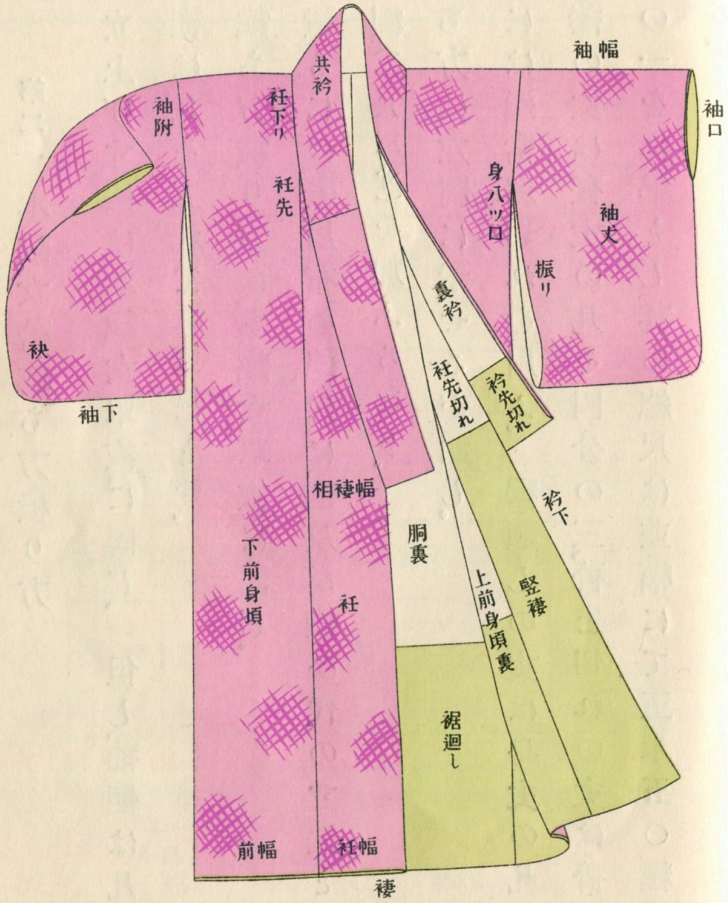
二、**刺し繼ぎ**　地質の少し許り弱りたる所に用ふる仕方にして、色紙切れを當てずして、其の解絲又は共色の細き絲にて、織地に倣ひ刺し置くなり。



三、孔繼ぎ（刳繼ともいふ）過つて衣類に孔などの明きたるときに繕ふ仕方にして、圖に示せる如く、損所を圓形或は角形に切り去り、角には四隅に、圓には周圍に切り込みを入れ、恰好よく裏へ折り返し、次に、共切れの縞目布目を合せ、廻りに假綴をなし置き、表を見て、掛け接ぎの如く、極めて小針に、折り目の角に絲を掛け、表に針目の見えざるやうまつり、然る後ち其の廻りに隱し躾をなし、少しく霧を吹き、烙鏝を當てて仕上ぐるなり。

第八章　本裁女袷

本裁女袷の圖



第二　本裁女袷裁ち方・積り方

普通仕立上げ寸法は、本裁女單衣に同じ、但し、袖袵は凡そ二糎（五厘）裾袵は凡そ五糎（二分五厘）とす。

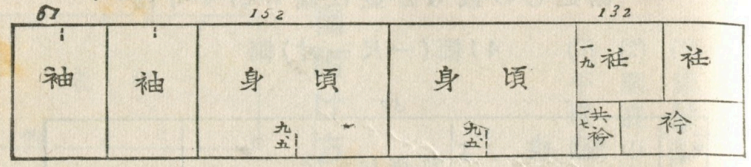
表布の裁ち方・積り方は、本裁女單衣に同じ。

裏布を積るには、表用布の總尺に、袵及び縫ひ代の寸法として、約そ五〇糎（一尺一寸）を加ふるなり。

其の裁ち方は、左圖に示せるが如し。

裾廻しには通常別切れを用ふ。裾廻しの丈は身丈の凡そ三分の一、竪褄の丈は衽丈の凡そ四分の三、衿先切れの丈は衿丈の凡そ五分の一を標準とし、其の總尺は並幅にて三米五〇糎許り（八―九尺）なり。

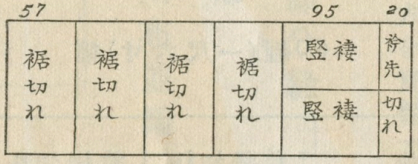
並幅11米16糎（二丈九尺四寸）にて本裁女袷表布の裁ち方並に裁ち切り寸法



表布の積り方

（表布の總尺－袖丈×4＋衽下り×2）÷6＝身丈
（1116 － 61 ×4＋ 20 ×2）÷6＝ 152

並幅にて裾廻しの裁ち方並に裁ち切り寸法

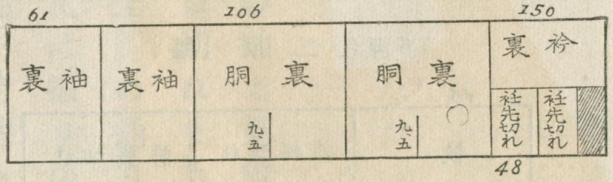


裾廻しの積り方

裾丈×4＋竪褄＋衿先切れ＝裾廻しの總尺
57 ×4＋ 95 ＋ 20 ＝ 343

{裾廻しの總尺－（竪褄＋衿先切れ）}÷4＝裾丈
{ 343 －（ 95 ＋ 20 ）}÷4＝ 57

並幅にて胴裏の裁ち方並に裁ち切り寸法



胴裏の積り方

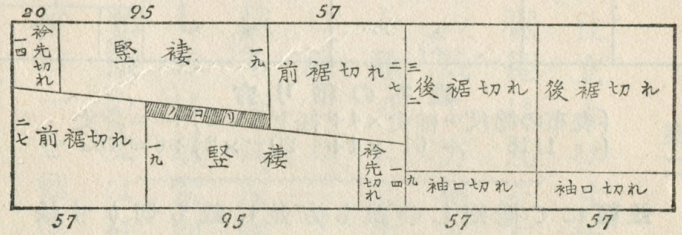
表身丈＋袵×2＋胴接ぎ代－裾丈＝胴裏丈
152 ＋.5 ×2＋ 10 － 57 ＝ 106

表衿丈－衿先切れ×2＋接き代＝衿裏丈
182 － 20 ×2＋ 4×2＝ 150

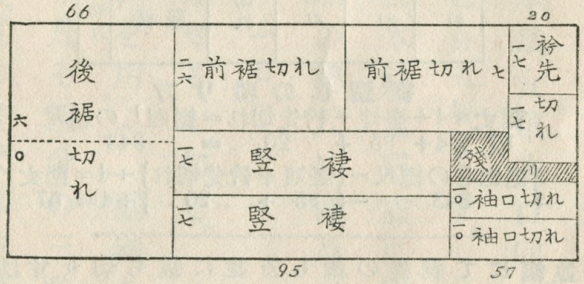
（袖丈＋胴裏丈）×4＋裏衿丈＝胴裏の總尺
（ 61 ＋ 106 ）×4＋ 150 ＝ 818

裾廻しの裁ち方並に裁ち切り寸法

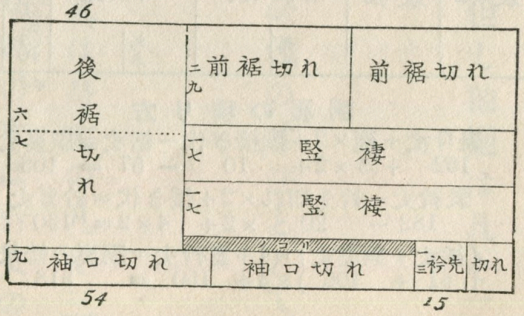
幅（寸一尺一）糎41



幅（寸六尺一）糎60



幅（尺二）糎76



〔設問〕

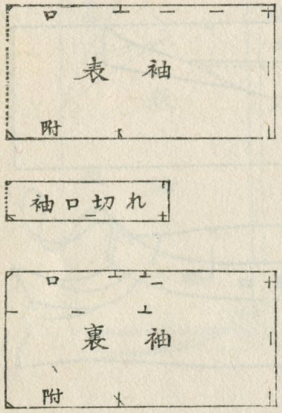
(1) 裾廻しの各部寸法の標準を問ふ。

(2) 胴裏の積り方を示せ。

(3) 平躾・隠し躾の掛け方を實習すべし。

第三　部分縫

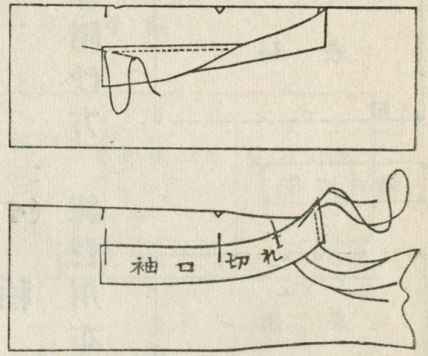
(イ)　袖



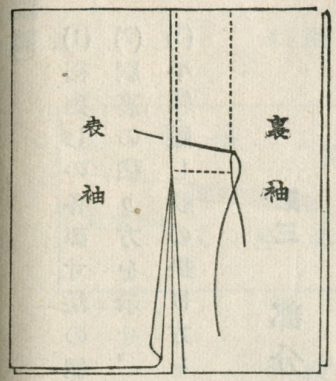
一、標附け方　練習用布並幅二枚を表裏の袖と見做し、四つ割切れを袖口切れとし、適宜の寸法に依り、上圖の通り標を附く。裏袖の丈は、振りの方にて、表袖より四粍（一分）詰める。

二、縫ひ方　先づ、第一圖の如く、袖

第一圖

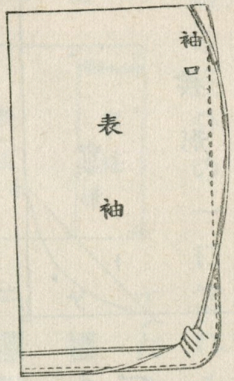


第二圖

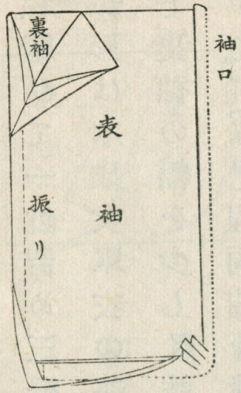


口切れを裏袖の標に合せ、袖口切れの丈標より縫ひ始め、角の所にて一針返し、標通りに奥を縫ひ行き、他方の角にて又一針返して、他方の丈標まで縫ひ、両角を三角に折りて、袖口切れの方へ折りを附け、引き返して、裏より烙鏝を當て、鬚をかけ、(厚地の切れは、丈標の所を折らず、其のまゝ千鳥掛になす。)表裏の袖口標を合せ、表布を見て袖口を縫ひ、(標より四粍程(一分)両端を縫ひ殘す。)二粍(五厘)の被せに表布の方へ折り、第二圖の如く、袖口標の所に四つ留めをなすなり。

第三圖

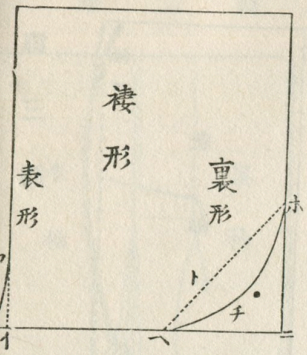


第四圖



四つ留めの仕方は表裏の内袖にて外袖を挟み、先づ、裏の内袖の衽山より針を出して、外袖の衽山を抄ひ、次に、表の外袖の被せ山より、布の縦目に沿ひて、内袖の被せ山を淺く抄ひ、再び裏の内袖に戻り、始めの絲と結びて撚り合せ置くなり。それより、口下八糎(二寸程)を表裏別々に縫ひ、(表は返し針になし、留より少し許り縫ひ代の方へ寄せ、裏は幅の方へ二粍(五厘)寄せて縫ふ。)表は内袖の方へ斜に折り、裏は縫ひ目を

割りて綴ぢ合せ、以下四つ縫ひに袂を縫ひ廻し、袖下の三分の二程縫ひて一針留め、三分の一許りは表裏別々に縫ひ、折りを附け、（袂形は本裁女單衣の部分縫に於て說明したり。）袖幅の標をなし、裏袖の幅を少しく詰め、表布を見て振りを縫ひ廻し、（袖附標より二粍（五厘）程両端を縫ひ殘し、袖下の所は裏を稍張り加減に縫ふ。）平烙鏝をかけ、引き返して躾を掛くるなり。

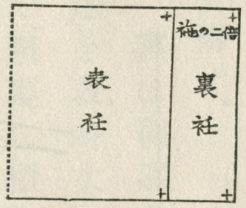


（ロ）褄　袖八粍（二分）

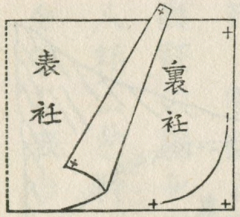
一、**褄形**　表形の切り下げは、上圖に示せる如く、イ・ロの間を袖の一倍半、イ・ハの間を袖の四分の一とし、ハ・ロの二點に亘りて、程よく恰好を附け、標をなすなり。

裏形のニ・ホ間は袖の二倍に一糎（二分）を加へたるものとし、ニ・ヘの間は袖の二倍より表の切り下げを減じたる長さとし、ヘ・ホ線の三分の一に當れるトよりニの方へ、袖の凡そ五分の三を隔てたる所をチとし、ホ・チ・ヘの三點に亘り、恰好よく標するなり。

第一圖



第二圖



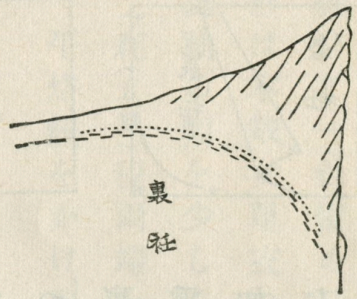
二、**標附け方**　練習用布半幅一枚を取り、丈を二つに折りて、表裏の衽と見做し、第一圖の如く、裏衽の裾を袖の二倍だけ出して、表裏の衽を重ね、褄先及び衽幅の標をなし、次に、第二圖の如く、表衽を除きて、裏衽に褄形の標を附くるなり。

三、**縫ひ方**　裏衽の褄形の標通り小針に縫ひ、其

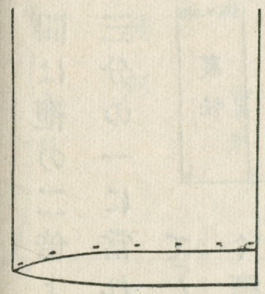
の中程にて略表の幅と等しき長さに、絲を引き締め、烙鏝にていせを消す。

表裏の標を合せ、程よく待針を打ち、裏を見て縫ひ、褄先を返し留にし、それより、平烙鏝を當てゝ形を整へ、四粍（一分）被せに表の方へ折り、折り目より五粍程（一分五厘）上に、針目の間を二糎程（五―六分）に、隱し躾を掛け、後ち、衿下を縫ふなり。

圖三第



圖四第



〔設問〕

(1)女袷の袖につき、袖口切れの掛け方、袖口の留め方を述べよ。

(2)褄の標附け方及び縫ひ方を說明すべし。

第四　本裁女袷標附け方

一、袖　部分縫のときに同じ。唯寸法に差異あるのみ。

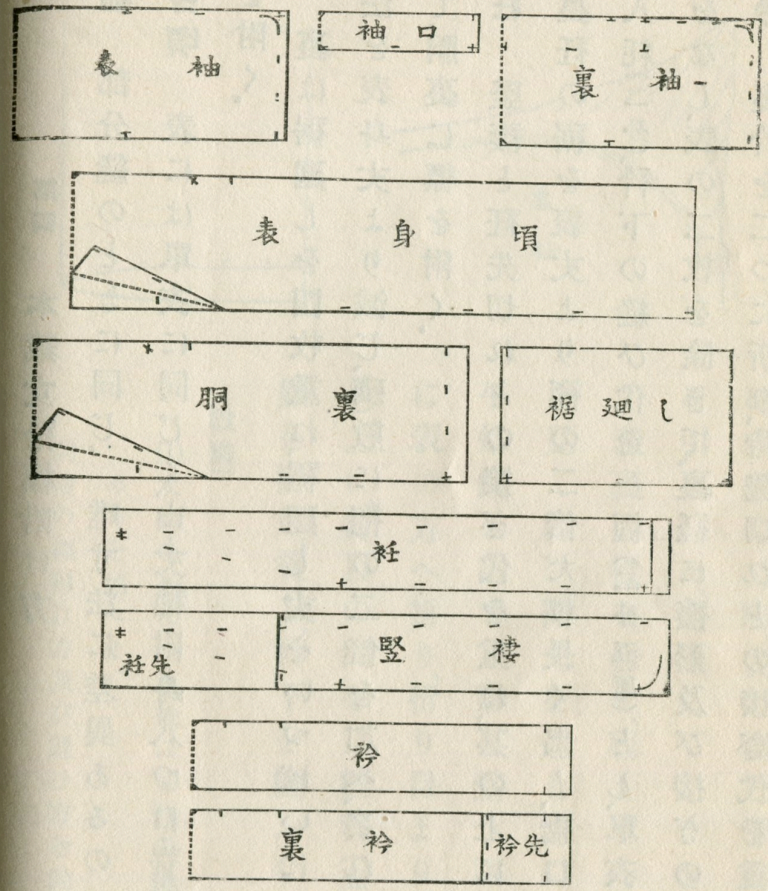
二、身頃　表には單衣に同じく、山・丈・袖附・身八つ口・脊衽下りの標を附く。

裏は裾廻しを四枚重ね、裾廻し丈をいつぱいに標し、其の寸法を表身丈より減じ、殘數に衽の二倍を加へ、之れを胴丈として、胴裏に標を附く。

三、衽　竪褄と衽先切れとの接ぎ代を重ね、其の上に表衽を載せ、裏衽の裾を表丈より衽の二倍だけ長く出し、裾口の縫ひ代を八粍（二分）、衿下の縫ひ代を一糎（三分五厘）とし、單衣と同樣に標をなし、表の二枚を除きて、裏衽に褄形及び接ぎの標をなす。

四、衿　裏衿を二つに折り、衿先切れとの接ぎ代を重ね、表衿を二

本裁女袷標附け方



つに折り、山を揃へて其の上に載せ、本裁女單衣のときに同じく標を附く。

〔設問〕本裁女袷の裾廻し及び胴裏の標附け方を述べよ。

第五　本裁女袷縫ひ方

一、**袖**　部分縫のときに同じ。

二、**表身頃**　脊を縫ひて肩幅・後幅を標し、脇を縫ひて折りを附く。

三、**裏身頃**　胴裏と裾廻しとを縫ひ合せ、胴の方へ折り、躾を掛け、脊を縫ひて肩幅・後幅を標し、表布と反對の方に折り、裾口の所で後幅を二粍(五厘)許り詰めて、脇を縫ひ、折りを附け、表裏の裾口を、表を見て縫ひ合せ、四粍(一分)の被せに表へ折り、袵を定めて、假躾を掛け、表裏の脊・脇の縫ひ目を綴ぢ、身八つ口は前身にて後身を挟みて四つに留め、下の方より縫ひ上げ、袖附の二粍(五厘)下にて絲を留むるなり。

四、**袖附**　山及び附の標を合せ、附の始め終りは四つ留めになし、之れより表裏別々に小針に縫ひ、表袖は袖の方へ、裏袖は身の

方へ折りを附く。但し、袖附の四つ留めの仕方は、表袖より順次に、表身・裏袖・裏身を抄ひ、再び元に戻りて結び合せ置くなり。

前身の表裏を合せ、衽附の方に假綴をなし、幅の標を附く。

五、**褄縫・衽附**　先づ、竪褄と衽先切れとを接き合せ、衽先切れの方へ折りて躾をかけ、部分縫のときの如く褄を縫ひ、次に、衽と前身との衽を揃へ、衽にて前身を挟み、左右とも裾の方より一針抜きに四つ縫ひになし、表の方へ折り、次に、裏幅を少しく詰めて、衿下の表裏を縫ひ合せ、同じく表の方へ折り、引き返して躾をかけ、衿附の所に假綴をなす。

六、**衿附**　先づ裏衿に衿先切れを接き合せ、裏衿の方へ折りて躾をかけ、本裁女單衣のときの如く衿附をなし、衿絲を附く。

七、**共衿**　本裁女單衣に同じ。

八、**裾綴**　表裾の折り目より五粍程（一分五厘）上りたる所（裏衽を除く。）に裾綴をなす。綴ち方は、針目を小さくして、衽幅に二針、前幅に三針、後幅に四針を裏に出し、其の間に一針づつ表に出すなり。

〔設問〕本裁女袷の縫ひ方順序を述べよ。

第九章　本裁男袷

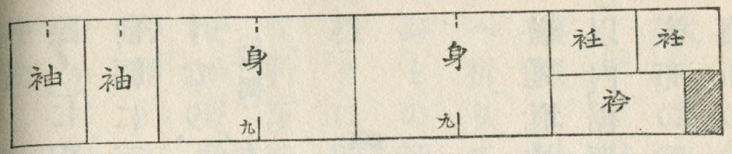
第一　本裁男袷裁ち方・積り方

普通仕立上げ寸法は、本裁男單衣に同じ、但し、袖袵は二粍（五厘）以内、裾袵は四粍（一分）とす。

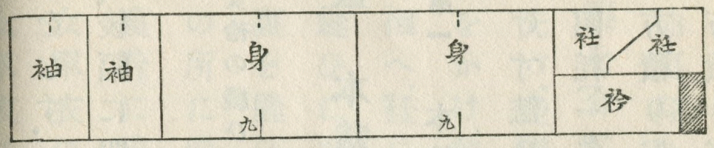
表布の裁ち方・積り方は、本裁男單衣に同じ。

裏布の裁ち方・積り方は、裾廻し附きの場合には、本裁女袷に同

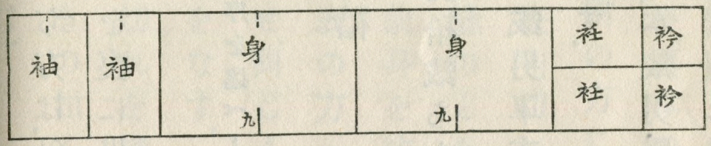
第一圖　男物裏布の棒衽裁ち方



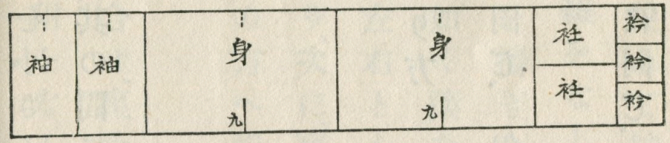
第二圖　男物裏布の鉤衽裁ち方



第三圖　男物裏布の二つ割衿裁ち方

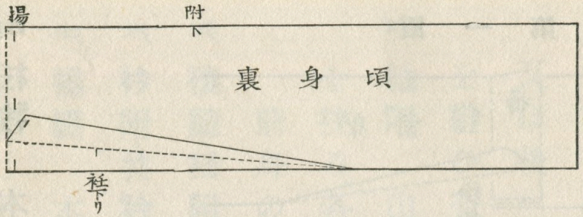


第四圖　男物裏布の三つ割衿裁ち方



じ、唯寸法の差異あるのみ。

通し裏の場合には第一圖の如く裁つべし。裏地の短き物は第二圖の如く、鉤衽裁になし、或は第三圖又は第四圖の如く、衿を二つ割又は三つ割になすことあり。



〔注意〕裏布の身丈及び衽丈は表布よりも、袵の二倍以上長きを要す。尚ほ、餘裕あらば、成るべく長く裁ちて、揚を多くするを宜しとす。斯くなし置けば、仕立直し等の際に便利なるべし。

第二　本裁男袷標附け方

一、**袖**　本裁女袷に同じ。但し、裏袖の人形の方に於ける丈及び幅は表袖より二糎程(五厘)詰むべし。

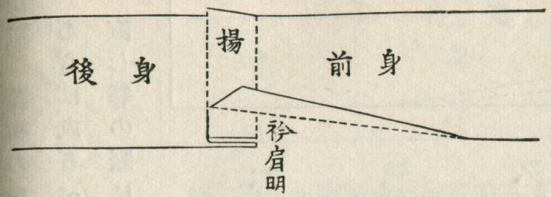
二、**表身頃**　本裁女袷に同じ。但し、揚の標附け方は本裁男單衣に同じ。

三、**裏身頃**　裾口を揃へ、四枚を重ねて平に据ゑ、丈は表より袵の二倍だけ長くし、尚ほ餘りあらば、肩にて揚の標を附け、其の所より袖附及び衽下りの標をなすこと、上圖に示すが如し。

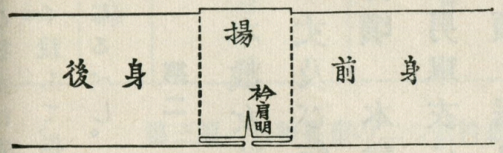
四、**衽衿**　本裁女袷のときに同じ。

第三　本裁男袷縫ひ方

第一圖



第二圖



一、**袖**　縫ひ方は略ぼ女袷のときに同じと雖も、人形及び袖下八糎程(二寸)は表裏の袖を別々に縫ひ、表袖は常の如く折り、裏袖は人形の縫ひ目を割りて、袖下を折り、其の角を表と共に一針返して留むるなり。

二、**表身頃**　先づ、脊を縫ひ、幅標をなし、次に、揚をなし、脇を縫ふ。

三、**裏身頃**　脊を縫ひ、幅標をなし、(裾口にて、表より二糎程(五厘)詰める。)折りを附け、(脊は表と反對の方へ折る。)次いで、揚をなし、其の多少によつて、第一圖又は第二圖の如く、縫ひ目を割り、又は後へ片返しになして躾をかけ、それより、脇縫をなし、裾口を縫ひ合せ、表裏の脊・脇の縫ひ目を綴ぢ合す。

四、**袖附**　山を合せ、表布は袖にて身頃を挟み、裏布は身頃にて袖を挟み、各四つ留めをなし、本裁女袷に倣ひて袖附をなす。

前身の表裏を綴ぢ合せ、幅標をなす。

五、**褄縫・衽附**　本裁女袷に同じ。

六、**衿附・共衿**　本裁男單衣に同じ。

七、**裾綴**　本裁女袷に同じ。但し、針目は前幅に四針、後幅に五針を裏に出すなり。

〔設問〕(1)本裁男袷の女物と異なれる所を述べよ。
(2)表裏の揚の仕方を説明せよ。

第十章　四つ身袷

第一　四つ身袷裁ち方・積り方

普通仕立上げ寸法は四つ身單衣に同じ。但し、袘は本裁女袷に準ず。

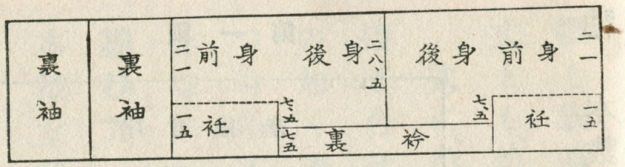
表布の裁ち方・積り方は四つ身單衣に同じ。

裏布の總尺を求むるには、**裾廻し附き**の場合には、表用布の總尺に、袘の八倍と胴接ぎ代の四倍とを加ふべく、**通し裏**の場合には、表用布の總尺に袘の八倍だけを加ふべし。

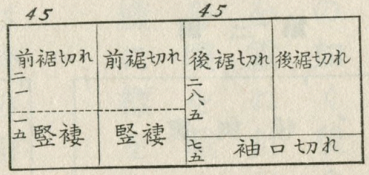
裾廻しの總尺は、並幅二米（五尺内外）を通常とす。

胴裏及び裾廻しの裁ち方・積り方は左圖の如し。

並幅の裏胴身つ四てにの裁ち方



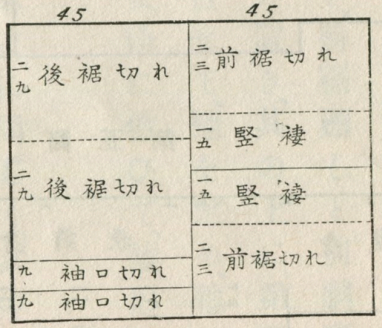
並幅1米80糎（寸八尺四）にての裾廻しの裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

表布の總尺－裾廻しの總尺＋袘×8＋接ぎ代×4＝胴裏の總尺

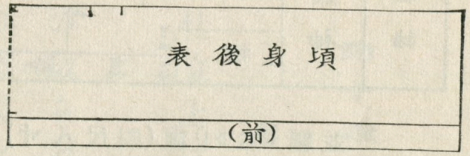
幅90糎（二尺）76糎（寸四尺二）にての裾廻しの裁ち方並に裁ち切り寸法



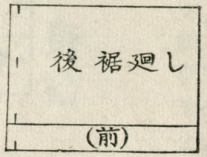
第二　四つ身袷標附け方・縫ひ方

四つ身袷の附け方

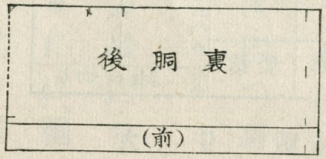
第一圖



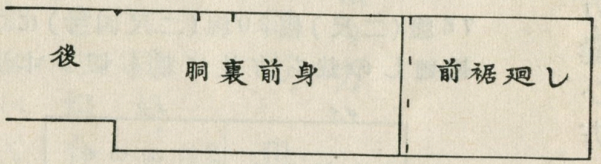
第二圖



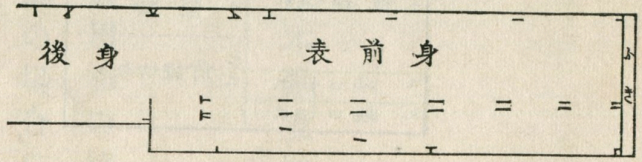
第三圖



第四圖



第五圖



一、**袖**　本裁女袷に同じく標をなす。

二、**身頃**　四つ身單衣に倣ひて表身頃を重ね、第一圖の如く、山・附・八つ口の標をなし、褄廻しの四枚を重ね、第二圖の如く、褄丈を標し、表身丈より褄丈を減し、殘數に袵の二倍を加へたるを胴丈とし、第三圖の如く、胴裏に、山・丈・附・身八つ口・脊の標を附く。

次に、第四圖の如く、後身頃を左に開き、前褄廻しと前胴裏と接ぎ合せの標を重ね、針又は絲にて留め置き、其の上に、第五圖の如く、表の前身頃を載せ、各部の標を合せて、袵を定め、他は四つ身單衣と同樣に、標をなし、後ち、本裁女袷に倣ひて、褄形の標をなす。

三、**縫ひ方**　衽及び衿の附け方は、四つ身單衣に同じく、其の他は本裁女袷と異なることなし。

〔附言〕三つ身袷の普通仕立上げ寸法及び表布の裁ち方・積り方は、三つ身單衣に同じ。

裾廻し附き裏布の總尺を求むるには、表布の總尺に袘の六倍と胴接ぎ代の三倍とを加ふべく、通し裏の場合には、表布の總尺に、袘の六倍だけを加ふべし。

胴裏の總尺を求むるには、表用布の總尺に、袘の六倍と胴接ぎ代の三倍とを加へ、之れより裾廻しの總尺を減ずべし。

裾廻しの總尺は、並幅凡そ一米三〇糎位(一尺五寸)を通常とす。其の裁ち方は用布を三等分し、其の一枚を半幅に裁ちて、前裾とし、他の二枚を裁ち合せて、後裾と竪褄とに充つるなり。

第十一章　本裁女綿入

第一　本裁女綿入裁ち方・積り方

普通仕立上げ寸法は、本裁女單衣に同じ。但し、袖袘は凡そ五糎(一分五厘)、裾袘は八糎(二分)とす。

裁ち方積り方は表裏共に本裁女袷に同じ。

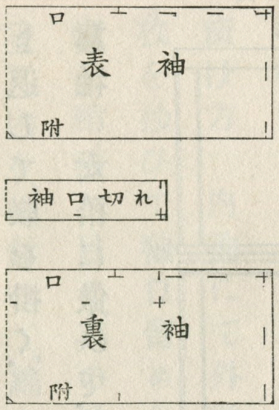
〔設問〕

(1)裾廻しの用布は、通常何程を要するか。

(2)本裁の胴裏積り方を説明せよ。

第二　部分縫　袖・褄　袘一糎(三分)

一、袖標附け方　練習用布並幅二枚と、四つ割切れ一枚とを以て、表裏の袖及び袖口切れと見做し、表袖には、本裁女袷の如く標を附く。



裏袖には、振りの方にて、丈・幅を表袖より四糎程(一分)詰め、女袷の如く標をなし、それより、圖の如く袖口標の所にて縫ひ代を一・五糎(四分)とし、四糎程(一寸)下りたる處より、尚ほ四糎(一分)深くして、袂まで縫ひ代の標をなす

二　袖縫ひ方

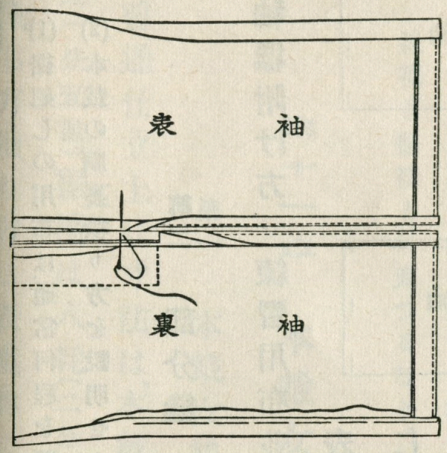
表袖　袖下より標通りに縫ひ、幅標を附け、内袖の方へ折り、引き返して躾を掛く。

裏袖　女裕に倣ひて、袖口切れを掛け、標通りに縫ひ、幅標をなし、袖口の所は縫ひ目を割り、其の他は内袖の方へ折る。

袖袘綿作り方　小袖綿の丈を袖口明の二倍より四糎程（一寸）長くし、二糎（五分）幅一枚に、一糎（三分）幅一枚を重ねて、綿の厚薄を加減すべし。

袖袘綿含め方　袘綿を袖口切れ

袖口・振りの綿含め方



に當て、左の拇指にて綿を含めながら、右指にて袘山を折りつつ、先づ、袖口標の二糎程（五分）下を一針綴ぢ、次に、袖口標にて一針、又次に、二糎程（五分）上に一針、其れより上方は等分に四糎程（一寸）の針目にて、表へは小さく針目を出して、綴ぢ行き、山より五粍程（一分）の所に一針出し、他方の袖口明を同様に綴ぢ附くるなり。

絎け方　内袖にて外袖を挟み、袖口標の所にて、極めて淺く四枚を抄ひて袖口留めをなし、袖口留めの二糎程（五分）上までは、表を稍張り目に、其の餘は、表を弛め加減に、表の折り目の二粍（五厘）内を、小針にて、綿を抄はぬ様絎け行き、其の絲にて、袂先まで表裏の縫ひ目を綴ぢ合すなり。

振りに薄く綿を含め、四・五糎（一寸二分）おきに、表へ小さく針

目を出し、袖口のときと同様に綴ぢ、其れより、袖下の縫ひ目の前後二糎（五・六分）は裏を張り加減に、其の餘は平に、表の折り目の二糎（五厘）内を絎け行くなり。

三、褄縫ひ方　練習用布半幅一枚を衽と見做し、本裁女袷の部分縫に倣ひ、標を附けて縫ひ上げ、然る後ち、綿を入る。

裾袘綿作り方　小袖綿の丈を、衽幅より二糎程（五分）長くし、袘の四倍・三倍・二倍幅を各一枚づつ順次に重ねて、綿の厚さを加減し、最後に袘と同寸のものを、八糎（一分）の袘には一枚、一糎（三分）の袘には二枚（袘の大きさ四糎程（一分）増す毎に一枚を加ふる割合。）を重ねて心となし、（眞綿を細くして心に入るゝことあり。）其の上に、中央より少しくずらして尺を當て、之れを二つに折り、よく壓へ置くなり。

裾袘綿含め方　袘綿を袘山に含め、假綴をなし、褄先の所は裏衽にて袘綿を包み、丈を揃へて表裏の衿下を合せ、表を見て折り目の二糎（五厘）内を小針に絎け上ぐるなり。

第三　本裁女綿入標附け方・縫ひ方

標附け方は、袖につきては部分縫のときに同じく、其の他につきては本裁女袷に同じ。

縫ひ方は左の如し。

一、袖　部分縫のときに同じ。

二、表身頃　先づ、脊を縫ひて、幅標をなし、脇を縫ひて前幅を標し、衽・衿及び袖を附け、常の如く折りて烙鏝を掛く。　烙鏝にて落ち着き難き品には、躾を掛くべし。

三、裏身頃　表身頃に倣ひて、胴裏及び裾廻しの脊・脇を縫ひ、脊は

表と反對の方へ、其の他は常の通り折りを附け、胴接ぎをなし、胴の方へ折りて、襠をなし、前幅を標し、それより、衽・衿・袖を附け、袖は身頃の方へ折り、其の他は常の如く折る。

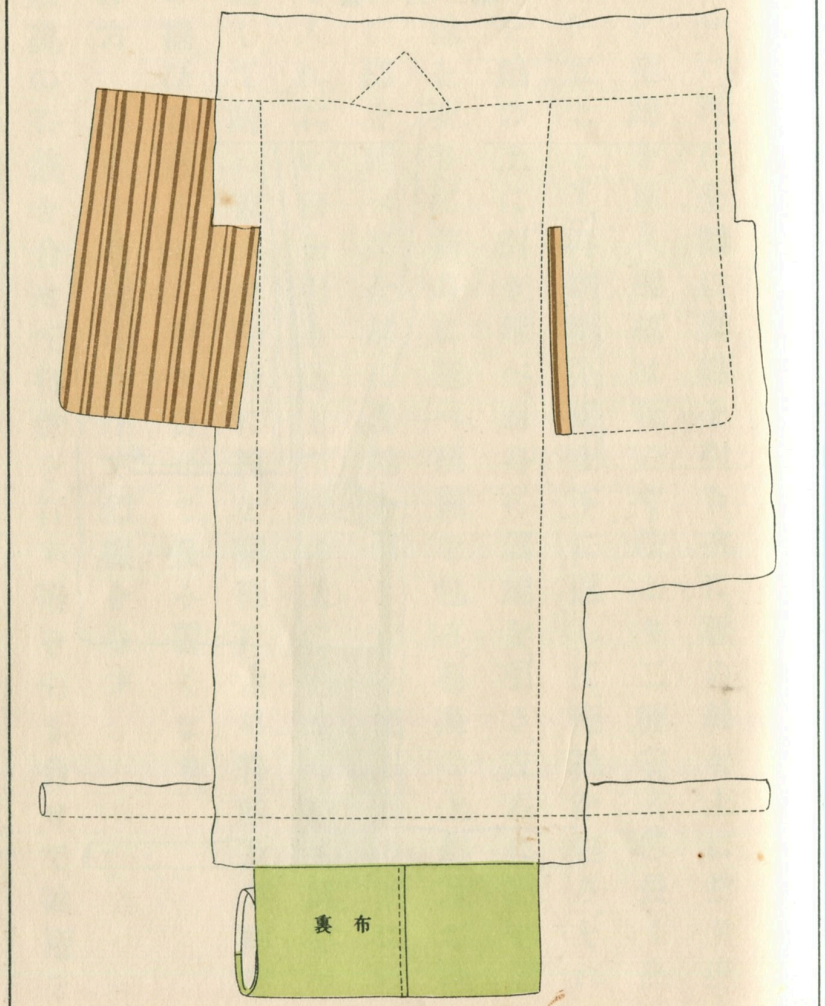
四、裾合せ　表裏の縫ひ目を合せ、表を見て裾を縫ひ、(衽の部分を除く。)衽の裏を見て左右の褄を縫ひ、四粍(一分)の被せに表へ折り、衽には隱し襠をかく。次に、表の衿下・裾口・身八つ口等に襠を掛け、裏の身八つ口に綿を含め、裏を出して夜着疊みとなす。

五、綿入れ方　袖袘綿及び裾袘綿の作り方は、部分縫に於て說明したるが如し。

疊み置きたる表身頃の後を引き延べ、脊を上にして、左右の袖を開き、全體に眞綿を引き、小袖綿を、裾より五糎(一寸五分)長く、後幅より四〇糎程(一尺)左右に出して、上の方へ引き延べ、綿

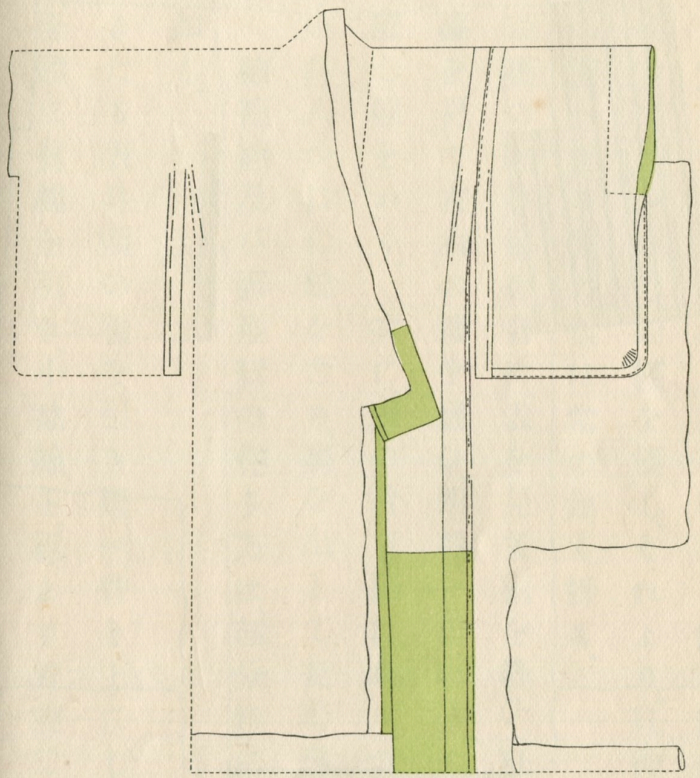
綿入れ方

第一圖



綿入れ方

第二圖



の繼ぎ目を平らにし、厚さを加減し、振りの邊は綿をちぎりて引き分け、再び全體に眞綿を引き、次に、裾の綿を上に折り返し、裾袵に袵綿を据ゑ、(袵綿は袵の寸法より二糎(五-六分)長く出し置くを宜しとす。)再び裾の綿を下に返して、袵綿を包み、それより、裏を綿の上に引き延べ、前身に眞綿を引き、左右に出し置きたる綿を折りて前身に延べ、袵綿を包み、前身の上部及び袖には新に綿を延べ、又全部に眞綿を引きたる後ち、表の下に手を差し入れ、其の前を引き返して綿の上に被ぶせ、袖も同じく引き返して綿に被ぶせ、十分に綿を裾袵に含め、脊・脇及び袖等表裏の縫ひ目を正しく引き合せて、疊み置くなり。

六、**綴け方**　裾袵を手前に向けて假綴をなす。

表裏の脊筋を合せて待針を打ち、衿を引き合せて袖袵を定

め、部分縫に倣ひて、袖口・身八つ口を絎け上ぐ。

衽附の表裏の縫ひ目を合せ、裾より相褄の一四―五糎(三―四寸)上まで綴ぢ附く。

衿下の所は裏布の幅を少しく詰めて折り、綿を含め、相褄標の所にて、小さく三針綴ぢ、衿下を絎け上ぐ。(褄先四糎程(一寸)は絎けずして、縫ふこととあり。)

衿附の表裏の縫ひ目を綴ぢ合せ、三つ衿切れを入れ、本裁女衿の如く衿先留めをなし、衿先を縫ひ、衿幅を定め、然る後ち、程よく綿を整へ、假縫をなして絎け上ぐ。**衿先の留め方**には、衽にて衿を挟み、二本絲にて、表衽・表衿・裏衿・裏衽の順序に、折り山を極めて淺く通し、絲の兩端を結びて、其の三本を撚り合せ置き、他の一本にて衿先を縫ふ仕方あり。

脊・脇の縫ひ目を、裾より七五糎程(二尺)上まで綴ぢ、本裁女衿と同じき仕方に裾綴をなす。

本裁女單衣に於て說明したる如く、共衿を掛け、衿絲を附く。

〔設問〕袖口綿の綴ぢ方・留め方及び絎け方を說明せよ。

第十二章　本裁男綿入

第一　本裁男綿入裁ち方・積り方

普通仕立上げ寸法は、總べて本裁男單衣に同じ。但し、袖袵は凡そ四糎(一分)、裾袵は凡そ八糎(二分)とす。

裁ち方・積り方は、表裏共に本裁男衿に同じ。

第二　本裁男綿入標附け方・縫ひ方

標附け方は、總べて本裁男袷に同じ。但し、裏袖口下の縫ひ込みの標は本裁女綿入に同じ。裏袖の狹きものは、袖口切れを出して補ひ、尙ほ不足なるときは、別に足し切れを附すべし。

縫ひ方は、左の順序によるべし。

一、**袖**　表袖を標の通り人形より縫ひ、折りを附け、引き返して襠を掛く。

裏袖も人形より縫ひ始む。其の他は、本裁女綿入に同じ。

二、**表身頃**　脊を縫ひ、幅を標し、揚を縫ひ、脇縫をなし、衽・衿及び袖を附く。

三、**裏身頃**　裏の縫ひ方は表に準じ、袖附及び脊縫の折りは、表と反對の方に折るべく、他は總べて本裁女綿入に同じ。但し、用布に餘分あらば、通し裏のときには、肩にて揚をなし、裾廻し附きのときには、胴接ぎに縫ひ込み置くべし。

四、綿入れ方・綴け方　綿入れ方及び綴け方等は總べて本裁女綿入に同じ。但し、裾綴は本裁男袷に同じ。

第十三章　一つ身綿入

第一　一つ身綿入裁ち方・積り方

普通仕立上げ寸法は、一つ身單衣に同じ。但し、袖袵は凡そ五糎（一分五厘）、裾袵は凡そ一糎（三十四分）とす。

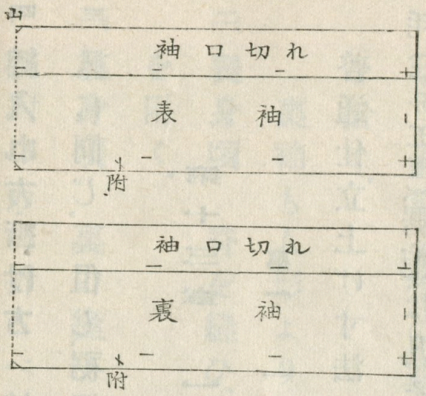
表布の裁ち方・積り方は、一つ身單衣に同じ。

裏布には、通し裏と裾廻し附きとの二樣あり。

通し裏の總尺は、表用布の總尺に袵の四倍（別衽のときは六倍）を加へたるものにして、**裾廻し附き**の總尺は、表用布の總尺に袵

の四倍と胴接ぎ代の二倍(別衽のときは袍の六倍と胴接ぎ代の三倍)を加へたるものなり。

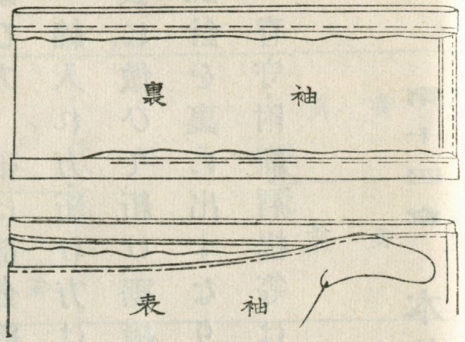
第二　部分縫　濶袖(ひろもで)



一、標附け方　練習用布半幅二枚を以て表裏の袖とし、四ツ割切れ一枚を袖口切れと見做し、左圖の如く表裏の袖を据ゑ、適宜の寸法に依り、山・丈・附・幅の標をなす。

裏袖の丈は表袖の丈よりも、袖口の方にて一糎程(三分)、振りの方にて四糎程(一分)詰める。

袖口綿含め方



一、縫ひ方　先づ、表の袖下を縫ひて内袖の方へ折り、袖口を標通りに折りて鯑を掛け、裏袖に袖口切れをかけ、口の方へ折りて鯑を掛け、次に、裏袖下を縫ひて折りを附け、袖口及び振りに綿を含める。袍綿の作り方は本裁女綿入に同じ。

三、綴け方　表裏の山・袖下の縫ひ目を合せ、袍を定め、總體の釣合を計り、待針を打ち、袖下の縫ひ目の所を留め、表袖を見て、表の袖口折り山の二糎(五厘)程内を、綿を抄はぬやう綴け、本裁女綿入に倣ひて振りを綴け上ぐ。

(注意)　一つ身には、多く筒袖を用ふれとも、晴着には濶袖を用ふることあり。

第三　一つ身綿入標附け方・縫ひ方

一、標附け方　袖は部分縫のときに同じ。其の他は本裁女綿入に倣ひて、標を附くべし。

二、縫ひ方　袖は部分縫に、其の他は本裁女綿入に倣ふ。

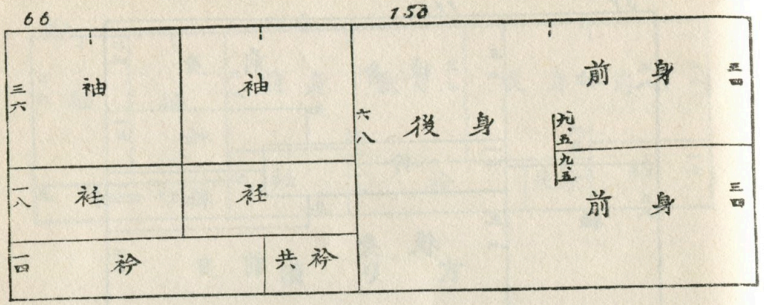
綿入れ方・絎け方は、凡べて本裁女綿入に同じ。但し、衿は單衣に倣ひて絎け、裾綴の針目は、衽幅に二針、前幅に二針、後幅に五針を裏に出すなり。

脊守・附紐・肩揚等は、單衣のときに同じ。

第十四章　本裁・中裁・小裁の各種裁ち方・積り方

本裁の裁ち方並に裁ち切り寸法

（寸九尺四丈一）糎64米5幅（寸八尺一）糎68にて

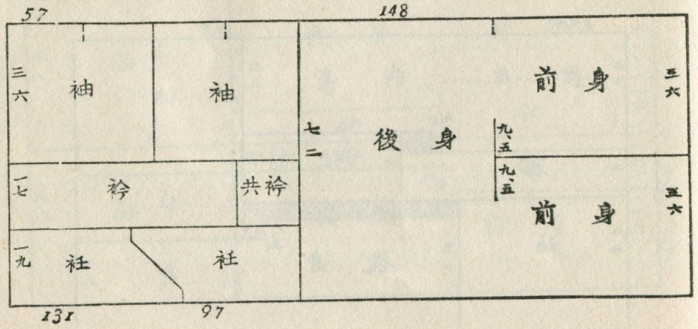


積り方

袖丈×4＋身丈×2＝用布の總尺

本裁の裁ち方並に裁ち切り寸法

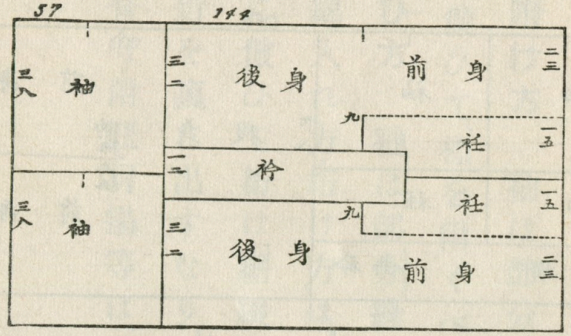
（寸八尺三丈一）糎24米5幅（寸九尺一）糎72にて



積り方

袖丈×4＋身丈×2＝用布の總尺

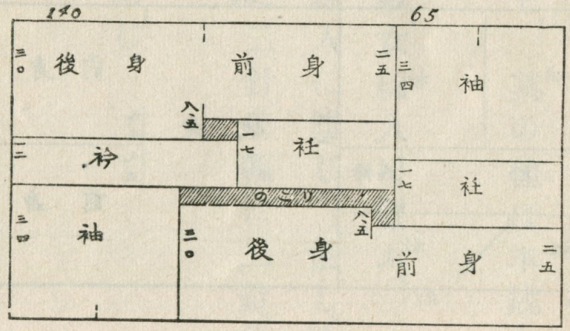
76糎(二尺)幅4米2糎(一丈六寸)にて本裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(袖丈＋身丈)×2＝用布の總尺

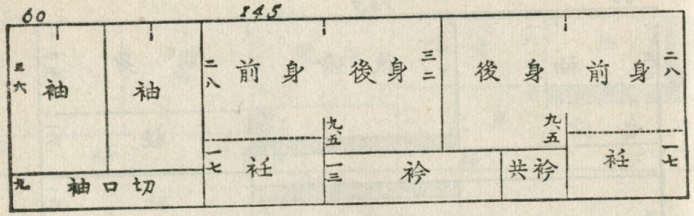
片面物76糎(二尺)幅4米10糎(一丈八寸)にて本裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(袖丈＋身丈)×2＝用布の總尺

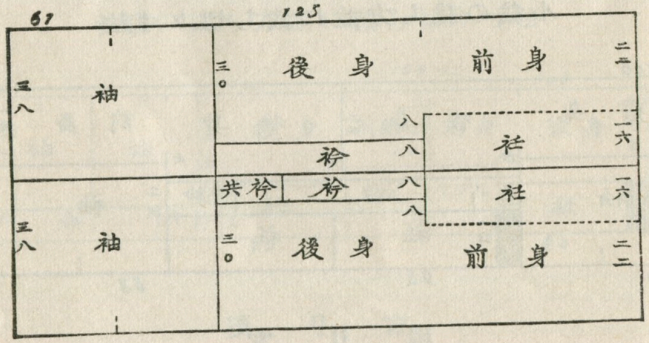
45糎(一尺二寸)幅8米20糎(二丈一尺六寸)にて本裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(袖丈＋身丈)×4＝用布の總尺

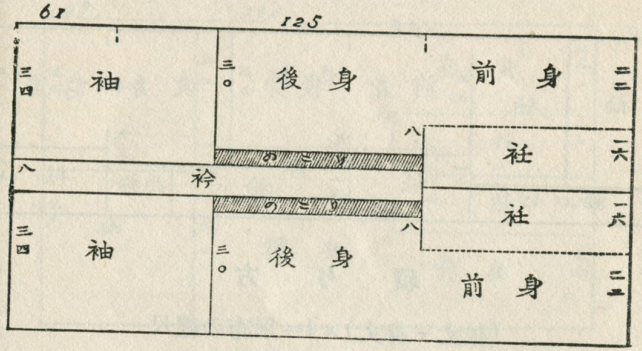
76糎(二尺)幅3米72糎(九尺八寸)にて中裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(袖丈＋身丈)＋2＝用布の總尺

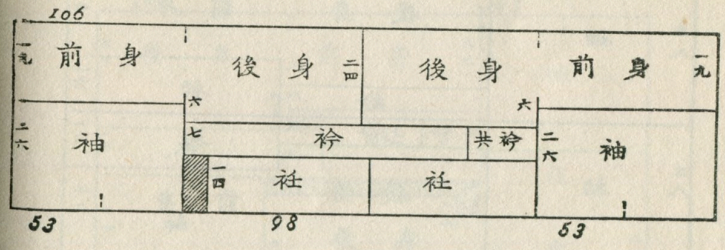
76糎(二尺)幅3米72糎(九尺八寸)にて中裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

尺總の布用＝(袖丈＋身丈)×2

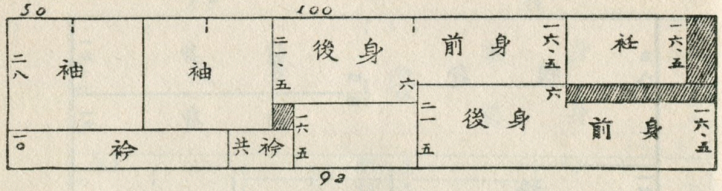
45糎(一尺二寸)幅4米24糎(一丈一尺二寸)にて小裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

尺總の布用＝身丈×4

片面物38糎(一尺)幅5米(一丈三尺二寸)にて小裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



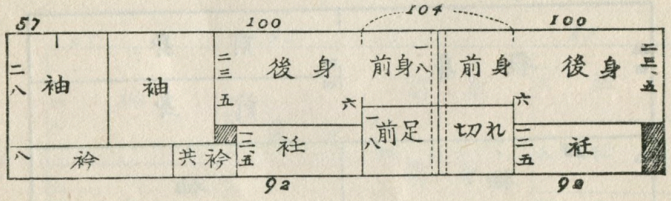
積り方

尺總の布用＝袖丈×4＋身丈×3

(布幅－衿肩明)÷2＝前　幅

前幅＋衿肩明　＝後　幅

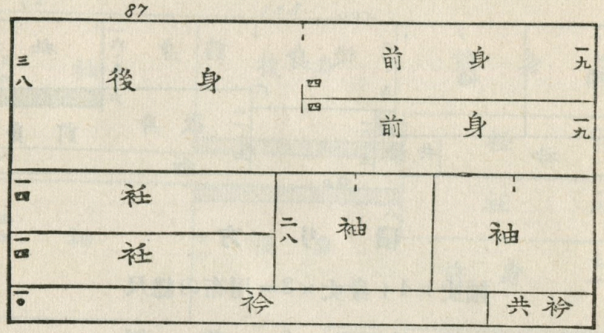
片面物並幅5米32糎(一丈四尺一寸)にて小裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

尺總の布用＝身丈×3＋袖丈×4＋前接ぎ代

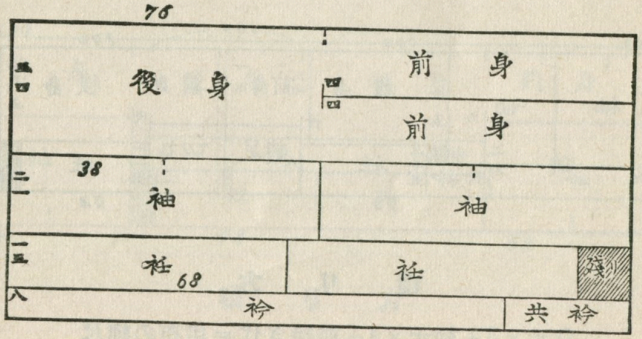
76糎（二尺）幅1米74糎（四尺六寸）にて
小裁（筒袖）の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

身丈×2＝用布の總尺

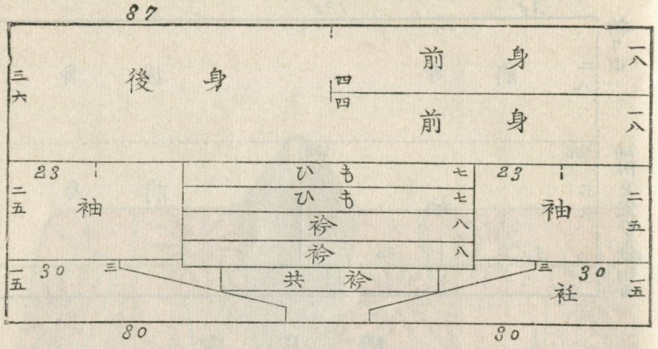
76糎（二尺）幅1米52糎（四尺）にて
小裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

身丈×2＝用布の總尺

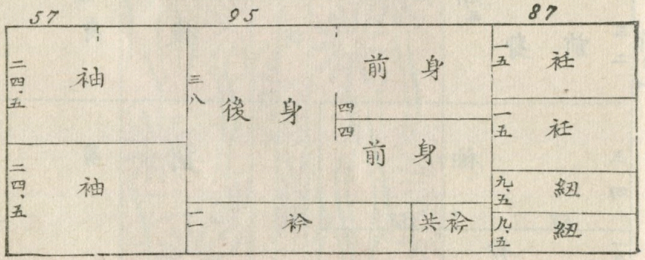
76糎（二尺）幅1米74糎（四尺六寸）にて
小裁（筒袖）の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

身丈×2＝用布の總尺

49糎（一尺二寸）幅3米91糎（一丈三寸）にて
小裁の裁ち方並に裁ち切り寸法

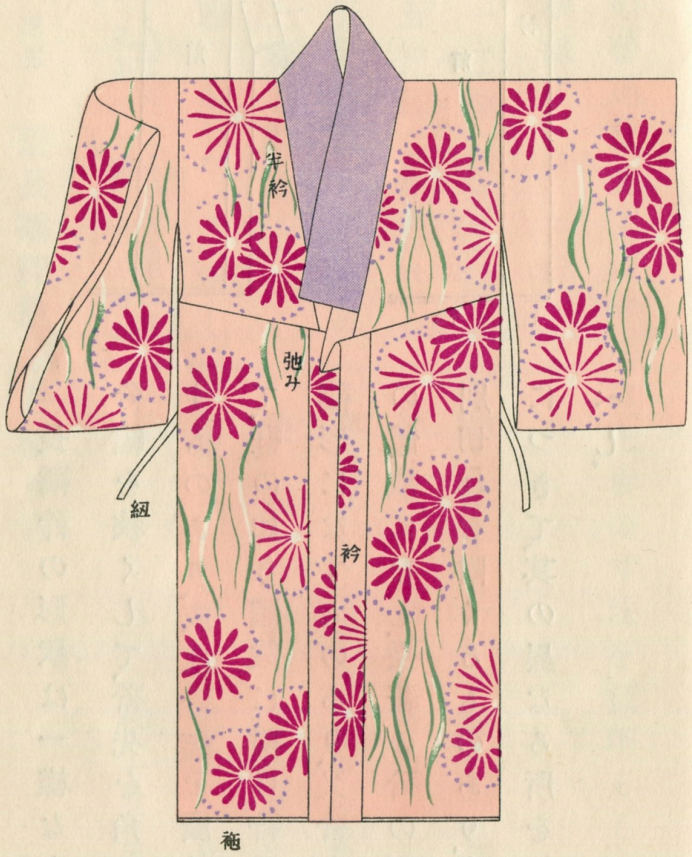


積り方

袖丈×2＋身丈×3－衽下り＝用布の總尺

第一　袷長襦袢各部の名稱

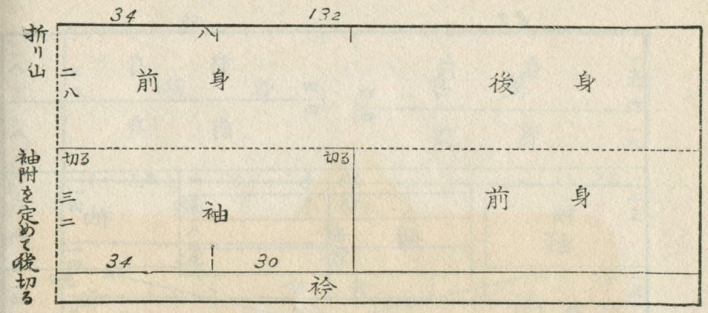
袷長襦袢の圖



第十五章　長襦袢

四つ身簡易服裁ち方並に裁ち切り寸法

70糎（一尺八寸）3米32糎（八尺八寸）にて



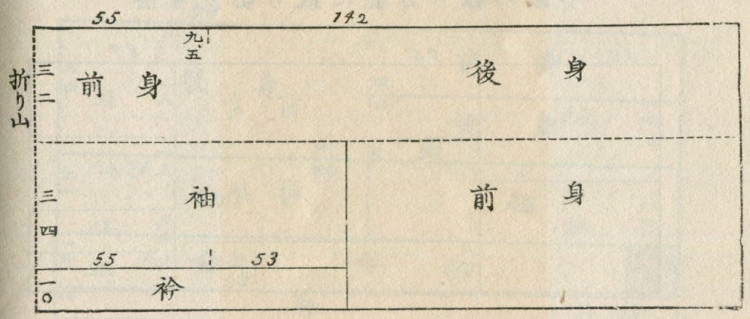
積り方

（身丈＋前身丈の上部）×2＝用布の總尺

（132＋34）×2＝332

本裁男物簡易服裁ち方並に裁ち切り寸法

76糎（二尺）幅3米94糎（一丈四寸）にて

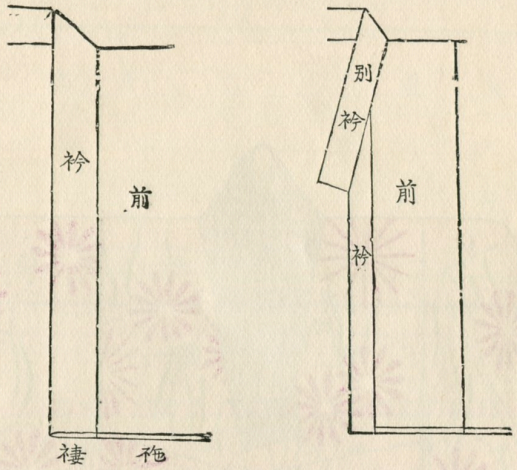


積方

（身丈＋前身丈の上部）×2＝用布の總尺

（142＋55）×2＝394

衿長襦袢の各種



長襦袢の形狀は一樣ならず、衿幅を狹くして、衿先を角になすものあり、或は衿幅を廣くして、衽の如き體裁に附け、衿先を褄形になすものあり、又衿を衽の體裁になし、長著の衿の形に別切れを附くるものあり。上圖につきて、其の異なる所を知るべし。

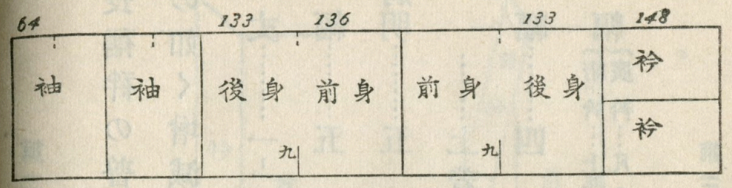
第二　衿長襦袢普通仕立上げ寸法

衿長襦袢の普通仕立上げ寸法は、上着の寸法を標準として、凡そ左の如く增減す

袖丈……一一糎（三一五分）詰め　袖附……一糎（二分程）詰め
袖幅……五糎（二分程）詰め　後丈……着丈と同寸
衿肩明……五糎（一分程）詰め　身八つ口……上着と同寸又は二糎（五分）增し
裄……上着と同寸　後幅……上着と同寸又は二糎（五分）增し
前幅……四糎（一寸）增し　前弛み……四糎（一寸）
衿幅（衽衿…上五五糎（寸五分）下八糎（三寸）廣衿…凡そ一一糎（三寸））　衽……五糎（一分五厘）

第三　衿長襦袢裁ち方積り方

並幅9米42糎（二丈四尺八寸五分）にて
長襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法



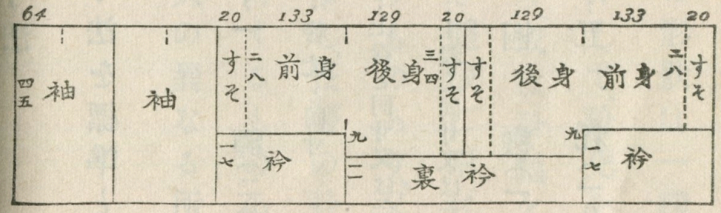
積り方

{用布の總尺－（袖丈×4＋両前弛み＋衿肩廻し）}＋5＝後身丈
{　942　－（64×4＋6＋15）}÷5＝133

{用布の總尺－（身丈×5＋両前弛み＋衿肩廻し）}÷4＝袖丈
{　942　－（133×5＋6＋15）}÷4＝64

袖丈×4＋身丈×5＋衿肩廻し＋両前弛み＝用布の總尺
64×4＋133×5＋15＋6＝942

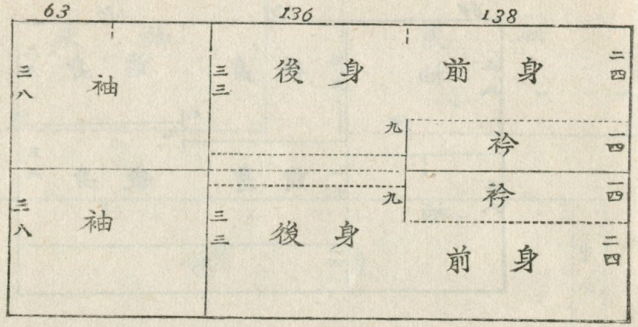
45糎（一尺二寸）幅8米60糎（二丈二尺七寸）にて
長襦袢（共裾）の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

（袖丈＋身丈＋裾）×4＋前弛み×2＝用布の總尺

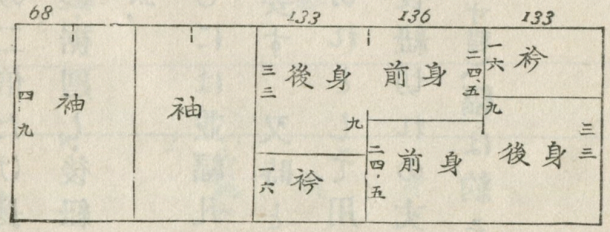
76糎（二尺）幅4米（一丈六寸）にて
長襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

（袖丈＋身丈）×2＋前弛み＝用布の總尺

両面物49糎（一尺三寸）幅6米74糎（一丈七尺八寸）にて
長襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法



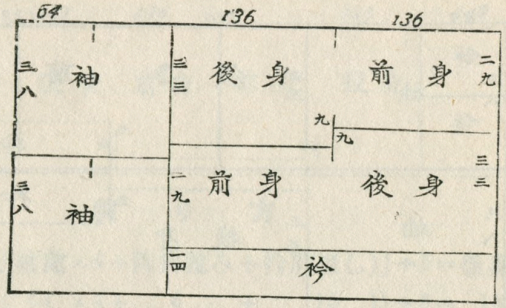
積り方

袖丈×4＋身丈×3＋前弛み＝用布の總尺

第四　袷長襦袢標附け方

両面物76糎（二尺）幅4米（一丈六寸）にて

法寸り切ち裁に並方ち裁の袢襦長



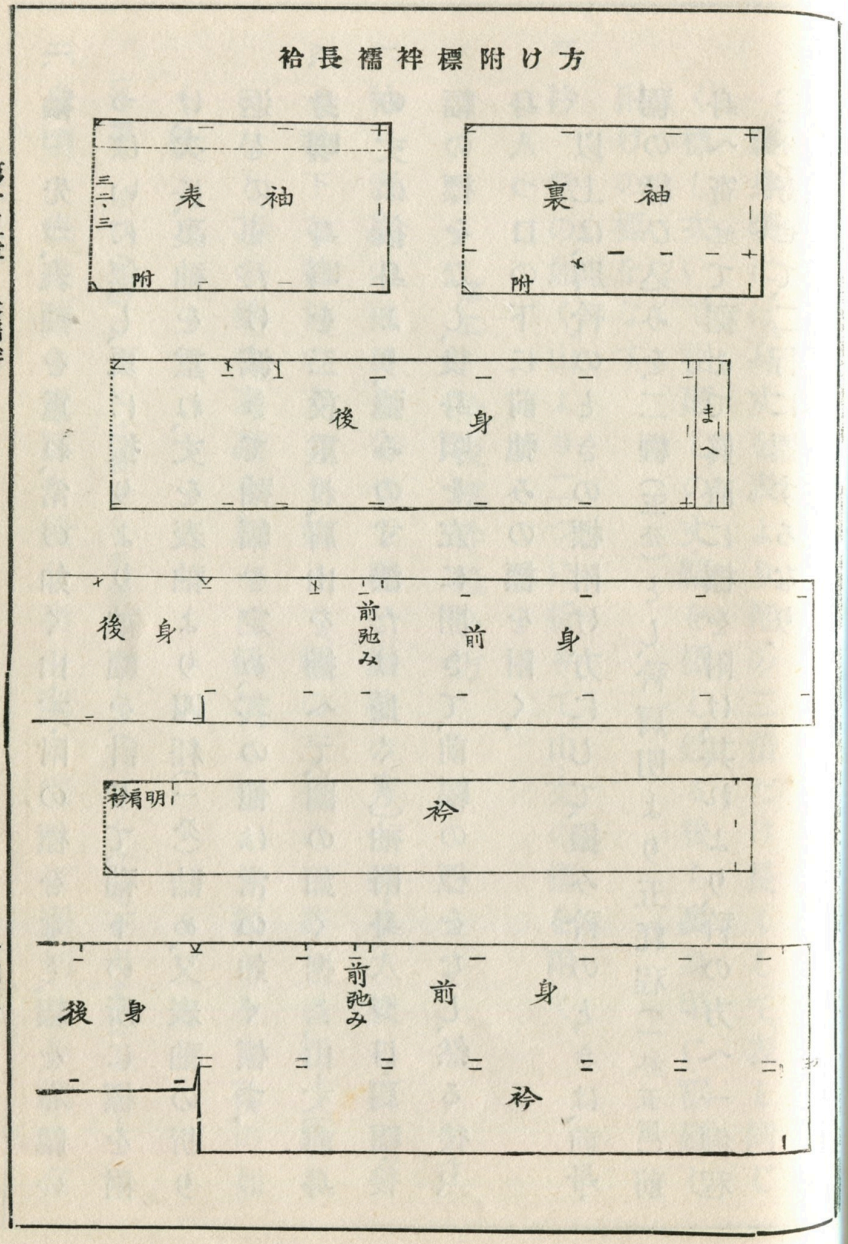
積り方

尺總の布用＝2×（丈身＋丈袖）

裏用布は、（袷を要せず。）表身丈より袵の二倍だけ長く積るべし。袖裏・裾廻し・後紐には別切れを用ふ。

裾廻しには並幅凡そ七六糎（二尺）を要す。又時としては、半幅を横切れとして用ふることあり。後紐切れの丈は、約そ一米（二尺五寸程）、幅は約そ八糎（二寸程）なり。

袷長襦袢標附け方



一、**袖**　先づ、表袖を重ね、常の如く山・丈・附の標をなし、幅を布幅いつぱいに標し、更に振りより袖幅を計りて、袖下の所に標を附け、次に、裏袖を重ね、丈を表袖より四粍（一分）詰め、又表袖の折り返しの寸だけ減きて袖幅を定め、其の他は常の如く標す。

二、**身頃**　身頃を二枚重ね、肩山を揃へて、圖の如く据ゑ、山・丈（前身の丈は、後身より、弛みの寸法だけ長くす。）袖附・身八つ口・肩幅・後幅の標をなし、後身頃を左に開きて、前幅の標をなし、然る後ち、身八つ口の下に前弛みの標を附く。

以上は、別衿のときの標附け方にして、撮み衿のときは、前身・裾の縫ひ込みを二糎（五分）とし、衿肩明より五粍程（一分五厘）前身へ寄せて、裾まで眞直に標を附け、其れより、衿の方へ一糎程（三分）寄せて、二行に標するなり。

裏身頃には、身丈を表より袍の二倍だけ長くして、表と同じく標し、次いで裾廻しの丈・幅を標し、然る後ち、裏身頃に裾廻し附けの標をなす。

三、**衿**　常の如く、山より二つに折りて、山・丈の標を附く。

第五　衿長襦袢縫ひ方

一、**袖**　表裏の袖口を合せて縫ひ、裏袖の方へ折りて躾を掛く。

袖下を袖口の方より始めて、幅の三分の二許りは四つ縫ひになし、其の餘は、表裏を別々に縫ひ、それより、振りを女衿の如く縫ふ。

（注意）袖口の縫ひ方には、裏表を毛抜合せとなし、若くは袍を出すことあり。

二、**身頃**　表身頃の脊・脇を縫ひ、裏身頃に別々に裾切れを縫ひ附

け、裾の方へ折りて隠し躾を掛け、裏身頃の脊・脇を縫ひ、裾切れを横に使ふときは、先づ脊・脇を縫ひ、後に裾切れを縫ひ附くべし。それより、表裏の裾を縫ひ合せ、表の方へ折り、袵を定め、躾を掛け、表裏の脊・脇を綴ぢ、八つ口を縫ふ。

三、**袖附**　袷の袖附に同じ。

表裏の前身頃の衿附標を合せて、假綴をなす。

四、**衿附**　標通に附け廻し、衿の方へ折りて、三つ衿切れを入れ、衿幅を、三つ衿の所にて五・五糎（一寸五分）、衿先より六〇糎位（一尺五―六寸）上迄は八糎（二寸程）の出來上りに折り、衿先を縫ひ、常の如く紳け上ぐ。布幅の狹きときは、裏衿を縫ひ附け、裏の方へ折りて隠し躾を掛け、衿附をなすべし。

五、**裾綴**　後幅に五針、前幅に四針を裏に出すこと、男袷に同じ。

六、**半衿**　掛け方は、女半襦袢のときに同じ。

七、**紐附け方**　紐を紳け置き、身八つ口留めの通りにて、紐の中央を脊の所に當て、其の上下を八糎程（二寸）紳け附く。

前丈の弛みを身八つ口留めの所にて撮み、裏の下方へ折り込み、脇縫に留め、それより、衿絲を附く。

〔注意〕地薄の品は、衿に裏打をなして衿附をなすべし。撮み衿のときは、衿肩廻しの足し切れを縫ひ附け、然る後ち、衿附をなすべく、又衿先は裾口の撮み山を適宜に切り込みて縫ふべし。

〔設問〕

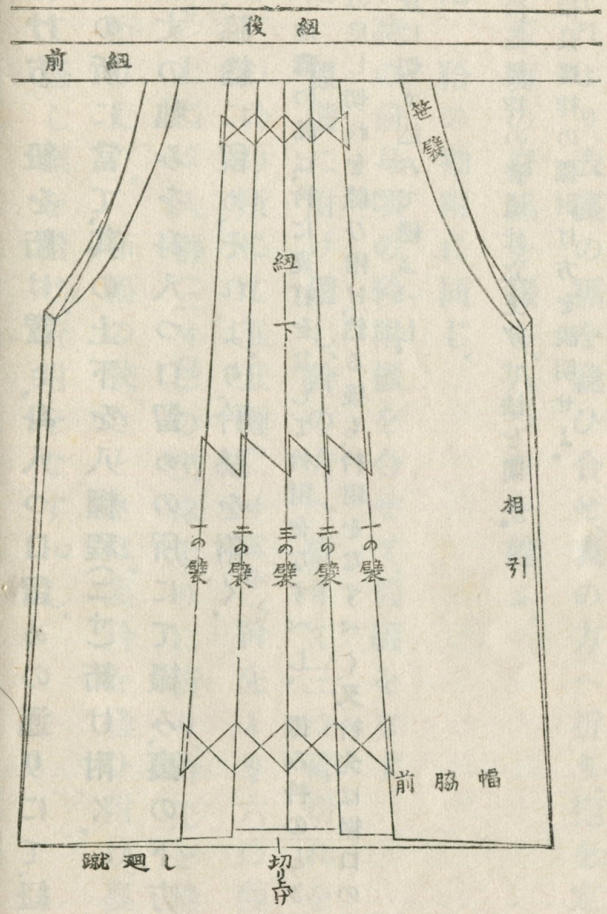
(1) 袷長襦袢の普通仕立上げ寸法を問ふ。

(2) 袷長襦袢の標附け方を說明せよ。

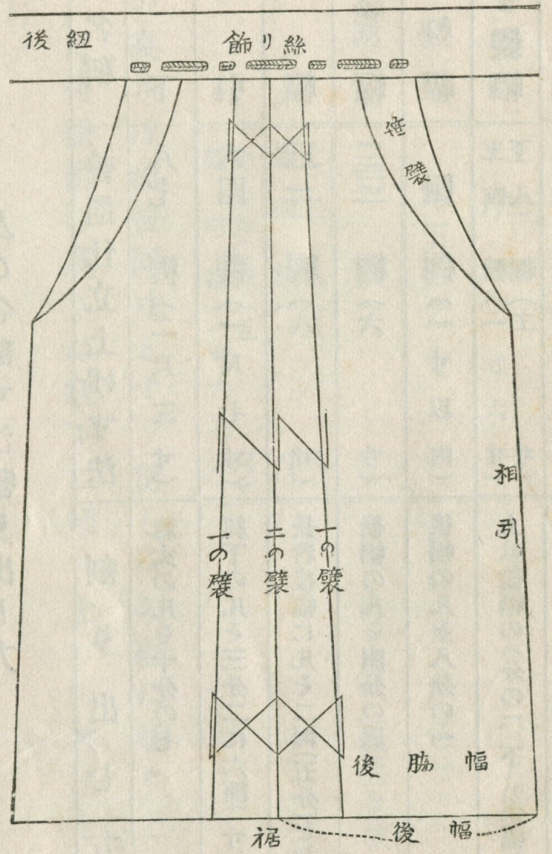
第十六章　女袴

第一　女袴各部の名稱

女袴前の圖



女袴後の圖（襞つ三後）



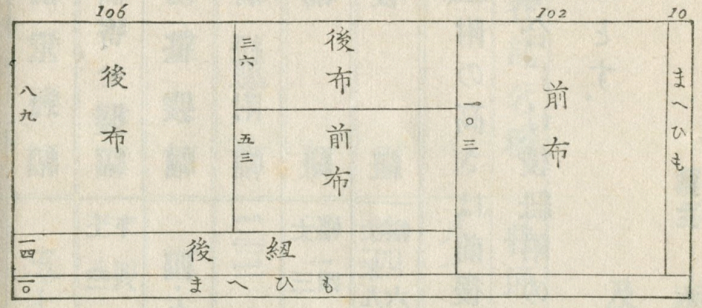
第二　本裁女袴（後三つ襞）普通仕立上げ寸法及び各部寸法割り出し方

各部名稱	普通仕立上げ寸法	割り出し方
紐下	八七糎（二尺三寸）	着丈の凡そ十分の七
相引	六四糎（一尺七寸）	紐下の凡そ三分二に六糎（一寸五分）を加ふ
後幅	三一糎（八寸）	長着後幅に凡そ二糎（五分）を加ふ
後脇幅	二三糎（六寸）	後幅の凡そ四分の三
後重ね幅	四糎（一寸以内）	後幅の凡そ八分の一
後寄せ襞幅	上四糎（一寸）下八糎（二寸）	上は後幅の八分の一、下は後幅の四分の一
後笹襞幅	五、七糎（一寸五分）	後脇幅の四分の一
腰幅	三一糎（八寸）	後幅と同寸
前脇幅	一九糎（四寸八分）	後幅の凡そ五分の三
前重ね幅	三糎（八分）	後幅の凡そ十分の一
前寄せ襞幅	上三糎（八分）下六糎（一寸六分）	上は後幅の十分の一、下は後幅の五分の一
前笹襞幅	四・五糎（一寸二分）	前脇幅の凡そ四分の一
前紐附幅	三一糎（八寸）	腰幅と同寸又は二糎（五分）増し
前紐	丈三米（八尺）幅四糎（一寸）	
後紐	丈一米九〇糎（五尺）幅六糎（一寸六―七分）	

紐附の高さは前後同寸とす。但し、袴の裾に切り上げを附くる場合には、後紐附の高さは、紐下に切り上げの寸法を加へたるものとす。

第三　本裁女袴（後三つ襞）裁ち方・積り方

1米13糎（三尺）幅3米24糎（八尺五寸五分）にて
本裁女袴（後三つ襞）の裁ち方並に裁ち切り寸法



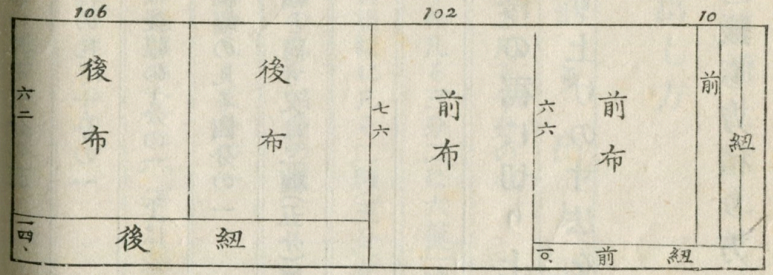
積り方

(用布の總尺－前紐幅＋前後の差)÷3＝後丈
(324 － 10 ＋ 4)÷3＝106

後丈－前後の差＝前丈　　前丈－裁ち込み＝紐下
106 － 4 ＝102　　102 － 15 ＝87

前丈×3＋前後の差×2＋前紐幅＝用布の總尺
102×3＋4×2＋10＝324

76糎（二尺）幅の布にて紐下87糎（二尺三寸）の
本裁女袴（後三つ襞）の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

紐下＋裁ち込み＝前丈　　前丈＋前後の差＝後丈
87 ＋ 15 ＝102　　102 ＋ 4 ＝106

前丈×4＋前後の差×2＋前紐幅×3＝用布の總尺
102×4＋4×2＋10×3＝446

（注意）後布の總幅は後幅の凡そ四倍、前布の總幅は後幅の凡そ五倍を標準とす。

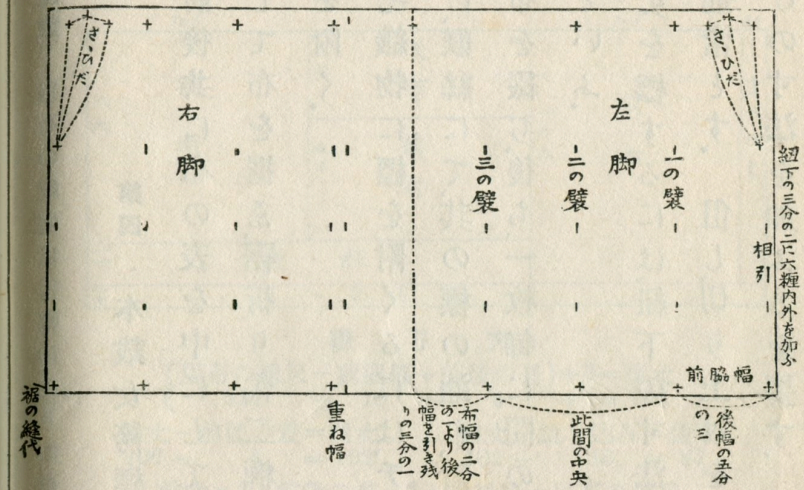
第四　本裁女袴標附け方

前後共に布の表を中にして之を重ね、腰を左にし、相引を向ふにして布を据ゑ、裾折り代二糎（五分）・紐下・相引・後襞・前襞・笹襞等の標を附く。

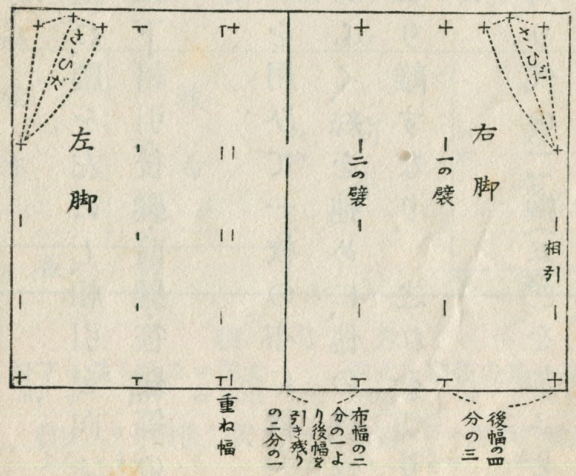
毛織物に標を附くるには、チヨークを用ひて一枚の布に標し、次に、絹絲にて、其の標の通り、針目をあらく、絲を弛めに、他の幾枚の布を綴ぢ、後ち、一枚毎に間の絲を切り離すなり。之れを**切り躾**といふ。

後丈を標するには、紐下の寸法に裾折り代の二糎（五分）を加ふるを通常とす。但し、切り上げを附くる場合には、其の寸法に切り上げの寸法を加ふるを要す。

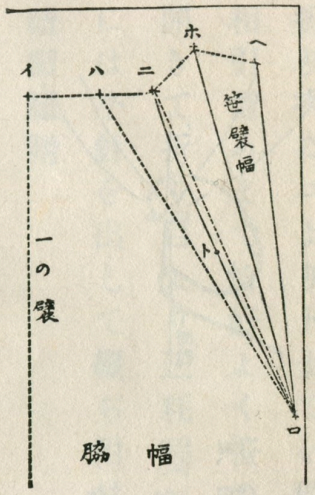
女袴前布の標附け方



女袴後布の標附け方



袴襞の標附け方



イ……一の襞の紐附
ロ……相引留
イハ……脇幅の四分の一
ハニ……イハより八糎（二分）減
ホロ……ハロと同寸
ヘロ……ニロと同寸
ニホ……ハニと同寸
ホヘ……イハと同寸
ト……ニロの中央にて一の襞の方へ八糎（二分）

〔注意〕總べて、布の裁ち目は、豫め纏ひ置くべし。

第五　本裁女袴（後三つ襞）縫ひ方

一、**後布・前布**　左右の後布を裾の方より縫ひ上げ、左脚の方へ折り、前布も同様に縫ひ合せ、右脚の方へ折る。

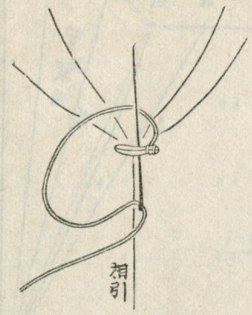
二、**裾紉**　裾紉の仕方は單衣と同じ。相引下は、前後とも四糎（一寸）程紉け殘すべし。裾切れを附くるときは、相引を縫ひ合せたる後に、之れを裾に縫ひ附け、隱し襞を掛け、表布を裾より五

粍程（一分五厘）裏に折り返し、裾切れの上を紉け附く。

三、**寄せ襞**　先づ、襞標通りに折りを附け置き、後布の腰を左に、裾を右に据ゑ、左脚の二の襞標を後布の中央に合せ、次に、右脚の二の襞標を左脚の二の襞標に合せて媒を掛け、それより、一の襞を寄せて、上下の寸法通りに之れを整へ、而して、上・中・下の三箇所に飾り綴をなす。

前襞は、後襞に比ぶれば、唯襞數の多きのみ。其の扱ひ方は、後襞と異なることなし。

圖の留門



四、**相引**　相引を縫ひ、前布の方へ折り、上圖の如く、前後の布にかけ閂留（かんぬきどめ）をなし、それより、裾の殘りを紉け上ぐ。

五、**笹襞折り方**　先づ、笹襞標のへより相引留へかけて、裏の方へ折り、次に、ニよりトまでを表の方へ折り、後ち、ホをハに合せて相引留めまで、恰好よく笹の葉形に折り上げ、それより、折りを開きて、折り目より三粍程（一分）内を二・五糎位（六七分）の針目に、裏には小針を出して綴ち附け、後ち、笹襞の端を紉け附くるなり。

六、**紐紉・紐附**

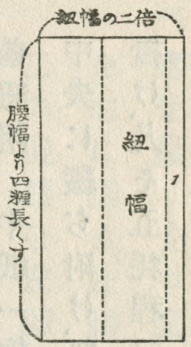
紐紉　前後の紐に心地を入れ、眞中を四〇糎（一尺程）殘して紉け置く。

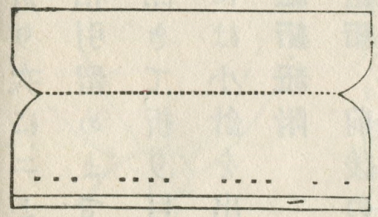
前紐附　半紙一枚を紐幅の二倍に折り、之れを前紐の紐丈の中央に綴ち附け、紐下の寸法に從ひ、一の襞の半ばより笹襞へ掛け、凡そ五粍程（一分五厘）上りて、紐の縫ひ代折り目より三粍程（五厘）内を、二本絲にて針目を八粍（三分）とし、襞の折り目にて

一針づつ返して縫ひ附け、次いで、裏を紡け附く。

後紐附　腰紙は板目紙を用ひ、幅を紐幅の二倍に、丈を腰幅より四糎(一寸)長く裁ち切り、上圖の如く、縫ひ代を一糎(二分)として紐幅を標し、之れを折り合せ、両端の上角を二糎程(五分)の丸みに切り去り、此の腰紙を、心の上より紐丈の中央に重ね、縫ひ代の方を綴ち附け、飾り絲を掛く。**飾り絲**は通常大針を三つ、小針を四つとし、上圖の如き割り出し方によりて針目を定め、紐附より一糎程(三分)上に、之れを腰紙に標し置き、左撚り右撚りの二本を合せたる太白絲にて、腰紙

方し出り割の目針絲飾び及紙腰

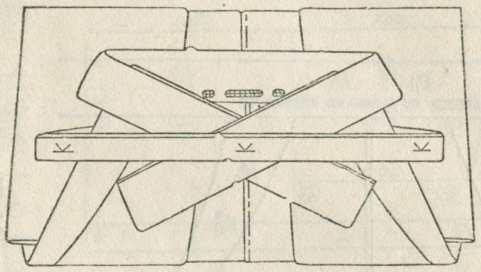




目針の針大＝3＋(10×目針の針小－1－幅腰)

を通して飾り絲を掛け、其の両端を腰紙に綴ち附くるなり、それより、紐と腰幅との中央を揃へ、前紐と同様に縫ひ附け、次いで、裏を紡け附く。

方み疊の袴女



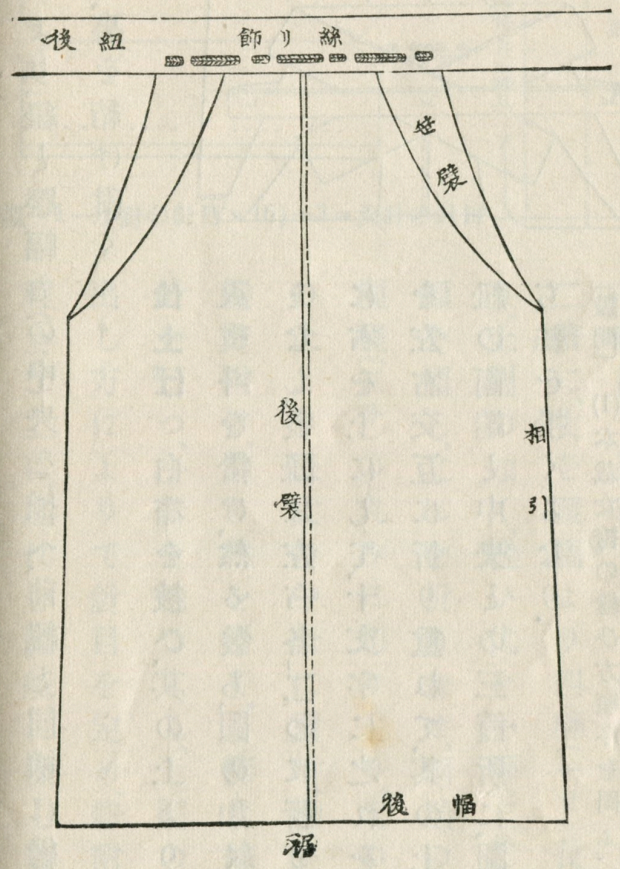
仕上げ　白布を被ひ、其の上より霧を吹き、火熨斗を掛け、然る後ち、圖の如く三つ疊みとなし、後紐は左右各二つに折りて、左を下に右を上にして、十文字に之れを重ね、前紐を左右交互に折り重ねて、其の上に載せ、前紐の両端と中央との三箇所に、圖の如く、綴ち絲を掛くるなり。

〔設問〕(1)本裁女袴の縫ひ方順序を問ふ。

(2)本裁女袴(後三つ襞)の後布、前布に於ける襞の標附け方を圖解せよ。

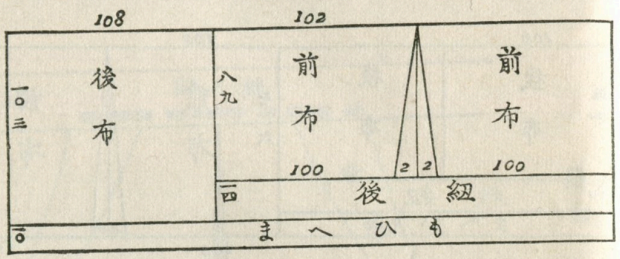
第六　本裁女袴（後一つ襞）

女袴（後一つ襞）後の圖



片面物1米13糎（三尺）幅3米12糎（八尺二寸）にて

本裁女袴（一つ襞）の裁ち並方裁ち切り寸法



積り方

（用布の總尺＋前後の差×2）÷3＝後丈

（　312　＋　6　×2）÷3＝108

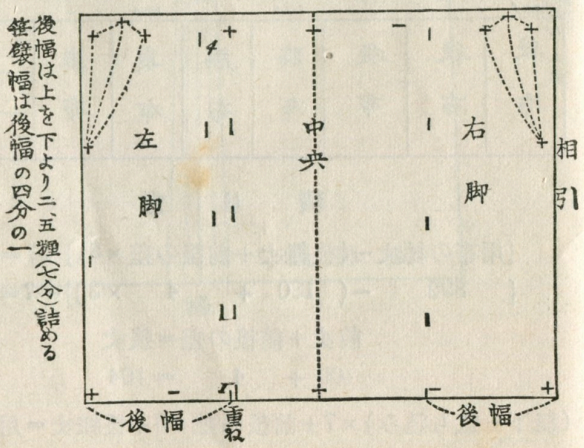
後丈－前後の差＝前丈

108－　6　＝102

後丈×3－前後の差×2＝用布の總尺

108 ×3－　6　×2＝　312

女袴（後一つ襞）の標附け方

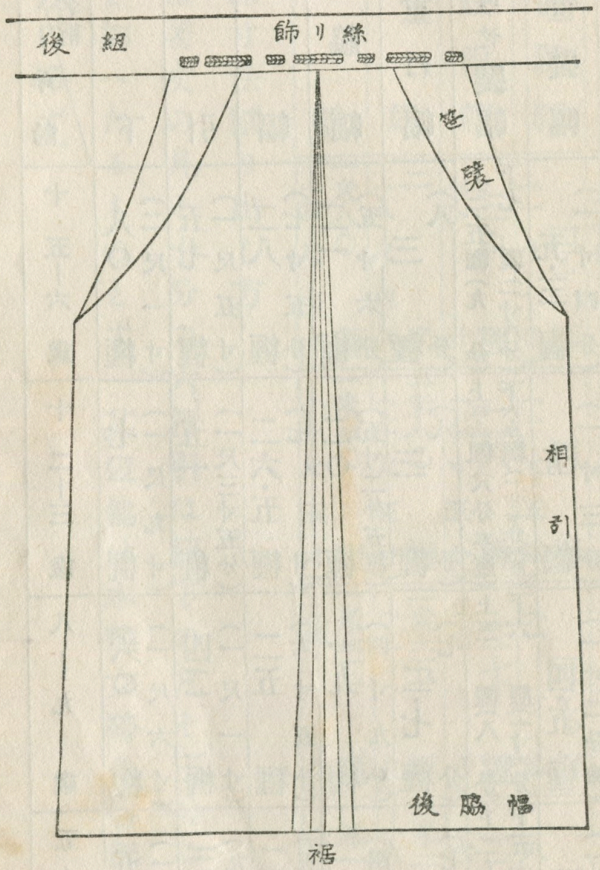


（注意） 女袴（後一つ襞）後布の總幅は後幅の凡そ三倍を標準とす。

相引の高さは後三つ襞より二糎位（五－六分）低くするを通常とす。

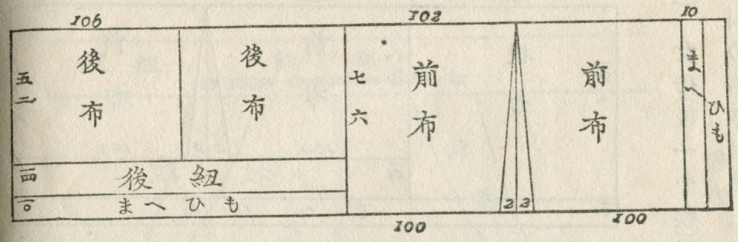
第七　本裁女袴（後重ね襞）

圖の後（襞ね重後）袴女



76糎（二尺）幅4米36糎（一丈一尺五寸）にて

本裁女袴（後一つ襞）の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

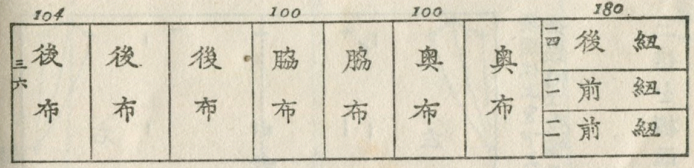
（用布の總尺－紐幅×2＋前後の差×2）÷4＝後丈

後丈×4－前後の差×2＋紐幅×2＝用布の總尺

後丈－前後の差＝前丈

並幅8米92糎（二丈三尺五寸）にて

本裁女袴（後一つ襞）の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

{用布の總丈－（後紐丈＋前後の差×3）}÷7＝前丈

{ 892 －(180 ＋ 4 ×3)}÷7＝100

前丈＋前後の差＝後丈

100 ＋ 4 ＝104

（紐下＋裁ち込み）×7＋前後の差×3＋後紐丈＝用布の總尺

(85 ＋ 15)×7＋ 4 ×3＋ 180 ＝ 892

第八　中裁・小裁女袴普通仕立上げ寸法

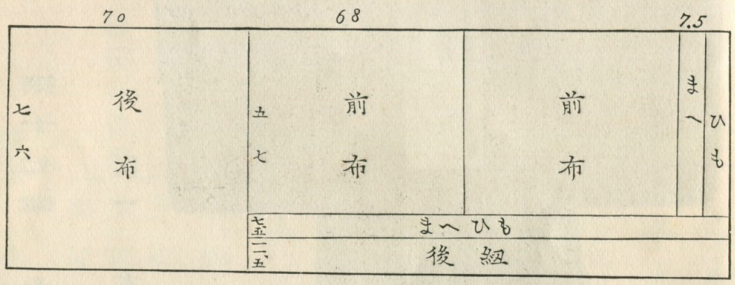
各部名稱＼年齡	十五―六歳	十二―三歳	八―九歳	五―六歳
紐下	八〇糎（三尺一寸）	七二糎（二尺九寸）	六〇糎（二尺六寸）	五〇糎（二尺三寸）
相引	五七糎（一尺五寸）	五一糎（一尺三寸五分）	四二糎（一尺一寸）	三七糎（九寸六分）
後幅	二八糎（七寸五分）	二六・五糎（七寸）	二五糎（六寸五分）	二一糎（五寸五分）
後脇幅	二一糎（五寸六分）	二〇糎（五寸二分五厘）	一九糎（四寸九分）	一六糎（四寸一分）
後重ね幅	三糎（八分）	二・七糎（八分）	二・七糎（七分）	二・七糎（七分）
後寄せ襞幅	上三・五糎（九分）下七糎（一寸八分）	上三・三糎（八分五厘）下六・五糎（一寸七分五厘）	上三糎（八分）下六糎（一寸六分）	上二・七糎（七分）下五・三糎（一寸四分）
後笹襞幅	五・三糎（一寸四分）	五糎（一寸三分）	四・五糎（一寸二分餘）	四糎（一寸五厘）
腰幅	二八糎（七寸五分）	二六・五糎（七寸）	二五糎（六寸五分）	二一糎（五寸五分）
前脇幅	一七糎（四寸五分）	一六糎（四寸二分）	一五糎（三寸九分）	一三糎（三寸三分）
前重ね幅	二・七糎（七分）	二・七糎（七分）	二・三糎（六分）	二・三糎（六分）
前寄せ襞幅	上二・八糎（七分五厘）下五・五糎（一寸五分）	上二・七糎（七分）下五・二糎（一寸四分）	上二・五糎（六分五厘）下五 糎（一寸三分）	上二 糎（五分五厘）下四 糎（一寸一分）
前笹襞幅	四・二糎（一寸一分）	四糎（一寸五厘）	三・七糎（一寸弱）	三・二糎（八分二厘餘）
前紐附幅	三〇糎（八寸）	二八糎（七寸五分）	二七糎（七寸）	二三糎（六寸）
前紐三	米（八尺内外）	三米八〇糎（七尺五寸）	三米六五糎（七尺）	三米三七糎（六尺）
後紐	一米八〇糎（四尺七寸）	一米七〇糎（四尺五寸）	一米五二糎（四尺）	一米一五糎（三尺以上）

各部寸法割り出し方

紐下は著丈の凡そ十分の六、**相引**は紐下の凡そ三分の二に四糎（一寸）を加へたるものとす。其の他は本裁女袴の各部寸法割り出し方に準ず。

第九　中裁・小裁女袴裁ち方・積り方

76糎（二尺）幅2米21糎（五尺八寸五分）にて
七-八歳用女袴（後一つ襞）の裁ち方並に裁ち切り寸法



積　り　方

（用布の總尺－紐幅×2＋前後の差×2）÷3＝後丈

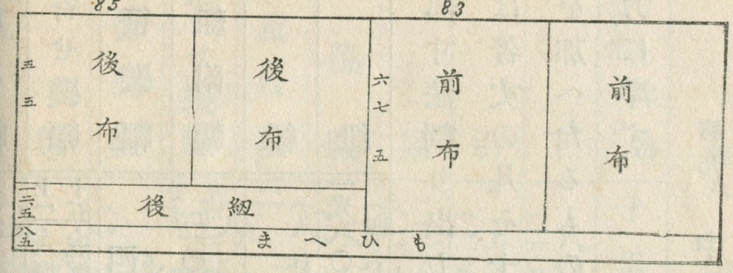
後丈×3－前後の差×2＋紐幅×2＝用布の總尺

〔設問〕

(1) 本裁女袴の前布及び後布の總幅は各〻何程にて可なりや。

(2) 七六糎（二尺）幅にて、紐下八五糎（二尺二寸五分）の女袴（後三つ襞）を仕立てんには、用布の總尺何程を要するか。又其の裁ち方を圖解し、各部の寸法を記入せよ。

76糎（二尺）幅3米36糎（八尺九寸）にて
十四-五歳用女袴（後三つ襞）の裁ち方並に裁ち切り寸法

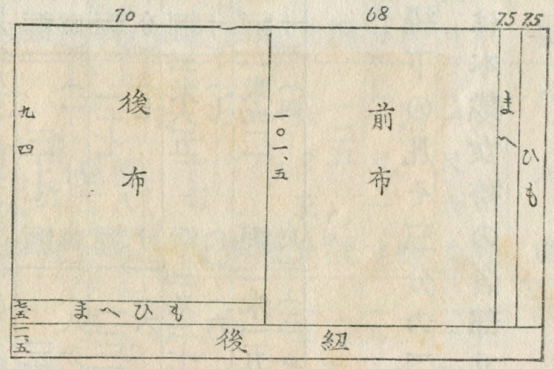


積　り　方

（用布の總尺＋前後の差×2）÷4＝後丈

後丈×4－前後の差×2＝用布の總尺

1米13糎（三尺）幅1米53糎（四尺五分）にて
七-八歳用女袴（後三つ襞）の裁ち方並に裁ち切り寸法



積　り　方

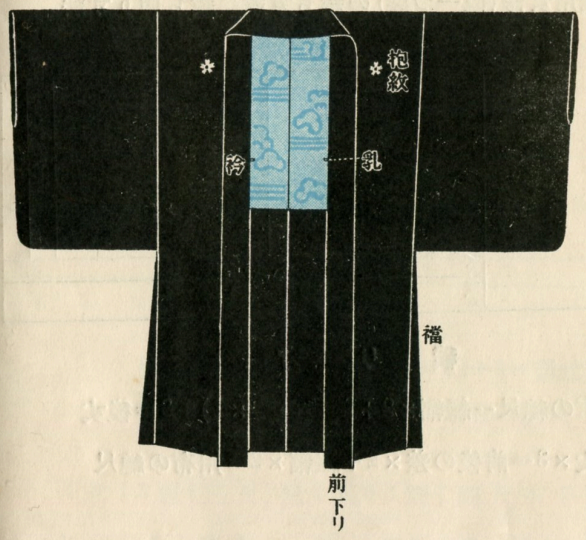
（用布の總尺－紐幅×2＋前後の差）÷2＝後丈

後丈×2－前後の差＋紐幅×2＝用布の總尺

第十七章　本裁女綿入羽織

第一　本裁羽織各部の名稱

本裁男羽織の圖



本裁女羽織の圖

第二　本裁女綿入羽織普通仕立上げ寸法

長着の寸法を標準とし、凡そ左の如く増減す。

袖丈……同寸又は五粍（二分）増　袖口……同寸
袖附……一糎（二寸三分）増　袖幅……四粍（一分）増
身丈……着丈の四分の三　衿肩明……同寸
身八つ口……二糎（五分）減　衽……同寸
後幅……同寸　前下り……四糎（一寸）
乳下り…脊より凡そ四二糎（一尺一寸）　褄幅……（上二糎（四一五分）下六・五糎（一寸七一八分））
衿幅……六・五糎（一寸七一八分）

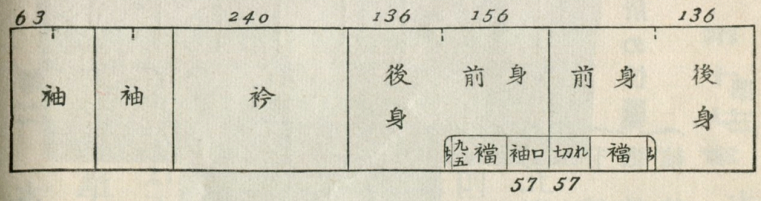
〔注意〕紋所の位置（脊紋……衿肩明（裁ち切り）より約そ七糎（一寸七一八分）／抱紋……肩山より約そ一五糎（四寸）／袖紋……袖山より約そ八糎（二寸））

第三　本裁女綿入羽織裁ち方・積り方

並幅10米76糎(二丈八尺四寸)にて

女綿入羽織の裁ち並方に裁ち切り寸法

袖丈61糎(一尺六寸)・身丈1米(二尺六寸五分)より上り



積り方

{用布の總尺－(袖丈×4＋衿丈＋前後の差×2)}＋4＝後丈

{ 1076 －(63 ×4＋240 ＋ 20 ×2)}＋4＝136

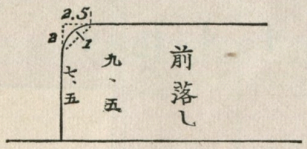
後丈＋前後の差＝前丈

136 ＋ 20 ＝156

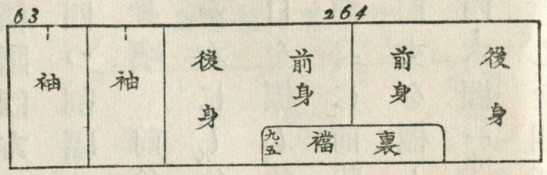
袖丈×4＋(後丈＋前丈)×2＋衿丈＝用布の總尺

63 × (136 ＋ 156)×2＋240 ＝ 1076

〔注意〕衿丈は、身丈に、衿肩明・前下り及び衿先の縫ひ代として、約そ二〇糎(五寸程)を加へ、之れを二倍して、其の寸法を定むるなり。



同裏布の裁ち並方に裁ち切り寸法



積り方

(丈上り袖丈×8＋身丈×10＋總縫ひ代)－表布の總尺＝裏布の總尺

(61 × 8 ＋100 ×10＋ 104)－1076 ＝516

裏布の總尺－袖丈×4＝胴裏の總尺

516 － 63 ×4＝ 264

〔注意〕總縫ひ代の見込み左の如し。

袖……一六糎(四寸)

身頃……一六糎(四寸)

衿肩廻し及び衿先　四〇糎(一尺)

前下り……二四糎(六寸)

前下りの四糎(一寸)、肩繰り越し五糎(一分)の二倍、縫ひ代の一糎(三分)を加へ之れを四倍したるもの

三つ衿縫ひ代……八糎(二寸四分)

一糎(三分)の八倍

合計　一米四糎

胴裏に餘分を生ずるときは、後身に縫ひ込み置くをよしとす。

〔設問〕(1)本裁女綿入羽織の衿丈を積るには如何にすべきか。

(2)並幅一〇米六〇糎(二丈八尺)にて、本裁女綿入羽織の表布を裁つに當り、袖丈を六三糎(一尺六寸五分)裁ち切り、身丈を九八糎(二尺六寸)とせば、其

の他の裁ち切り寸法は何程なりや。

(3)衿肩明の廻し方を圖解せよ。

第四　部分縫　身頃・襠・衿

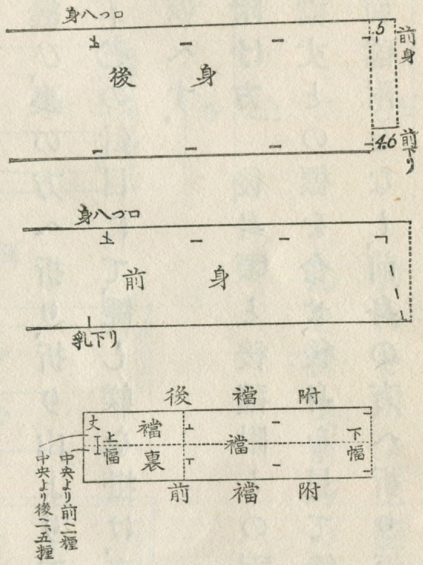
一、標附け方　練習用布半幅二枚を取り、之れを前後の身頃とし、四つ割幅一枚を襠と見做し、襠の裏切れには別切れを用ふ。

身頃　前後の身頃を取り、各〻表を中にして、二つに折り、輪の方を右にし、後身を五糎(一寸三分)引きて、前身の上に載せ、身八つ口を標し、後身の裾口に幅標をなし、之れより六糎(二分)下りて、前身に前脇丈を標し、後身の裾口より四・六糎(一寸一分五厘)下りて前丈を標し、此の両所に尺を渡して、前下りの標をなし、(前丈に四・六糎(一寸一分五厘)を見込みたるは、前下りを四糎(一寸)、表の折り返しを四糎(一分)、被せを二糎(五厘)と積りたるなり。)それより、後身を除き、前身に身八つ口以下の幅標及び乳下りの標をなし、次に後身にも同様幅標をなす。

襠　後身の身八つ口標より裾口までの寸法を計り、これより二糎程(五厘)引きたるを襠丈とし、襠丈に襠の上部の縫ひ代二糎程(五分)を加へ、餘りを裏の方へ折り返し、裾を右に、前襠附を手前にし、襠裏と襠との上部を揃へて、襠裏を襠の上に載せ、裾に山標をなし、丈を標し、裾口にて、縫ひ代を一糎(三分)として、前襠附を標し、四糎(一分)の被せを見込みて、下

本裁女綿入羽織

方け附標の襠・頃身



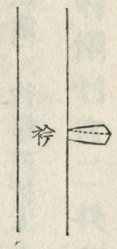
幅の標をなし、褄丈の所にて、下幅の中央より後へ一・五糎（三分五厘）、前へ一糎（二分五厘）を計りて、上幅の標をなし、それより、前後の褄附を標し、次いで褄接ぎの標をなす。

二、縫ひ方

前下り縫ひ方　先づ、表裏の前下り標を合せて、前幅標の所まで縫ひ、裏の方へ折り、折り山より五粍（一分五厘）内に、二・五糎位（六―七分）の針目にて、隠し糸を掛け、表布を四粍（一分）ふかせて折り返へす。

褄附け方　後身頃と後褄附との裾の折り山を合せ、身八つ口と褄丈との標を合せ、後身を見て縫ひ、後身の方へ折り、又同様に前褄附をなし、前身の方へ折り返し、前身の衿附の方を表裏綴ち合す。

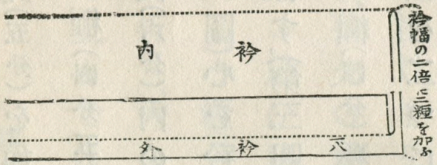
女羽織乳の附け方



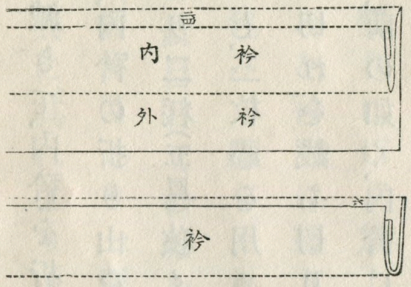
乳附け方　幅一・五糎（四分）丈四糎（一寸一分）程の切れを用ひ、上圖の如く凡そ四粍（一分）の幅に乳を折り、前身の裏に、四―五針通して縫ひ附く。

衿折り方

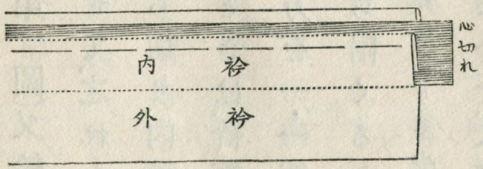
第一圖



第二圖



第三圖



練習用布並幅一枚を衿と見做し、衿幅を六・五糎（二寸七分）と定め、先づ、耳の方より、衿幅の二倍に

二糎(五分)を加へて、一五糎(三寸九分)に外衿を折り、其の幅より一・八糎(四分五厘)を減きて、内衿を折り、(第一圖)又輪の方より二・四糎(六分)内の所に、内衿の折り山を合せて、之れを二つに折り、(第二圖)心を衿幅より二糎(五厘)狭く裁ち切り、内衿に包みて綴ぢ合す。(第三圖)若し、二枚心を用ふるときは、衿幅の二倍より一・五糎(四分)狭く、心切れを裁ち切り、一方を一・一糎(三分)廣くして、幅を二つに折り、前の如く、内衿に綴ぢ附くるなり。

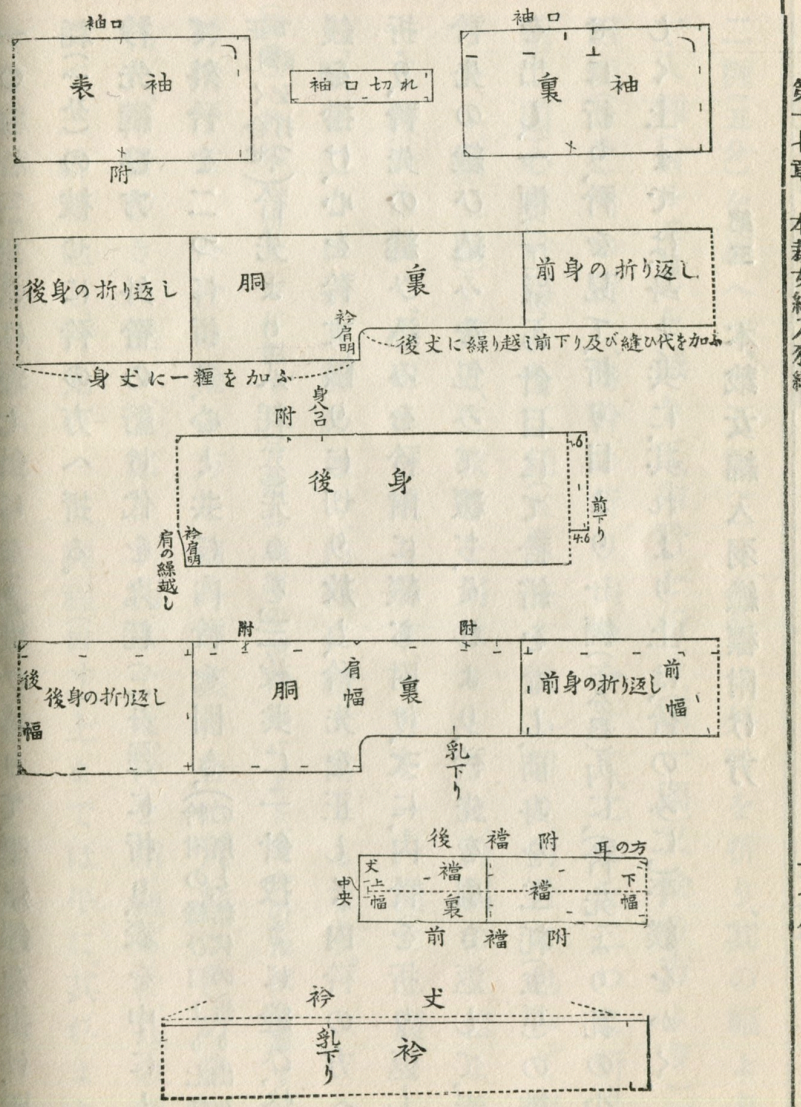
(注意)衿幅の折り方に關する寸法は地質の厚薄等により、多少の加減を要す。

衿附け方　外衿の輪の方を前身の裏に合せ、八糎(二分)の縫ひ代に、一針抜きに縫ひ、上部より乳までは、衿を稍〻弛めに、乳の所にて三針程返し、衿先の一五糎程(四寸)上までは平に、其れより衿先までに、前身の縫ひ代を六糎程(一分五厘)深くし、(衿先の方一〇糎程(二―三寸)は返し針になす。)縫ひ終りて、平烙鏝を掛け、四糎(一分)の被せに衿の方へ折る。

衿先縫ひ方　外衿の衿附け代を九糎(二分強)に折り、表を中にして外衿を二つに折り、心と共に内衿を開き、(衿附の縫ひ目より七糎の所と、衿代の折り山を正しく合せて針を打つ。)衿先より八糎(三分)先きを、三枚共に一針抜きに縫ひ、烙鏝を掛け、心を衿丈限りに切り放し、衿先を正しく内衿の方へ折り、衿先の縫ひ込みを衿附に綴ぢ附け、次に、内衿を折り返し、衿先の縫ひ込みを包みて綴ぢ、それより、衿先を引き返して、表を出し、一糎(二―三分)の針目にて衿衿をなし、前身を二糎(五厘)の被せに折り、衿を見て、折り目より一糎(三分程)内に、(衿先より乳の少しく上までは、身と共に、其れより上は、衿のみに、)平襞をかく。

第五　本裁女綿入羽織標附け方

本裁女綿入羽織の縫ひ附け方



一、**袖**　本裁女綿入の袖に同じ。

二、**身頃**　表身頃を中表に重ね、衿肩明を手前に、後身頃を左に据ゑ、身丈に一糎(三分)の縫ひ代を加へて、後丈を標し、其の所より折り返し、後丈に肩の繰り越しと、前下り及び其の縫ひ代とを加へて、前丈を標し、又其の所より折り返す。

胴裏を中表に重ね、圖の如く、表身頃の上に載せて、待針を打ち、肩の繰り越しを定め、其の所より、後身頃を折り返して、前身頃に重ね、圖の如く、山・袖附・身八つ口及び脊の縫ひ代を標し、部分縫のときの如く、裾にて後幅の標をなし、之れを前身に移して、前幅の標となし、それより、前下りの標を附け、次に、圖の如く再び後身頃を開らき、前後の身幅・乳下り及び胴接ぎの標をなすなり。胴接ぎの標をなすには、胴裏の下に、厚紙などを挿み

て表に標の通らざる樣注意すべし。

三、**襠**　襠を中表に重ね、部分縫のときの如く、之れを折り、襠裏を中表に重ね、上部を揃へて、襠の上に載せ、待針を打ち、丈・裾の折り山・前後の襠附及び襠接ぎの標を附く。

四、**衿**　部分縫のときの如く、衿幅を折り、又丈を二つに折りて、圖の如く、山を標し、衿肩繰り越し、及び前下りを約そ一五糎(四寸)と見込み、之れを後丈に加へて、衿丈を標し、次いで、乳下りの標を附く。

第六　本裁女綿入羽織縫ひ方

一、**袖**　本裁女綿入に同じ。

二、**身頃**　後の胴接ぎをなし、前の胴接ぎは、表裏とも標より、下りの返り寸四糎(一分)だけ縫ひ込み、次に、部分縫のときの如く、前下りを縫ひ、襠裏を接ぎ、いづれも裏布の方へ折り、躾を掛く。

脊縫・襠附　脊を縫ひて、常の如く、折り、次に、部分縫のときの如く、後襠・前襠附をなす。

三、**袖附**　本裁女綿入に同じ。

四、**綿入れ方**　長着のときに同じ。但し、裾には別に袷綿を用ひず、少しく綿を厚くなしおく。

五、**紉け方**

裾　裾口より約そ四糎(二寸程)上に假綴をなす。

袖口・身八つ口　長着の紉け方に同じ。

前襠綴　裾口より表裏の縫ひ目を綴ち合す。

前綴・乳附　前身の衿附を表裏合せ、表幅を稍張り目に待針を打ち、前下りの所より衿肩明を廻り全體に假綴をなし、次に、部

分縫のときの如く、乳を附く。

衿附　輪の方の衿山を裏身頃の脊筋に合せ、衿肩廻し及び乳下りまでは、衿を稍弛めに、以下は部分縫のときの如く、待針を打ちて、衿附をなし、それより、衿先を縫ひ、衿紳（衿肩明の所は成るべく小針に紳け附くべし）。をなして躾をかけ、終りて、表裏の脊縫を、裾口より中程まで、綴ち合すなり。

〔設問〕

(1) 本裁女綿入羽織の標附け方を説明せよ。

(2) 本裁女綿入羽織の衿の折り方を説明せよ。

第十八章　本裁男綿入羽織

第一　本裁男綿入羽織普通仕立上げ寸法

袖附……袖丈と同寸

身丈……着丈の約そ四分の三

襠幅……七・五糎（二　寸）

衿幅……七・五糎（二　寸）

其の他は、本裁女綿入羽織の普通仕立上げ寸法につきて、述べたるが如し。

第二　本裁男綿入羽織裁ち方・積り方

裁ち方に於ては衿肩明を九糎（三寸四分）とし、内廻しを二糎（五分）とするを通常とす。其の他は本裁女綿入羽織に同じ。

並幅（尺八丈二）糎六〇米一〇にて

方り積の織羽綿入男

（袖丈上り（寸七尺二）糎二米一丈身（分二寸四尺一）糎四五丈袖）

{用布の總尺－（袖丈×4＋衿丈＋前後の差×2）}÷4＝後丈

{1060－（56×4＋244＋20×2）}÷4＝138

後丈＋差の丈前＝前丈

138＋20＝158

同裏布の積り方

裏布の總尺＝表布の總尺－（袖丈上り×8＋身丈×10＋總縫ひ代）

496＝1060－104＋102×10＋8×54

裏胴の總尺＝裏布の總尺－袖丈×4

272＝496－56×4

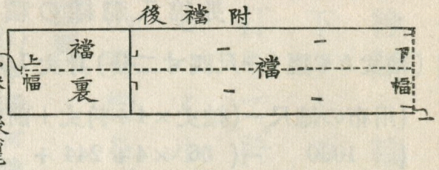
第三　本裁男綿入羽織標附け方・縫ひ方

一、標附け方　概ね本裁女綿入羽織（身八つ口を除く。）に同じ。但し、襠の標附け方は、上圖の如く、襠の上幅を四糎（一分）とし、下幅の中央より後方へ、其の四糎（一分）を計りて、前後襠附けの標を附く。

二、縫ひ方　袖附の外は總て本裁女綿入羽織に同じ。

袖附　表の袖山と肩山との幅標を合せ、丈を揃へて待針を打ち、袖にて身頃を挟み、袖附標の所を二本の絲にて極めて淺く抄ひ、四つ留めをなし、一本を切りて、其の端を他の二本に撚り合せ置き、殘れる一本にて、袖を見て縫ひ、附の始め終りと袖山とは一針返し、其の他は小針に附け廻し、被せを淺

方け附標の襠織羽綿入綿男裁本



方け附の乳織羽綿男

くして、袖の方へ折り、引き返し、裏袖も表袖と同じく標を合せ、身頃にて袖を挟み、袖附留めをなし、附け終りて、身頃の方へ折るなり。

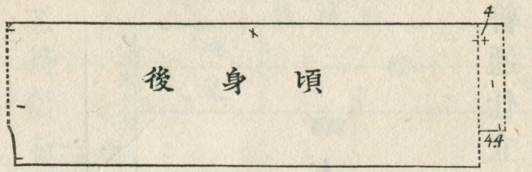
〔注意〕乳の向きは、上圖に示せるが如く、女物とは反對なり。

第十九章　本裁袷羽織

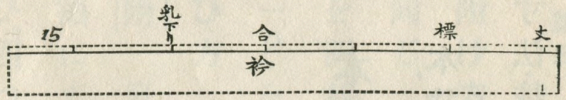
第一　本裁男袷羽織

普通仕立上げ寸法・裁ち方・積り方・標附け方は、總べて本裁男綿入羽織に同じ。

方け附標のり下前織羽袷男裁本



方け附標の衿



但し、前下りは上圖の如く標し、衿には合標をなすべし。

縫ひ方

一、**袖**　裏袖に袖口切れを掛け、袖口の表裏を合せて縫ひ、袖幅の標をなす。

二、**胴接ぎ・前下り**　女綿入羽織の如く、前後の胴接ぎをなし、前下りを縫ひ、躾をかく。但し、前下りは、表の返り二糎(五厘)を見て、表裏共に躾を掛く。

三、**脊縫・後襠附**　表を中にして、二枚の後身頃を重ね、胴の接ぎ目を合せ、裾を揃へ、衿肩明を右にし、裏布を向ふに折り重ね、衿肩明の方より、脊を一針抜きに、四つ縫ひになし、表布の方へ折る。

襠裏を接ぎて、裏布の方へ折り、表を外にして、表裏の襠丈標を折り合せ、襠幅の中央に、表裏共に假綴をなし、後身頃にて後襠を挟み、四つ縫ひになし、表身頃の方へ折る。

四、**前綴・乳附**　前身の衿附を表裏合せ、表幅を稍〻張り目に、針を打ちて綴ち、乳を附く。

五、**衿附**　本裁男綿入羽織の如く待針を打ち、前身頃を狹く疊み、之れを衿にて包み、合標を合せ、衿先より始めて、一針抜きに縫ひ上げ、衿山より一五糎(四寸)の合標の所に一針留め、それより、衿の輪の方と身頃とを縫ひ合せ、平烙鏝を掛け、衿先を縫ひ、縫ひ込みを綴ち附け、上部より引き返して、其の所を絎け、折り目をよく整へ、躾を掛く。此の仕方を**袋附**又は**鐵砲附**といふ。

六、**袖附**　表袖と表身頃との山標を合せて、袖附をなし、(始め終り共に袖附標より二糎(五厘程)縫ひ殘す。)袖の方へ折り、次に、裏袖と裏身頃との山標を合せ、双方共縫ひ込みを開きたるまゝ、前袖附標より二〇糎(五寸程)の所まで縫ひ、身頃の方へ折り、引き返して表を出し、男袷の如く、袖口に四つ留めをなし、袖口下を縫ひ、袖附を七つ留めになし、袖下及び袂の丸みを縫ふ。

七つ留め　先づ、表の前身頃より始め、内外の袖・後身頃・次に、裏の外袖・後身頃・内袖(裏の前身頃を除く。)の順序に七枚を抄ひて結び留むるなり。(裏袖は、袖附標の所にて、袖下を三角形に折り返し置く。)

七、**前襠附**　前身頃にて前襠を挟み、裾を揃へ、標を合せ、一針抜きに縫ひ附け、表身頃の方へ折り、引き返して表を出し、後ち、裏袖附の縫ひ殘したる所を紉け、男袷の如く袖に躾をかく。

〔注意〕**八つ留め**　袖附留めを八つ留めになすことあり。其の仕方は、七つ留めと同じ順序に抄ひ、尚ほ、裏の前身頃をも加へて、八枚を抄ひ留むるなり。

〔設問〕

(1) 本裁羽織の裏用布を求むる方法を問ふ。

(2) 本裁男袷羽織の縫ひ方順序を述べよ。

(3) 本裁男袷羽織の袖附留めの順序を説明せよ。

第二　本裁女袷羽織

普通仕立上げ寸法裁ち方・積り方及び標附け方は、總べて本裁女綿入羽織に同じ。但し、前下りの標袷の合標の附け方は男袷羽織に同じ。

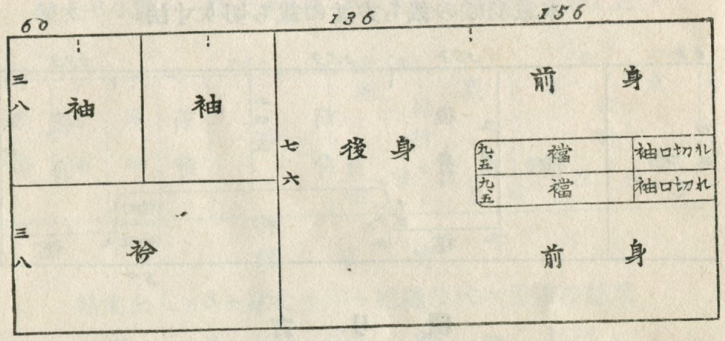
縫ひ方　概ね本裁男袷羽織に同じ。左に其の異なる所を述

ぶべし。

先づ、本裁女袷と同じく袖を縫ひ、次に、本裁男袷羽織と同じく胴接ぎをなし、前下りを縫ひ、脊縫をなし、襠裏を接ぎて、襠の上幅を表裏縫ひ合せ、後身にて後襠を挟み、四つ縫ひになし、身八つ口標の所にて絲留めをなし、引き續きて、身八つ口を縫ひ、前綴をなし、衿を附け、前身にて襠を挟み、後襠と同様に身八つ口まで縫ひ、それより、本裁女袷に倣ひて、袖附を留め、表袖を縫ひ附け、袖の方へ折り、裏袖を、前身の袖附留めの一五糎位(四寸)上まで縫ひ、一針留め、身の方へ折り、縫ひ殘しより表へ引き返し、其の部分を紩け附くるなり。

第三　本裁羽織各種裁ち方・積り方

76糎(二尺)幅にて本裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法

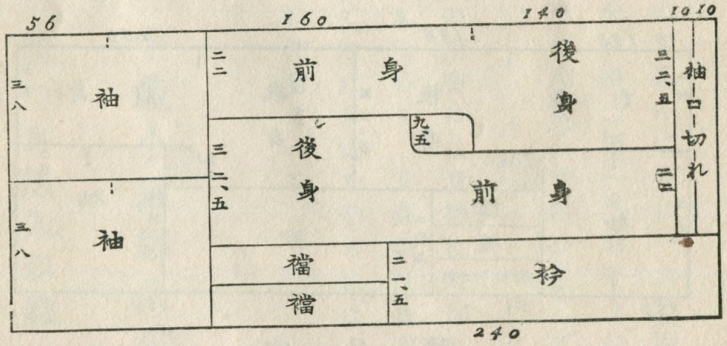


積り方

袖丈×4＋後丈×2＋前後の差＝用布の總尺

60 ×4＋ 136 ×2＋ 20 ＝ 532

76糎(二尺)幅にて本裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



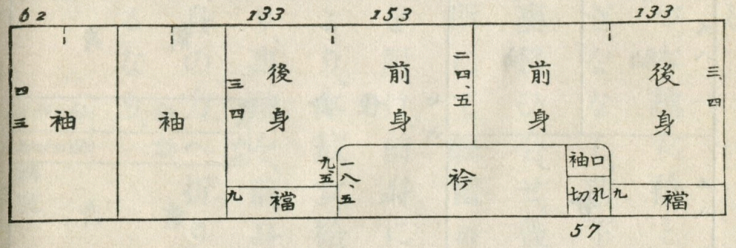
積り方

(袖丈＋後丈＋袖口切れ幅)×2＋前後の差＝用布の總尺

(56 ＋ 140 ＋ 10)×2＋ 20 ＝ 432

43糎（一尺一寸五分）幅にて

本裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



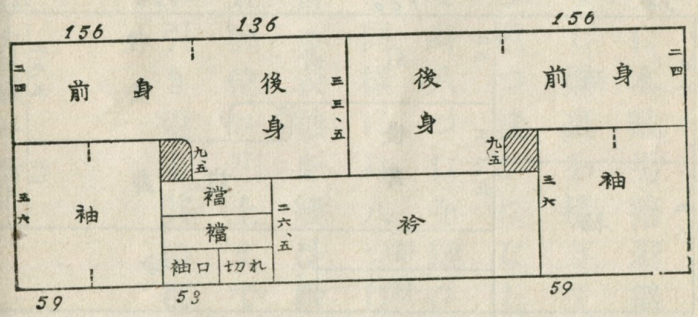
積り方

（袖丈＋後丈）×4＋前後の差×2＝用布の總尺

（62＋133）×4＋　20　×2＝　820

60糎（一尺六寸一）幅にて

本裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



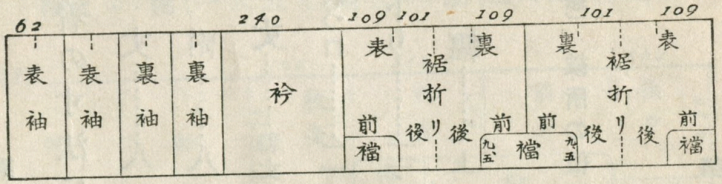
積り方

後丈×4＋前後の差×2＝用布の總尺

136×4＋　20　×2＝　584

並幅にて本裁女無双羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法

袖丈60糎（一尺六寸）後丈1米（二尺六寸五分）上り


62
240
109
101
109
101
109
表袖
表袖
裏袖
裏袖
衿
表
裾折り
裏
裏
裾折り
表
前
後
後
前
後
前
後
前

第一　四つ身綿入羽織普通仕立上げ寸法

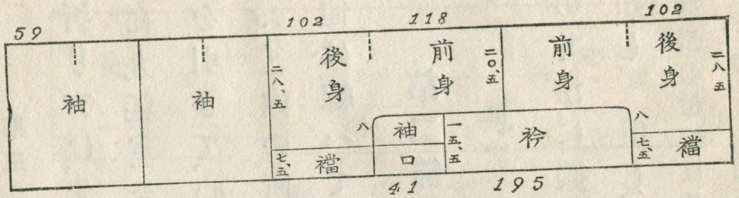
長着の寸法により、凡そ左の如く増減す。

袖丈……八　粍（三　分）増　　袖口……同　寸
袖附……八　粍（三　分）増　　袖幅……四　粍（一　分）増
身丈……着丈より一〇糎（三寸内外）減　　衿肩明……同　寸
身八つ口……一一　糎（五　分）減　　後幅……同　寸
前下り……一一・五　糎（六―七　分）　　乳下り……身八つ口の中程を標準とす
褄幅……上二糎（五分）下、衿幅と同寸　　衿幅……八　粍（二　分）増

（注意）紋所の位置
- 脊紋……衿肩明（裁ち切り）より約そ五五糎（一寸四―五分）
- 抱紋……肩山より約そ一二・五糎（三寸三分）
- 袖紋……袖山より約そ六・五糎（一寸七分）

第二　四つ身綿入羽織裁ち方・積り方

並幅6米76糎（一丈七尺八寸）にて
四つ身羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法
袖丈　57糎（一尺五寸）身丈　83糎（二尺二寸）上り



積り方

{用布の総尺－(袖丈×4＋前後の差×2)}÷4＝後丈

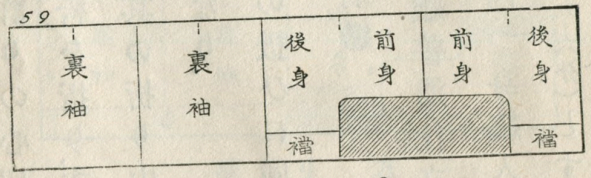
{　676　－(　59　×4＋　16　×2)}÷4＝　102

後丈＋前後の差＝前丈

102　＋　16　＝　118

裁ち切り寸法

同裏布の裁ち方並に寸法



積り方

裏布の総尺＝表布の総尺－衿ひ代＋総縫ひ代×8＋(身丈＋上り丈＋袖丈)×8

(　57　＋　83　)×8＋　58　－　676　＝　502

（注意）総縫ひ代の見込みは、袖・身頃各、六糎（四寸）前下り一八糎（四寸八分）、又三つ衿八糎（三寸四分）として、合計五八糎なり。

第三　四つ身綿入羽織標附け方・縫ひ方

衿の折り方は、先づ、表布に半幅許りの心切れを綴ぢ置き、衿幅の二倍に九粍（二分強）を加へて外衿を折り、次に、其の幅より九粍（二厘強）を引きて、心切れを折り、又其の折り山を、裁ち目の方より二四糎（六分）内の所に合せて折るなり。

其の他は總べて本裁綿入羽織の扱ひに同じ。

第二節　三つ身綿入羽織

第一　三つ身綿入羽織普通仕立上げ寸法

長着の寸法に據り、其の増減は四つ身綿入羽織につきて述べたるが如し。但し、前下りは二糎（五・六分）とす。

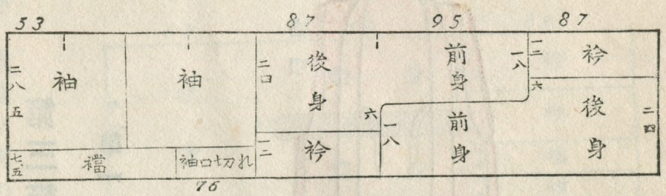
〔注意〕紋所の位置は凡そ次の如し。　背紋……衿肩明より約そ五糎（一寸二・三分）

抱紋……肩山より一一・五糎（三寸）　袖紋……袖山より六糎（一寸五分）

並幅4米81糎（一丈二尺七寸）にて

二つ身羽織の裁ち方に並方に裁ち切り寸法

（袖丈51糎（一尺三寸五分）後丈65糎（一尺七寸）より上り）



積り方

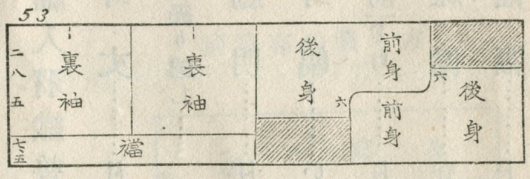
後丈＝{用布の總尺－(袖丈×4＋前後の差)}÷3

{　481　－(　53　×4＋　8　)}÷3＝　87

前丈＝後丈＋前後の差

87　＋　8　＝　95

裁ち方の布裏同



積り方

裏布の總尺＝表布の總尺－代ひ縫總の＋6×身丈＋8×上り丈袖＋8×

51　×8＋　65　×6＋　42　－　481　＝　359

〔注意〕總縫ひ代の見込み左の如し。

袖　一六糎（四　寸）

身頃一二糎（三　寸）

前下り八糎（二　寸）

三つ衿六糎（一寸八分）

合計四一糎

標附け方・縫ひ方は、何れも四つ身綿入羽織に同じ。

第三節　一つ身袖無綿入羽織

第一　一つ身袖無綿入羽織普通仕立上げ寸法

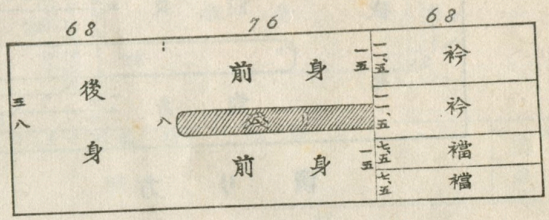
身丈……凡そ五七糎（一尺五―六寸）
肩繰り越し……八糎（二分）以内
脇明……凡そ二一糎（五―六寸）
身幅……いつぱい
前下り……凡そ一糎（三分）
紐附……春より一三糎（六寸）
襠幅……上四糎（一寸）下いつぱい
衿幅……凡そ四糎（一寸一分）

圖の織羽無袖

第二　一つ身袖無綿入羽織裁ち方・積り方

38糎（一尺一）幅にて

袖無羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法

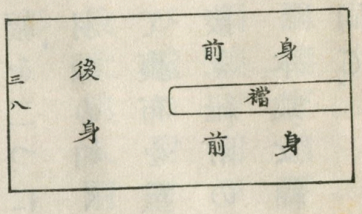


積り方

後丈＋前丈＋衿丈＝用布の總尺

68 ＋ 76 ＋ 68 ＝ 212

方ち裁の布裏同



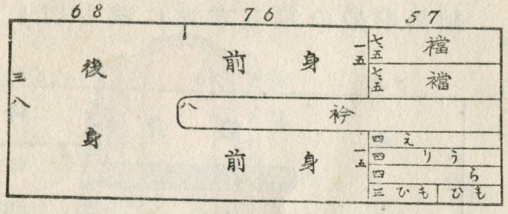
積り方

身丈×4＋衿丈＋總縫ひ代―表布の總尺＝裏布の總尺

57 ×4＋ 68 ＋ 18 － 212 ＝ 102

〔注意〕總縫ひ代の見込みは、身頃に八糎（二寸）、前下りに六糎（二寸）、三つ衿に四糎（一寸二分）、合計一八糎なり。

法寸り切ち裁に並方ち裁の織羽無袖無袖にて幅(尺一)糎38



積り方

後丈＋前丈＋檔丈＝用布の總尺

68 ＋ 76 ＋ 57 ＝ 201

裏布の積り方

裏布の總尺＝表布の總尺－總縫ひ代＋檔丈＋4×身丈

102 ＝ 201 － 18 ＋ 57 ×4＋ 57

第三　一つ身袖無綿入羽織

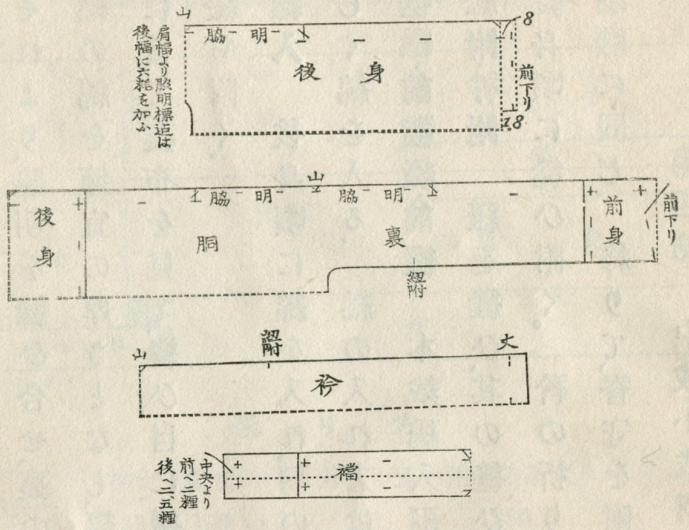
標附け方

一、身頃　表裏共に表を中にして幅を二つに折り、本裁女綿入羽織の如く、表布の丈を定めて裏布を重ね、山・脇明・身幅・胴接ぎ・紐附の標を附く。

二、檔　本裁女綿入羽織の扱ひに同じ。

三、衿　四つ身綿入羽織の扱ひに同じ。

方ち附標の織羽入綿無袖身つ一



第四　一つ身袖無綿入羽織

縫ひ方

一、胴接ぎ・前下り・檔附・脇明　胴接ぎ・前下りの縫ひ方及び檔の附け方は、總べて本裁女綿入羽織の扱ひに同じ。

脇明の表裏を揃へ、表布は幅標通り、裏布は幅標より八粍の縫ひ込みとして、(脇明標より四糎(一寸)許り

は斜に、)待針を打ち、脇明標を四つ留めになし、襠の上部を縫ひ、それより、脇明を縫ひ合せ、裏の方へ折り、凡そ五-六糎(一寸五分)幅の綿を適宜の厚さとなし、幅の中央を脇明の表布の縫ひ目に當て、裏布を見て、縫ひ目に綴ぢ、又襠の上部にも同じく綿を綴ぢ附く。

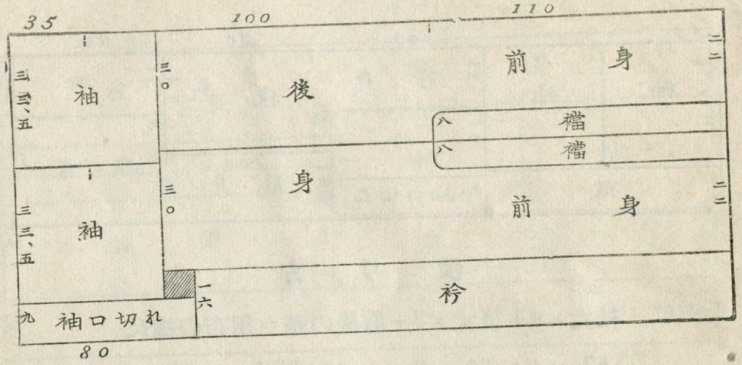
二、綿入　後身頃に綿を入れ、肩の所より引き返し、前身頃にも同じく綿を入る。綿の入れ方は畧、本裁女綿入羽織に同じ。

三、裾綴・前襠綴・前綴　本裁綿入羽織に同じ。

四、紐附・衿附　紐を縫ひ、其の縫ひ目を紐裏の中央として、之れを裏身頃に縫ひ附く。衿の折り方・附け方は總べて四つ身綿入羽織に同じ。終りて、脊守を附け、肩揚をなすなり。

第四節　中裁・小裁羽織各種裁ち方・積り方

76糎(二尺)幅にて
元禄袖中裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法

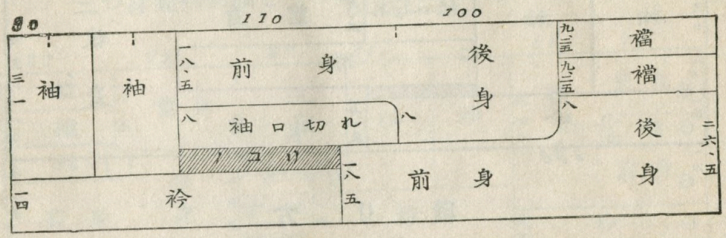


積り方

用布の總尺＝(袖丈＋後丈)×2＋前後の差

(35 ＋ 100)×2＋　10　＝　280

45糎(一尺二寸)幅にて片面物
中裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



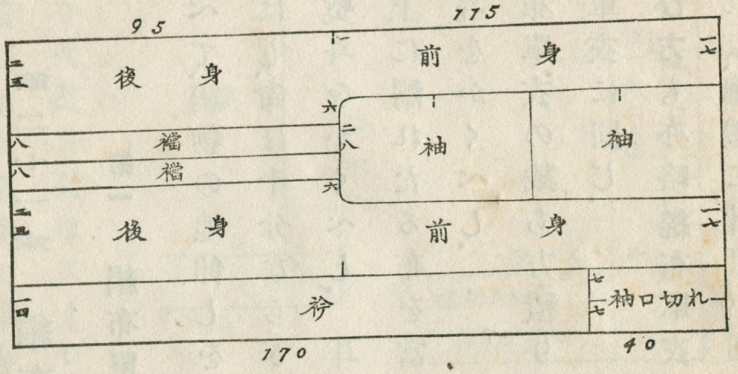
積り方

用布の總尺＝袖丈×4＋後丈×3＋前後の差

30 ×4＋ 100 ×3＋　10　＝　430

片面物76糎（二尺）幅2米10糎（五尺五寸）にて

小裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



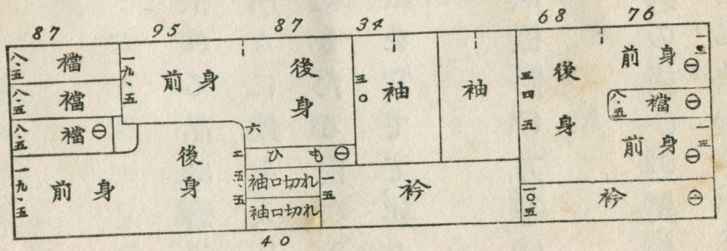
積り方

前丈－前後の差＝後丈　　前丈×2－前後の差＝用布の總尺

115 －　20　＝ 95　　115×2－　20　＝　210

片面物45糎（一尺二寸）幅にて

三つ身筒袖羽織と一つ身袖無羽織の裁ち合せ方



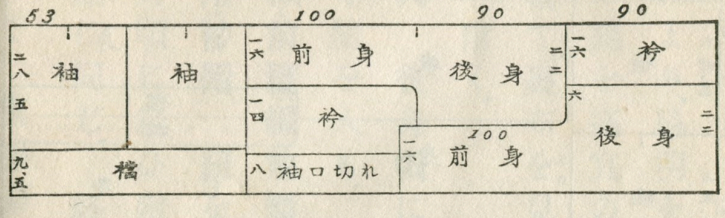
積り方

三つ身袖丈×4＋三つ身後丈×3＋一つ身後丈×2＋前後の差×2＝用布の總尺

34　×4＋ 87　×3＋ 68　×2＋　8　×2＝　549

片面物38糎（一尺）幅にて

小裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



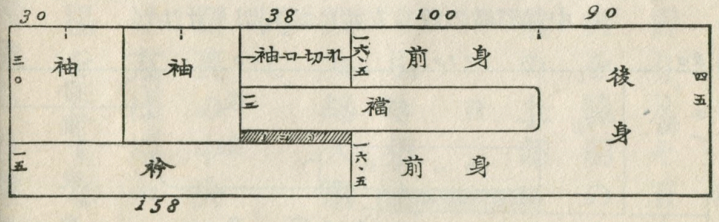
積り方

袖丈×4＋後丈×3＋前後の差＝用布の總尺

53　×4＋ 90　3＋　10　＝　492

片面物 45 糎（一尺二寸）幅にて

元祿袖小裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

袖丈×4＋身丈×2＋袖口切れ＋前後の差＝用布の總尺

30　×4＋ 90　×2＋　38　＋　10　＝　348

第二十一章　絹布毛織

第一　絹布單衣

總べて、絹物の地伸しをなすには、耳の張れる品は、烙鏝にて引き伸ばし、尚ほ十分ならざるときは、耳の所々に鋏を入れて、總體に火熨斗をかくべし。耳の弛める品は、乾きたる白布を敷きて、其の上に濡れたる布を當て、又は直に濡紙を當てて、其の上より火熨斗をかくべし。

絹布單衣の裁ち方、積り方、仕立上げ寸法、標附け方等は總べて綿布單衣に同じ。

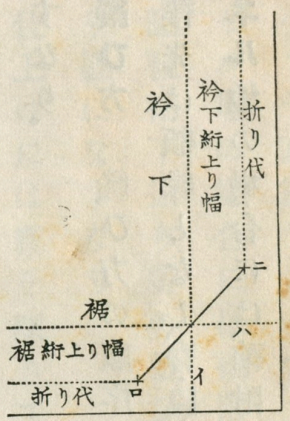
縫ひ方も亦略、綿布單衣に同じと雖も、其の扱ひの異れる所を擧ぐれば、總體に針目を細かくして、縫ひ目に烙鏝をかくること、脇、衽、振りの縫ひ込みの耳を折りて、紉け附くること、及び衽の褄先を額緣になすこと等なり。

額緣の標附け方は上圖の如し。

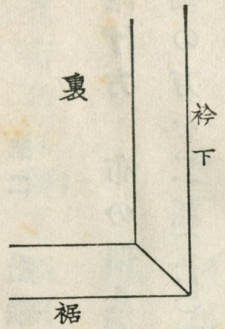
其の縫ひ方は、ロとニとを合せて待針を打ち、標通り半返しに縫ひ、縫ひ目を割りて、常の如く衿下及び裾を紉けるなり。

仕上げをなすには、大幅七六糎（三尺）許りの新モスの切れを用ひ、其の上より火熨斗又はアイロンを掛くるなり。

透織の如き薄物の場合には、肩當、居敷當を用ひず、脊の縫ひ代



方け附標の緣額先褄



緣額の先褄

に共切れを當てゝ脊縫をなし、縫ひ代を包みて、縫ひ目に紛け附くるなり。

第二　毛織單衣

一、**標附げ方**　布の据ゑ方は綿布と異なることなし。但し、袖は内袖の方を二糎(五厘)程引きて、二つに折り、標を附くるなり。標を附くるには、筥の代りに「チヨーク」を用ひて、切り目をなすなり。

二、**縫ひ方**　縫ひ方の順序は、綿布單衣に同じ。褄先は額縁となし、脊・脇・袖附は半返しに縫ふなり。

ネル地の場合には、袖附と脇縫とは、縫ひ目を割り、袖口・衿下・裾は三つ折りになし、脇・衽・袖下・振り等の縫ひ込みは其の儘になし、總べて千鳥縫ひになす。

セル地の場合には、袖附と脇縫とはネル地の如く縫ひ目を割り、脇・衽・袖下・振り等の縫ひ込みは其の端を折りて、千鳥縫又はまつり縫になすなり。

仕上げには霧を吹きてアイロンをかく。

第三　絹布毛織の繕ひ方

一　接ぎ方

接ぎ方には解し絲又は共色の絲を用ひ、時としては生絲を用ふることあり。針は掛け接ぎ用の細きものを用ふ。

二、**片返し**　綿布のときに同じ。但し、針目は成るべく細かきを良しとす。

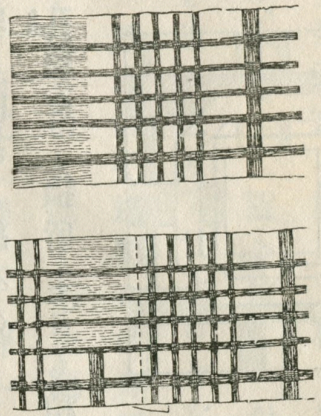
二、**割り接ぎ**　綿布のときに同じ。其の仕上げ方は縫ひ目を割り、姫糊又は續飯の淡くしたるを、針尖にて、裏より接ぎ目に引き、表裏に烙鏝をかくるなり。

三、**掛け接ぎ**　綿布のときに同じ。其の仕上げ方は割り接ぎにつきて述べたる如し。

縮緬類の掛け接ぎには、先づ、縞目及び布目に從ひて接ぎ代を折り、次に、西の内又は厚美濃の類を縦に二・五糎（六―七分）の幅に裁ち切り、之れを接ぎ代の折りの間に挿みて、頻をかけ置き、双方の折り山を正しく合せて、頻を施し、經絲凡そ二本おきに緯絲一本を抄ひて、五六針ことに一針つゝスカラ掛けになし、後ち、紙を除き、割り接ぎの如く仕上げをなすなり。

四、**織り接ぎ**　先づ、一方の布を八糎（二寸）程解し置き、双方の縞目及び布目を見合せ、一糎程（三分）重ねて頻をかけ、解したる絲を一本宛針に通して、他方の布の緯絲を抄ひ、織地の通りに二糎（五―六分）刺し行き、絲を引き締めて、よく接ぎ目を合せ、後ち、絲及び布の餘りを切り去り、烙鏝をかくるなり。

織り接ぎ



五、**突き合せ接ぎ**　厚地の毛織物には多く此の接ぎ方を用ふ。

其の仕方は、先づ能く毛並、縞目等を見て、裁ち目を突き合せ、双方とも一・五糎（二―四分）程、織地を刺して接ぎ合せ、烙鏝をかけ、後ち、刷毛にて毛並を整ふるなり。

二　繼ぎ方

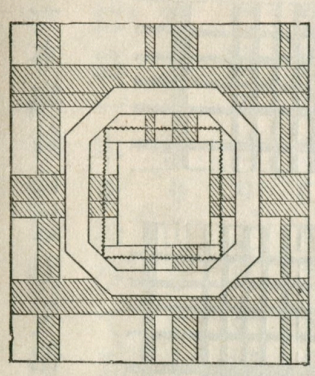
繼ぎ方には、すべて解し絲又は共色の繼ぎ絲を用ひ、針は繼ぎ針を用ふ。

一、色紙繼ぎ　綿布のときと同様なり。但し、針目は三目落しとし、極めて細かなるをよしとす。

二、刺し繼ぎ　綿布のときに同じ。

三、孔繼ぎ　損所よりも、稍大なる厚紙を用ひ、損所の形に應じて、之れを圓形又は方形に切り抜き置き、先づ、綿布のときの如く、損所を切り去り、厚紙を裏に當てゝ躾にて留め、損所の周圍に切り込みを入れて、縫ひ代を裏へ折り返し、其の端に少しく糊を引き、烙鏝にて厚紙に貼り、次に、當切れを

孔繼ぎ



裁ち切り、前に切り抜きたる厚紙を其の裏に當て、能く縞目布目を合せて、縫ひ代を裏に貼り附け、之れを損所に塡め込み、廻りを適宜に、躾にて押へ置き、双方の折り山を極めて細かく紿け、八粍（二分）置き位に一針づつ返して繼ぎ合せ、後ち、双方の紙を除き去りて、仕上げをなすなり。

厚地の毛織類には厚紙を用ひず、損所と同形同大に當切れを裁ち切り、能く毛並縞目等を見て、之れを損所に塡め込み、廻りを適宜に躾にて押へおき、針目の表面に出でざるやう、布の厚みを抄ひて、突き合せ接ぎになすべし。

第二十二章　腹合せ帶

腹合せ帶は晝夜帶とも云ひ、両側別々の帶地を縫ひ合せたる

ものにて、丈は四米内外（一丈乃至一丈一尺）、幅は三〇糎（八寸）内外を通常とす。

第一　腹合せ帶標附け方

先づ、火熨斗にて帶地の伸び縮みを正し、（品質により霧をかく。）耳の厚き品は耳だけを裁ち落し、薄地にて耳の張れる品は鋏を斜に淺く入れ、能く總體を平にし、それより、表を中にして両側を重ね、幅の中央に待針を打ち、両端の布目を合せて、假綴をなし、能く幅と丈との釣合を正し、両脇に待針を打ちて假綴をなし、然る後ち、出來上り幅より四粍（一分）廣くして、幅標を附く。

第二　腹合せ帶縫ひ方

一、一方の脇の中程を四〇糎（一尺）許り（帶幅に一〇糎程（二三寸）を加へたる寸法）殘して、厚地の品は一針抜きに、薄地の品は小針に縫ひ、角の所は五粍程（一分）縫ひ殘し、又は四糎（一寸）許りの間、幅標より少しく外を縫ひ、兩端の全部と両脇の角より五糎（一寸五分）許りの間は半返しに縫ひ、平烙鏝をかけ、それより、両端を厚地の側の方へ二粍（五厘）の被せに折りて、両脇の縫ひ代に綴ち附け、次いで、両脇も同様に折る。

二、**心の挿へ方**　通常三河木綿を用ひ、一枚心のときは、之れを上り幅と同寸に裁ち切るなり。二枚心のときは一枚は、前の如く同寸に裁ち、他の一枚は両脇の縫ひ込みだけ狹く裁ち落して、（厚地の場合には両端をも縫ひ込みだけ裁ち落すことあり。）二枚を綴ち合すなり。

三、**心の入れ方**　心の片面（二枚心のときは狹く裁ち切りたる心

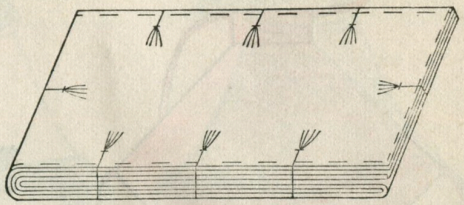
の方に眞綿を引き、火熨斗をかけて綿を押へ、帶側の縫ひ込みを折りたる上に、眞綿を引きたる方を下にして、心を載せ、心を弛めにして、幅の中央に待針を打ち、先づ、兩脇を綴ぢ、次に、兩端を綴ぢつけ、又其の上に眞綿を引きて火熨斗をかけ、前に縫ひ殘し置きたる所より引き返して、幅及び丈を整へ、縫ひ殘しの部分は先づ心を縫ひ込みに綴ぢ附け、後ち小針に紉けるなり。

〔注意〕紋羽の類を心となし、眞綿を用ひざることあり。

四、躾かけ方　角及び總體の縫ひ目を正し、五粍程（一分五厘）内に、兩脇は三糎（八分）位の針目に躾をかけ、兩端は兩脇の五粍程（一分五厘）を除き、殘りを十分して針目を定め、躾をかくるなり。

五、仕上げ方　火熨斗をかけて仕上げをなし、丈を八つに折り、兩端の中央を三糎（八分）の深さに綴ぢ、其の間を六分し、之れに三

方ち綴び及方み疊の帶せ合腹



糎（八分）を加へたる寸法だけ、兩端より内に入りて、兩脇の約そ二・五糎（六分）内を綴ぢ、又其の中間にも、圖の如く綴ぢを施し、壓しを置くなり。

〔注意〕縮緬の類を帶側に用ふるときは、先づ、其の伸び工合を檢べ、其の寸法だけ、丈、幅共に張り目に縫ひ合すべし。

又絽・紗の類を帶側に用ふるときは二枚の心を綴ぢ合せ、一枚心のときの如く裁ち切り、心の間に帶側の縫ひ込みを挾みて、綴ぢ合すべし。

〔設問〕

(1) 帶心の掛へ方及び入れ方を說明せよ。

(2) 帶の角を正しく仕立てんには、如何なる點に注意すべきか。

第二十三章　子供腹掛・寝冷え知らず

第一節　子供腹掛

第一　子供腹掛裁ち方

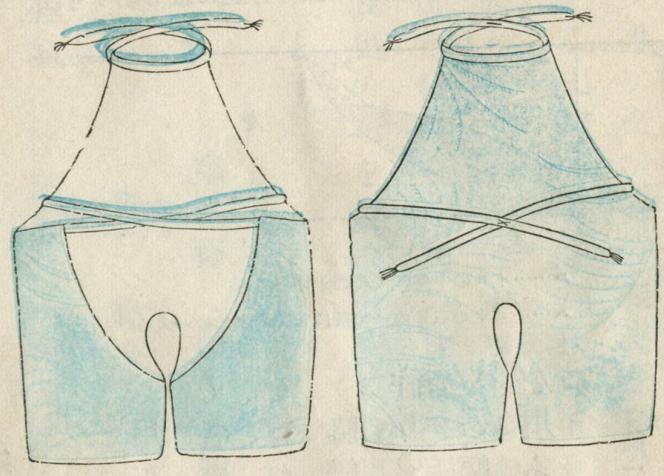
身は表裏各一、並幅三八糎（一尺）とし、小胸は表裏各一、幅九糎（二寸三分）丈七・五糎（二寸）とす。

衿紐には丈二一糎（五・六寸）幅七・五糎（二寸）、脇紐には丈五七糎（一尺五寸）、幅七・五糎（二寸）許りの切れ、各一、二枚を用ふるものとす。

第二　子供腹掛縫ひ方

圖の掛腹供子

圖の（用歳三―二）ずらず知え冷寝

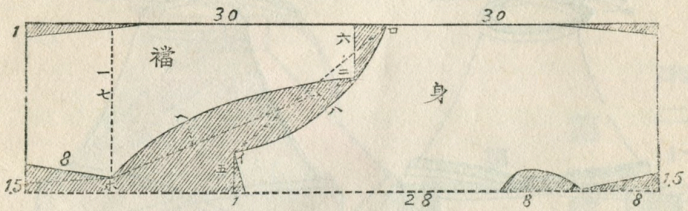


先づ、衿紐・脇紐各一、二本を紡け置き、次に、表裏の身を合せ、左右の角に脇紐を挟みて、縫ひ廻し、小胸附七・五糎（二寸）を殘し、其の所より引き返し、廻りに躾を掛け、それより、小胸の上角に衿紐を挟み、下方だけ殘して、他の三方を縫ひ合せ、引き返して、小胸の表を身に縫ひ附け、裏を紡け附くるなり。

第二節　寝冷え知らず

（二―三歳用）

法寸り切ち裁に並方ち裁の(用歳三―二)ずら知え冷寝
にて(寸七尺一)糎65幅並



ろ入一分一の其て当に央中の口イ……イ口
へ……ホ二の三分の一の所に其の十分の一入るろ

第一　寝冷え知らず(二―三歳用)

裁ち方

用布は表裏各一並幅六五糎(一尺七寸)とし、各表を中にして、幅を二つに折り、二枚を重ねて、上圖の如く裁ち切るなり。

脇紐には丈六〇糎(一尺六寸)、幅四糎(一寸)許りの切れ二枚、衿紐には丈六〇糎(一尺六寸)、幅三糎(八分)許りの切れ又はテープを用ふるものとす。

第二　寝冷え知らず(二―三歳用)

縫ひ方

先づ、身の裾を表裏縫ひ合せ、脇紐を褊の上部に挟みて、褊の上部の刳り及び裾の表裏を縫ひ合せ、裏布の方へ折り、次に、身の表裏にて褊を挟み、褊の脇胯下を四つ縫ひになし、前明刳り落しの表裏を縫ひ合せ、それより、身の表裏を上方まで縫ひ行き、衿紐附の所を縫ひ殘し、其の所より引き返して、衿紐を附くるなり。

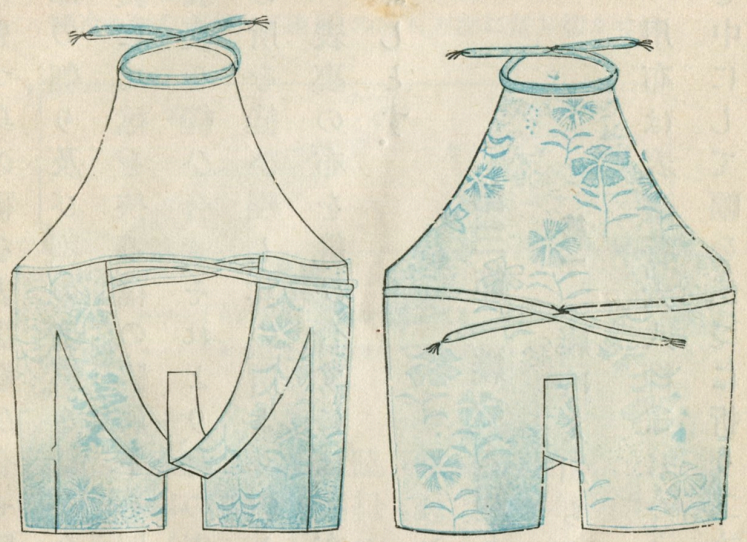
表裏の布を縫ひ合すには、裏布の方の縫ひ代を較深くするをよしとす。

第三節　寝冷え知らず(五―六歳用)

第一　寝冷え知らず(五―六歳用)裁ち方

用布は表裏各一、六八糎(一尺八寸)幅六一一糎(一尺六寸五分)とし、各一表を中にして幅を二つに折り、二枚を重ねて、左圖の如く裁ち切る

寝冷え知らず(五―六歳用)の圖



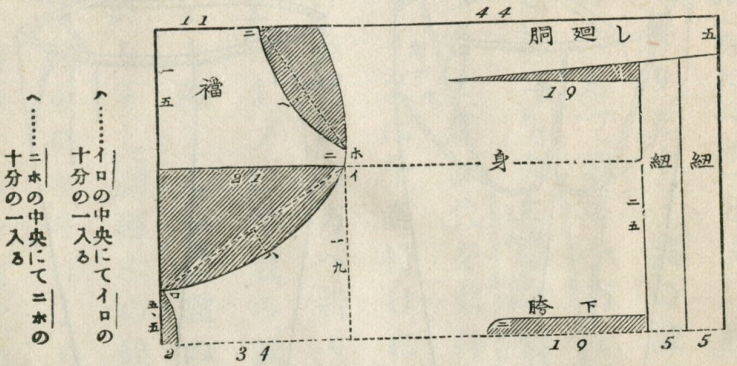
なり。

脇紐には丈六八糎(一尺八寸)、幅四糎(一寸)許りの切れ二枚、衿紐には七五糎(一尺)許りの切れ、又はテープを用ふるものとす。

第二　寝冷え知らず(五―六歳用)縫ひ方

先づ、身及び襠の裾を縫ひ合せ、身の左右の上角に脇紐を附け、それより、左右共に胴廻しの外側より上方まで縫ひ廻し、身の表裏にて襠を挟みて、脇及び胯下を四つ縫ひになし、表に返し、次に、胴廻しの表布を襠の表裏に重ね、三枚を胯下の上端まで縫ひ合せ、胴廻しの裏を襠裏に紛け附け、胴廻しの先は前明(まへあき)刳(く)り落(おと)しの所にて、右を下に左を上に重ねて、表裏の身の間に挟み、恰好よくまつり附け、後ち、衿紐を附くるなり。

寝冷え知らず(五―六歳用)の裁ち方並に裁ち切り寸法

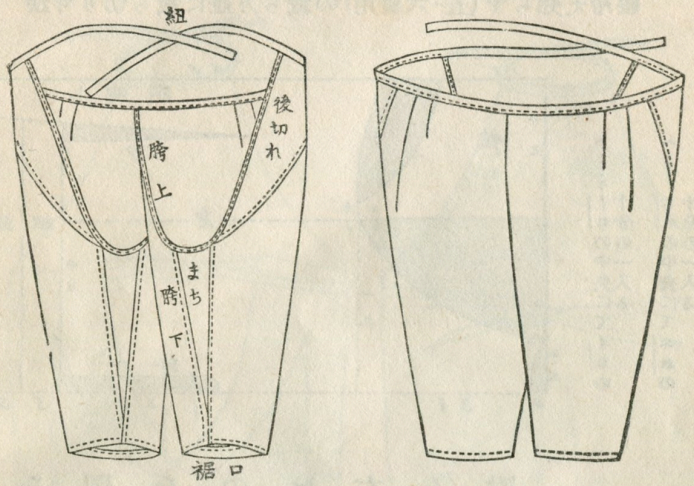


68糎(寸八尺一)幅63糎(寸六尺五分一)にて

第二十四章　婦人股引

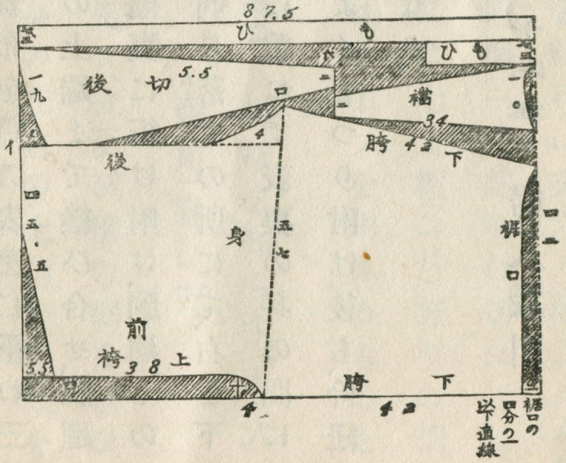
用布の總尺は七六糎(二尺)幅一米

婦人股引の圖



76糎（二尺）幅1米75糎（四尺六寸）にて

婦人股引の裁ち方並に裁ち切り寸法



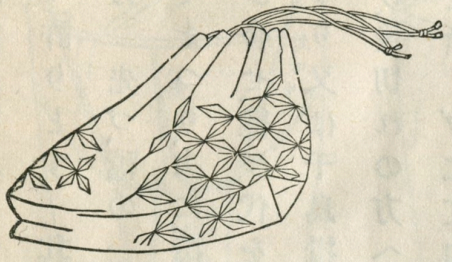
七五糎（四尺六寸）とす。紐は凡そ丈二米一〇糎（五尺五寸）幅七·五糎（二寸）許りとす。其の裁ち方は圖の如し。

縫ひ方　先づ、襠の一方を後身の胯下に縫ひ附け、身の方へ折り伏せてまつり、次に、襠の他方と前胯下を縫ひ、襠以下は前後の身を縫ひ合せ、縫ひ代を前身の方へ折り伏せてまつり、裾口を折りてまつり又は千鳥掛けになし、後切れの斜裁の方を後胯上に縫ひ附け、後切れの方へ折り伏せてまつり、前後の胯上の裁ち目を總べてテープにて包み、紐をかけ、本返しに縫ひ、左脚を上にして、前身を九糎（二寸五分程）重ね、假綴をなし置き、後の重なりを二三糎（六寸）許りとし、胴廻りの餘分は、両脇より後胯上の間にて縫ひ締め又は襞を取り、それより、紐切れを接ぎ、紐丈の中央を前身の重なりの眞中に合せて、之れを縫ひ附け、後ち紐絎をなすなり。

第二十五章　手提

第一　輕便手提

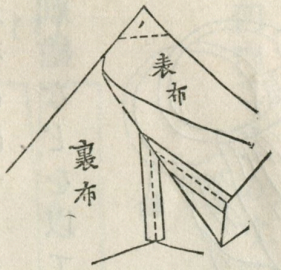
輕便手提の圖



用布は表裏各一幅二三糎（六寸）丈三六糎（九寸五分）とし、打紐ょ細太とも丈九五糎（三尺五寸）許りとす。

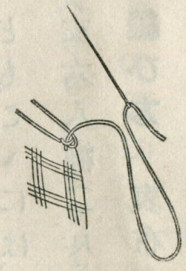
表布を二つ折になし、八糎（三分）の縫ひ代に兩脇を縫ひ、縫ひ目を割りて、よく烙鏝を掛け、上部を八糎（三分）に折り、次に、裏布の兩脇を一糎（二分五厘）の縫ひ代に縫ひ、縫ひ目を割り、上部を一糎（二分五厘）に折り、左圖の如く底を合せ、幅四糎（一寸）の所を表裏共に縫ひ合せ、縫ひ目を向ひ合せに折り、表を引き返し、口を紉け、口の兩側を十二等分して標を附け、細き打紐にて、先づ、針を脇の縫ひ目より入れて裏へ出し、縫ひ目を跨き、五厘許り離して裏より表へ出し、其の絲を輪に通して引き締め、それより、左圖の如く結り、太き打紐を交互に通し、先を結び置くなり。

手提底の合せ方

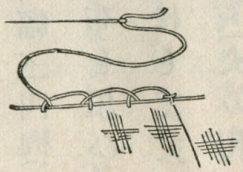


口の結り方

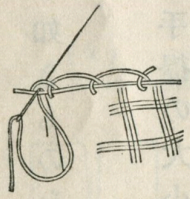
(1) 結り始め



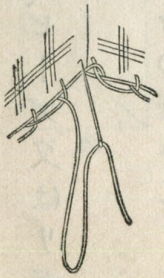
(2) 途中の結り方



(3) 中央縫ひ目の所の結り方



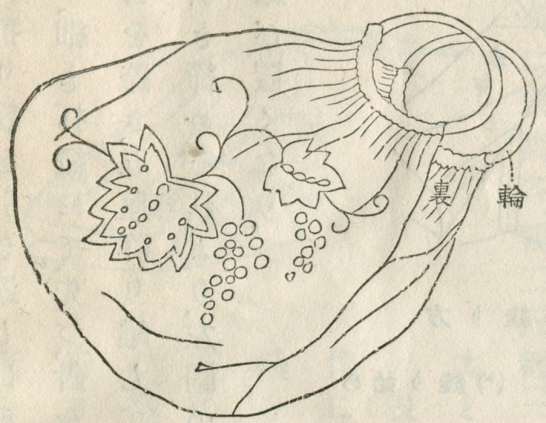
(4) 結り終り



第二　輪附手提

用布にはサージ・麻布・更紗の如きものを用ひ、ビーズ又はリボン刺繍などを以て裝飾を加ふ。

圖の提手附輪

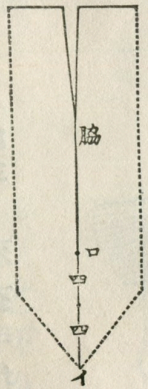


手提の大小は人々の好みによれども、こゝには、表裏各、幅三四糎（九寸）、丈六八糎（二尺八寸）の布を用ひたり。

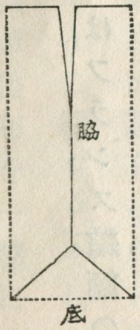
縫ひ方　表布を中表にして丈を二つに折り、兩側を縫ひて、丈の凡そ三分の一に四糎（一寸）程加へたる寸法を上部の明きとす。）縫ひ目を割り置き、裏布は表布より二糎（五厘）程幅を詰め、兩側を縫ひて割り、表布の表裏布の裏を出して、裏布を中に入れ、表裏の兩側を揃へて、脇明きの所を四つ留めになし、脇明きの表裏を縫ひ合せ、折りを附けて、表を返し、兩側の下端を表裏とも一緒に三角に折りて留め、上部は表裏躾にて綴ち合せ、裁ち目の所を一糎（三分）裏へ折り、輪を挟み、絲をよく引き締めて、まつり附く。　兩側下端の留め方は、(1)圖の如く、イ角をロの所に留め、(2)圖の如く仕立てるなり。　(1)圖の四糎（一寸）の寸法は袋の大きさによりて加減をなすべし。

下角の留め方

(1)

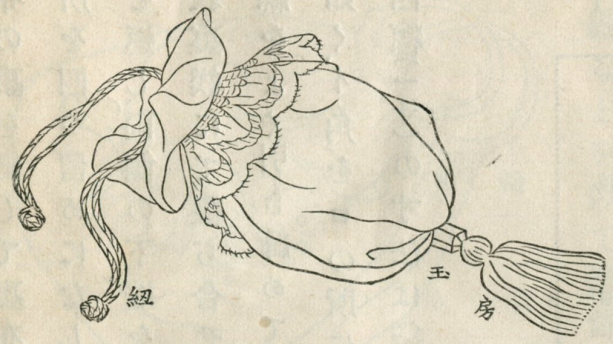


(2)



第三　羽衣手提

羽衣手提の圖



用布にはフランス縮緬の如き薄地を用ふ。

表布　幅四二糎（一尺一寸）　丈三〇糎（八　寸）

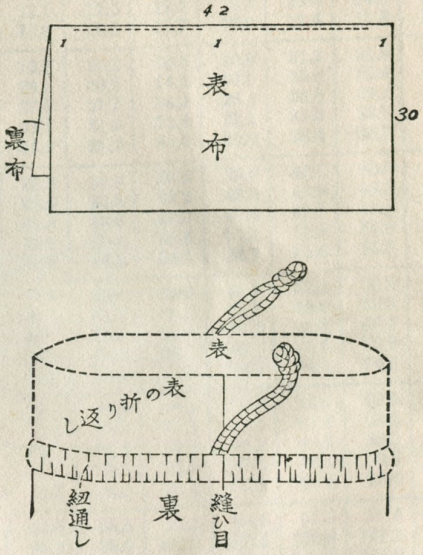
裏布　幅四二糎（一尺一寸）　丈二一糎（五寸五分）

レース　幅八糎（三寸）、丈四二糎

紐　四九糎（一尺三寸）のもの二本

外に房と玉一個づゝを要す。

羽衣手提の縫ひ方



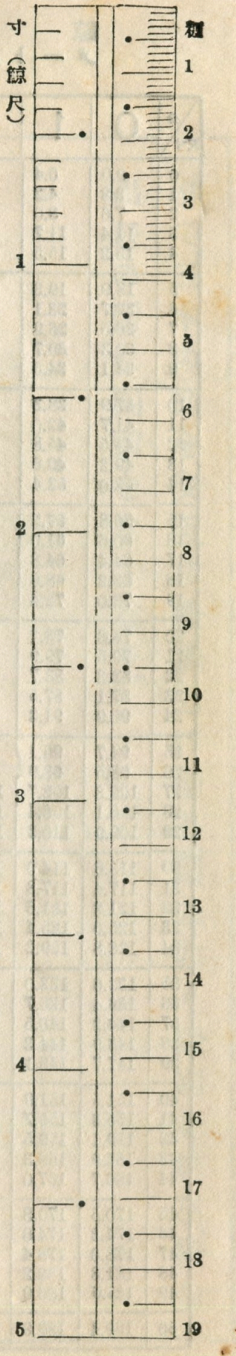
縫ひ方　表裏の布を合せ両端と中央の所を一糎（三分）殘して縫ひ、裏の方へ折り、次に、表裏つづきに脇を縫ひ、縫ひ目を割り、表を出し、表布を裏へ四糎半（一寸二分）折り返して、躾をかけ、レースの丈を輪に縫ひて、表布の上にかぶせ、上部より四糎半（一寸二分）下方に、小針にて綴ち附く。（裏の針目は裏布の内に隱るゝやうに綴ちる。）それより、紐通しの幅として一糎（三分）下り、レース表布裏布を一緒に小針に縫ひ、表布の底を縫ひ締めて、房を附け、又裏布の底を縫ひ締め、終

りて、二本の紐を、交互に紐通しに通し、圖の如く紐端を結び、紐の出口の所に閂留をなすなり。

増訂 裁縫新教科書（メートル法適用）上卷 終

尺 鯨尺 メートル 換算表（糎ヲ單位トス）

分 / 尺寸	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	0.0	0.4	0.8	1.1	1.5	1.9	2.3	2.7	3.0	3.4
1	3.8	4.2	4.5	4.9	5.3	5.7	6.1	6.4	6.8	7.2
2	7.6	8.0	8.3	8.7	9.1	9.5	9.9	10.2	10.6	11.0
3	11.4	11.7	12.1	12.5	12.9	13.3	13.6	14.0	14.4	14.8
4	15.2	15.5	15.9	16.3	16.7	17.0	17.4	17.8	18.2	18.6
5	18.9	19.3	19.7	20.1	20.5	20.8	21.2	21.6	22.0	22.4
6	22.7	23.1	23.9	23.9	24.2	24.6	25.0	25.4	25.8	26.1
7	26.5	26.9	27.3	27.7	28.0	28.4	28.8	29.2	29.6	29.9
8	30.3	30.7	31.1	31.4	31.8	32.2	32.6	33.0	33.3	33.7
9	34.1	34.5	34.9	35.2	35.6	36.0	36.4	36.7	37.1	37.5
10	37.9	38.3	38.6	39.0	39.4	39.8	40.1	40.5	40.9	41.3
11	41.7	42.0	42.4	42.8	43.2	43.6	43.9	44.3	44.7	45.1
12	45.5	45.8	45.2	46.6	47.0	47.4	47.7	48.1	48.5	48.8
13	49.2	49.6	50.0	50.4	50.8	51.1	51.5	51.9	52.3	52.7
14	53.0	53.4	53.8	54.2	54.5	54.9	55.3	55.7	56.1	56.4
15	56.8	57.2	57.6	58.0	58.3	58.7	59.1	59.5	59.9	60.2
16	60.6	61.0	61.4	61.7	62.1	62.5	62.9	63.3	63.6	64.0
17	64.4	64.8	65.2	65.5	65.9	66.3	66.7	67.0	67.4	67.8
18	68.2	68.6	68.9	69.3	69.7	70.1	70.5	70.8	71.2	71.6
19	72.0	72.4	72.7	73.1	73.5	73.9	74.2	74.6	75.0	75.4
20	75.8	76.1	76.5	76.9	77.3	77.7	78.0	78.4	78.8	79.2
21	79.5	79.9	80.3	80.7	81.1	81.4	81.8	82.2	82.6	83.0
22	83.3	83.7	84.1	84.5	84.9	85.2	85.6	86.0	86.4	86.7
23	87.1	87.5	87.9	88.3	88.6	89.0	89.4	89.8	90.2	90.5
24	90.9	91.3	91.7	92.1	92.4	92.8	93.2	93.6	93.9	94.3
25	94.7	95.1	95.5	95.8	96.2	96.6	97.0	97.4	97.8	98.1
26	98.5	98.9	99.2	99.6	100.0	100.4	100.8	101.1	101.5	101.9
27	102.3	102.7	103.0	103.4	103.8	104.2	104.5	104.9	105.3	105.7
28	106.1	106.4	106.8	107.2	107.6	108.0	108.3	108.7	109.1	109.5
29	109.9	110.2	110.6	111.0	111.4	111.7	112.1	112.5	112.9	113.3
30	113.6	114.0	114.4	114.8	115.2	115.5	115.9	116.3	116.7	117.1
31	117.4	117.8	118.2	118.6	119.0	119.3	119.7	120.1	120.5	120.8
32	121.2	121.6	122.0	122.4	122.7	123.1	123.5	123.9	124.2	124.6
23	125.0	125.4	125.8	126.1	126.5	126.9	127.3	127.7	128.0	128.4
34	128.8	129.2	129.5	129.9	130.3	130.7	131.1	131.4	131.8	132.2
35	132.6	133.0	133.3	133.7	134.1	134.4	134.8	135.2	135.6	136.0
36	136.4	136.7	137.1	137.5	137.9	138.3	138.6	139.0	139.4	139.8
37	140.2	140.5	140.9	141.3	141.7	142.0	142.4	142.8	143.2	143.6
38	143.9	144.3	144.7	145.1	145.5	145.8	146.2	146.6	147.0	147.4
39	147.7	148.1	148.5	148.9	149.2	149.6	150.0	150.4	150.8	151.1
40	151.5	151.9	152.3	152.7	153.0	153.4	153.8	154.2	154.5	154.9
41	155.3	155.7	156.0	156.4	156.8	157.2	157.6	158.0	158.3	158.7
42	159.1	159.5	159.9	160.2	160.6	161.0	161.4	161.7	162.1	162.5
43	162.9	168.3	163.6	164.0	164.4	164.8	165.2	165.5	165.9	166.3
44	166.7	167.0	167.4	167.8	168.2	168.6	168.9	169.3	169.7	170.1
45	170.5	170.8	171.2	171.6	172.0	172.4	172.7	173.1	173.5	173.9
46	174.2	174.6	175.0	175.4	175.8	176.1	176.5	176.9	177.3	177.7
47	178.0	178.4	178.8	179.2	179.6	179.9	180.3	180.7	181.1	181.4
48	181.8	182.2	182.6	183.0	183.3	183.7	184.1	184.5	184.9	185.2
49	185.6	186.0	186.4	186.7	187.1	187.5	187.9	188.3	188.6	189.0
50	189.4	189.8	190.2	190.5	190.9	191.3	191.7	192.0	192.4	192.8



鯨尺	曲尺	メートル
寸	寸	糎
(1)	1.25	3.7879
0.8	(1)	3.0303
0.2640	0.3300	(1)

大正七年八月十一日印刷　同年八月十四日發行
大正八年四月十五日訂正印刷　同年四月十八日再版發行
大正十四年十一月二十三日訂正三版印刷
大正十四年十一月二十六日訂正三版發行
大正十五年三月十七日訂正四版印刷
大正十五年三月二十日訂正四版發行

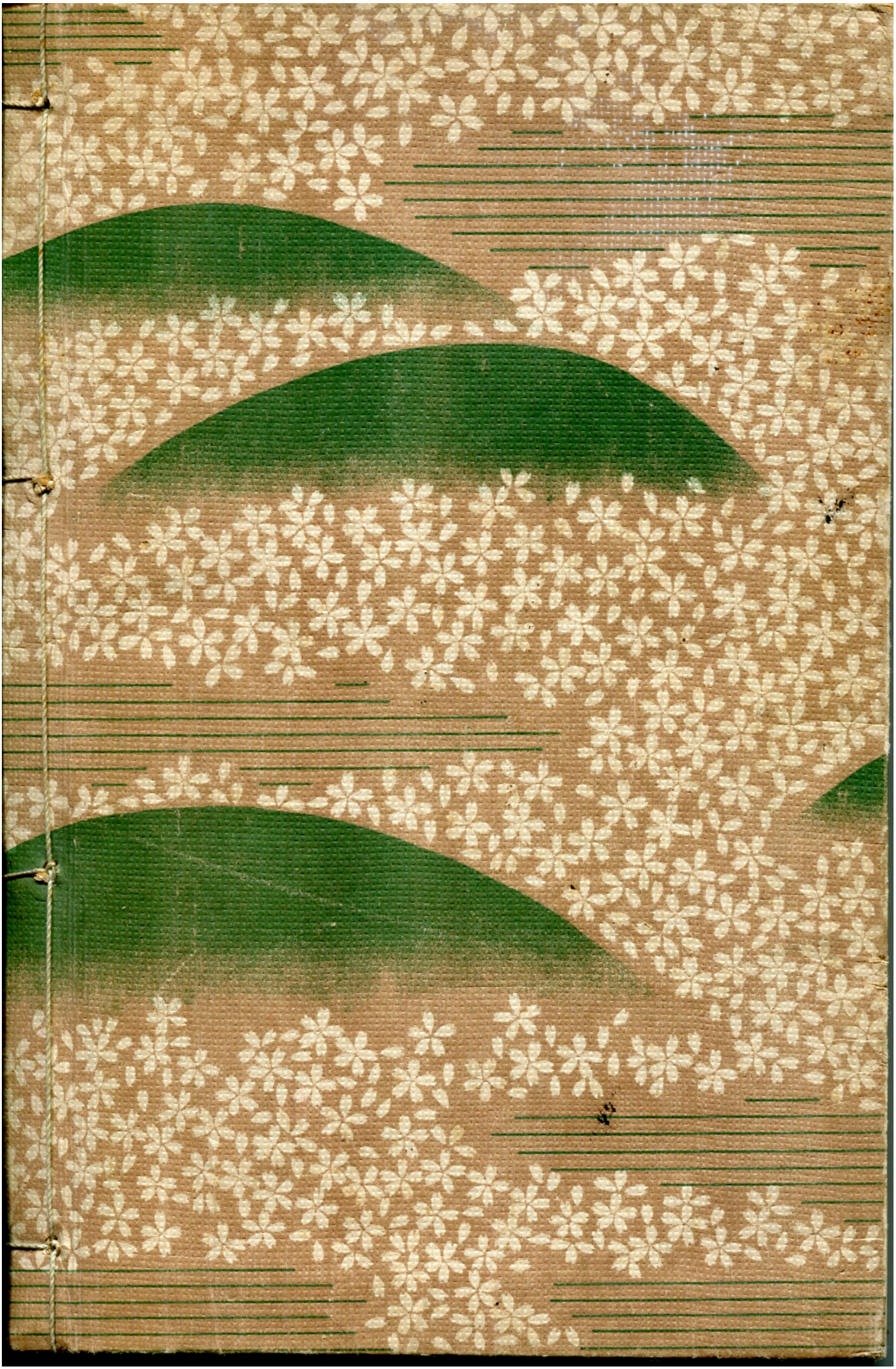
增訂裁縫新教科書奥附

〔定價〕上卷　金壹圓壹錢
　　下卷　金壹圓五拾八錢

著作者　共立女子職業學校　櫻友會裁縫研究部

發行者　東京市京橋區銀座一丁目五番地　大日本圖書株式會社
　　右代表者　專務取締役　杉山常次郎

印刷者　東京市京橋區新富町四丁目七番地　中西彦三郎

發行所　東京市京橋區銀座一丁目　振替口座東京二一九番　大日本圖書株式會社

不許複製